SimpleDEMViewer 7.5 SimpleDEMViewerAS 2.5

ユーザーマニュアル



AS (Mac AppStore) バージョンではプログラムがSandboxという形態をとる 必要があるため、制限を受ける機能/操作があります。異なる部分には <AS注> としてその都度特記しています。また最後のページにまとめて記述します。

2023年3月

©copyright 2004 - 2023, Yoshiaki Katayanagi http://www.jizoh.jp/

 概要 地図ウインドウ 陰影段彩図を描画 処理できる標高データ 設定できる内容 オプション機能 測地系 座標系 地球外天体の標高データ 	9 9 9 10 10 11 11 12
2. 標高データを準備 GTOPO30およびHYDRO1k ETOPO1、ETOPO2、ETOPO5およびGLOBE SRTM 3秒メッシュおよびSRTM 1秒メッシュ SRTM DTED level 0/1/2 (30/3/1秒メッシュ) SRTM30 plus 国土地理院の「数値地図1km/250m/50m/5m/2mメッシュ(標高)」 国土地理院の「数値地図10mメッシュ(火山標高)」 ASTER GDEM JAXA ALOS (AW3D30) GeoTiff USGSのascii形式 USGSのSDTS形式 BILフォーマット ArcAscii形式 netCDF形式 PDS形式 カシミール用圧縮形式 その他の形式のDEMについて	13
BIL形式データの要件 3. 標高データを読む データの読込 異種標高データの組み合わせ 起動時の自動読込み 名前付作業状態セットとして読込む 標高データの削除 4. 地図の操作 縮尺の変更と地図の移動 その他のスケールの指定 経緯度指定による位置付け ユーザデータの文字列検索による位置付け 索引図から位置付け スクロール 地図ウインドウの大きさ 経緯度と標高値の表示 情報表示	15 19 19 19 19 19 19 19 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20

	SimpleDEMViewer
5. 情報パネル	22
表示内容	22
操作	22
6. 索引図	23
索引図のスケール	23
DEMの範囲と地図領域の描画範囲	23
操作	24
7. 段彩や陰影を設定する(環境設定)	25
段彩色・段彩境界・グラデーション	25
データの無い領域の色	
南極とグリーンランドを白くする	
カスピ海周囲などの0m以下の土地を、0mのすぐ上の色で描画する。 湖沼を描画する	
DEMに海の指示が無い時、Omを海とみなす 海をデータ無し領域として処理する	
カラーセット	26
	26
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	27
画像の縦横比(基準緯度)	27
距離の単位	27
経緯度のコピー形式	27
標高の表示	28
起動時に前回の状態を復元する	28
湖沼データの保存場所	28
ワールドファイルを作成する	28
Retinaディスプレイの扱い	28
その他のボタン	28
8. 平面座標系を管理	29
ダイアログ	29
参照方法	29
GeoTiffでの自動処理	29
9. カラーセットを編集	31
概要	31
ダイアログ	31
編集結果の反映	32
10.カラーセットの管理、書出しと読込み	33
カラーセットを管理	33
書出し	33
読込み	33
11.湖沼データの作成と描画	34
湖沼データの作成	34
湖沼データの編集	34
湖沼データファイル	35
その他	35
12.作業状態の保存と復元	36

	SimpleDEMViewer
起動時の自動復元	36
名前付き保存と復元	36
保存と復元の対象	36
注意事項	37
13. 縮尺パネル	38
14. 標高データインスペクタ	39
標高データ中の個別の値を表示する	39
標高値を変更する	39
個別の値を変更する	40
全セルヘセット	40
選択した矩形領域の全セルヘセット	40
全セルをコピー	40
注意事項	40
15. 標高データの書き出し	41
新規標高データファイルを作成する	41
	41
注意事項	42
16. ユーザデータ	43
メモデータ	
経路データ	
領域データ	
16.1.メモデータ	44
	44
メモを作成する	45
画像ファイルから直接メモデータを作成する	45
メモを修正する	45
個別の変更	
一括変更	
画像やウエッブページを表示する	46
url形式	
urlの自動取得	
ウインドウの大きさ	
コメントをHTML構文で整形する	47
メモデータを共用する	47
メモを移動する	47
カスタムマークを利用する	48
<b>メモの初期設定</b> 「分類」の初期設定	48
「「「「」」の「「」」」の「「」」」の「「」」」の「「」」」では、「」」の「「」」」では、「」」の「」」」では、「」」の「」」」では、「」」の「」」では、「」」の「「」」の「」」では、「」」の「」」では、「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」	
国家やフェック・マンの扱いル メモロデータライブラリの堤所	
ドラッグ&ドロップで作成するメモデータの初期値	
メモ用データライブラリ	49
KMLファイルをメモデータとして読込む	49
162 経路データ	50
	50
「阪安」	50

	SimpleDEMViewer
経路データを作成する	50
経路データを修正する	51
個別の修正	
経路データの初期設定	52
	50
eUUノアイルを経路ナーダとして読込む	52
KMLノアイルを柱路ナーダとして読込む	52
16.3.領域データ	53
概要	53
領域データを作成する	53
領域データを修正する	53
個別の修正	
一括修止	
順 或石の 抽回 位 直 で 変更 9 る 領域データの 初期 設定	54
「分類」の初期設定	34
領域が画面上で小さい時表示しない	
領域が画面上で小さい時名称を表示しない	
KMLファイルを領域データとして読込む	55
16 4 GPXデータを読込んでメモ/経路データを作成する	56
	56
メビア シー 経路データ	56
	55
10.5.KIMLナーダをユーザメモ/栓路/領域ナーダとして読込む	57
スモノーター	
1111111111111111111111111111111111111	
	50
	6C
ユーサテーダを選択表示する	58
⑦ 規による設定 し イヤーに トス 歌字	
	58
ユーザデータの保存と読込み	59
読込み	
ユーザデータの一覧編集	59
一覧表示	
一括変更	
個別編集	
快米	
地図上で物別で唯認 聿史1.	
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	60
	00

16.7.ユーザデータとテキストファイルの書き出し、読み込み 61

書き出し
読み込み
テキストフォーマット

<ul> <li>17. テクスチャーマッピング</li> <li>テクスチャーマップダイアログ</li> <li>位置決め操作</li> <li>ワールドファイル</li> <li>サンプル</li> <li>注意事項</li> <li>18. 矩形領域を選択する</li> </ul>	66 66 67 68 68 68 70
<ol> <li>19. 経緯度をコピー/ペーストする テキストのフォーマット</li> <li>20. 外部の地図で場所を表示 「マップ」アプリケーションで表示する safariでGoogleマップに表示する</li> <li>21. 経路に沿った距離の測定</li> </ol>	71 71 73 73 73 73 74
<ul> <li>22. 最高/最低標高を探索する 操作 表示内容</li> <li>23. 等高線 設定ダイアログ ベクターモード その他</li> </ul>	75 75 75 76 76 77 77
24. 傾斜度合による描画 設定ダイアログ その他	79 79 79 79
25. 烏瞰図 鳥瞰図とは 設定ダイアログ 文字列の追加・編集。	80 80 80 81
<ul> <li>26. ステレオ画像</li> <li>平行視・交差視</li> <li>アナグリフ</li> <li>設定ダイアログ</li> <li>文字列の追加・編集。</li> <li>その他</li> </ul>	82 82 82 82 82 84 84
27. SRVC立体地図 SRVC立体地図とは 描画内容 設定ダイアログ 文字列の追加・編集。 注意事項	85 85 85 85 87 87

SimpleDEMViewer

28. 展望図	88
展望図とは	88
画像の投影法	
作成操作	88
設定ダイアログ	89
視点を決める	
万回を決める	
リフー設定 世面多姓	
油画米件 大唱を描画する	
入物で油画する ステレオ	
視点/日標点の検索ダイアログ	93
完成画像の操作	94
スクロール	
自動スクロール	
地点情報表示	
文字列の移動、変更、追加	
文字列設定ダイアログ	
視点や目標を再設定	
地図ウインドウの位置付	
展望凶設定余件の表示 	06
設定情報の者面して読込み スの他	90
	90
29. 3DA-E-	97
概要	97
機能	97
回転セート	
ノフ1 トモート 妙帕エード	
ションシュート	98
	100
ムービーとして保存する	101
注意事項	101
30. 可視領域の描画	102
可視領域とは	102
操作	102
その他	103
31. 断面図	104
作成	104
表示項目と設定	104
画像を保存	105
その他	105
32. グレースケール画像	106
作成	106
文字列の追加・編集。	107
画像を保存する	107

SimpleDEMViewer

	ShipleDE
33. 図法指定による画像	108
図法画像	108
図法画像を作成する	108
正射図法	110
円錐図法	110
メルカトール図法	110
正距方位図法	111
正積方位図法	111
UTM図法	111
ランベルト正角円錐図法	112
文字列の追加・編集。	112
画像ファイルとして保存	112
投影中心を別にした画像サンプル	112
34. 画像ウインドウの操作	113
縮小表示	113
情報表示	113
画像を保存	114
35. 画像を保存する	115
地図画像の保存	115
その他の画像ウインドウ	116
ワールドファイルを作成する	116
GeoTiffとして保存する	117
GPS情報を書込む	117
36. データを削除	118
37. メニュー構成	119
メインメニュー	119
地図領域のポップアップメニュー	120
展望図のポップアップメニュー	121
38. ASバージョンの制限事項	122

## 1. 概要

## 地図ウインドウ

地図ウインドウ(メインウインドウ)は地図領域とサイ ドバーで構成されています。地図領域には読み込んだ標高 データに基づいた陰影段彩図を描画します。サイドバーに は標高データの種類や段彩などの地図情報と、索引図を表 示します。サイドバーを消して地図領域だけにすることも できます。索引図には広域の地図の中で、今どこが地図領 域に表示されているのかを示します。

プログラムが動いている間、地図ウインドウは常に表示 されます。全画面表示にも対応しています。

	SimpleDEMViewer
情報パネル	地図領域
索引図	

#### 陰影段彩図を描画

標高データ(地表を升目に区切ってそれぞれの地点の海面からの高さを数値として集めたデータ)を読み込んで、画面上に地形を表現します。このとき高さに応じた色分け(段彩)や、陰影を付けて見やすくします。陰影の方向は8方向から選択でき、地形の識別をしやすくできます。光の方向による陰影処理だけでなく、傾斜による処理もできます。

地図投影方法は「正距円筒図法」となります。南北方向の距離は正しく表現できますが、東西方向は緯 度により変化します。高緯度でも縦横比

をほぼ合わせられるように調整する機能 (基準緯度の設定)もあります。

図は陰影段彩図(富士山付近)SRTM

3秒メッシュ標高データを利用。

経緯度線を描画したり、マウスポイン トの経緯度と標高値を表示できます。 米国のUSGSやNASAのサイトからダウ

ンロードできるGTOPO30やSRTMな

ど、また国土地理院が発行する数値地図などの

標高データをサポートしています。基盤地図情報の標高データも別の ユティリティプログラム「基盤地図標高変換」を使用してBil形式に変 換したものを読込めます。

海底深度のデータも持っているETOPO1/2/5やGEBCOも使えま す。右図はETOPO2を使用したフィリピンとその周辺で、円錐図法で 作画しています。

## 処理できる標高データ

以下のデータを処理できます。

異なる種類の標高データを同時に読み込んで描画できます。その際はデータ間隔の小さい標高データを優 先描画します。優先描画したデータの範囲に「データ無し」領域がある場合、他のデータを描画します。 UTMその他の平面直角座標系データの場合、同じ座標系のデータか、間隔が広い(粗い)経緯度形式の データと組み合せることができます。アドレス無しデータの場合は単独ファイルでの表示だけです。

- .GTOPO30(30秒メッシュ)
- ・ETOPO1(1分メッシュ、BilやGeoTiffとして処理)
- . ETOPO2 (2分メッシュ)



グラデーション無し

グラデーション有



- ・ETOPO5(5分メッシュ)
- .GLOBE (30秒メッシュ)
- ·SRTM(1秒メッシュ、3秒メッシュ)
- ·SRTM DTED(1秒、3秒、30秒メッシュ)
- ・USGSのascii形式DEM(Geo(経緯度で区切られた物)とUTMの2種類がある。)
- ・USGSのSDTS形式DEM (Geo および UTM )
- ・国土地理院の「数値地図1km/250m/50m/5m/2mメッシュ(標高)」
   <AS注>5m/2mはサポート対象外です。
- ・国土地理院の「数値地図10mメッシュ(火山標高)」
   <AS注>サポート対象外です。
- ・BIL形式の各種データ(Geo/UTM/平面直角座標のアドレス形式、16/32ビットのデータ長) 基盤地図情報の標高データもこの形式で処理できます。
- ・Arc Ascii 形式の標高データ。(ファイル拡張子が "ASC" のもの)
- ・HYDRO1k(経緯度データ無し、1kmメッシュ)
- . ASTER GDEM (GeoTiff形式、1秒メッシュ)
- GeoTiff標高データ
- ・netCDF形式DEM(GMT互換形式、 ファイル拡張子が "GRD" のもの)
- . PDS DEM (NASAの天体標高データ。ファイル拡張子が "IMG" のもの)
- .カシミール用圧縮形式標高データ(ファイル拡張子が "DCM" のもの)

## 設定できる内容

- . 段彩の色と境界。
- . 段彩の設定とは別に南極とグリーンランドを白く描画するかどうか。
- ・色を連続的に変化させるグラデーションの有無。
- .湖沼の描画の有無と、色の設定。
- ・複数種類の標高データを組み合せたとき、海部をデータなし領域として扱い、他のETOPO2等の海底標 高を持つデータで描画するかどうか。
- ・陰影の有無、強さ、光の方向。
- . 拡大/縮小表示(標高データに対する比で2000%~5%)。
- ・経緯度線の間隔と色、線の太さ。
- ・南北方向に対する東西方向の比率(基準緯度を指定し、その緯度で縦横比を1にする)。
- ・世界の国、地域独自の平面座標系を設定する。

## オプション機能

- ・最高/最低標高値を探索する。
- .標高データを修正/改変する。
- .修正/改変した、あるいは集成した標高データを新たな標高データファイルとして保存する。
- . 湖沼データの作成と描画。
- . 等高線の描画。
- ・傾斜度合による色分け描画。
- テクスチャーマッピング。
- . 鳥瞰図の作成。
- ・ステレオ画像の作成。(立体視)
- ・SRVC立体地図の作成。(傾斜、尾根谷度、曲率を基にしたレリーフマップ)
- ・展望図の作成。(特定の地点から周囲を眺める)
- ・3Dムービー(地形の中をリアルタイムで移動。地形を回転)

・可視領域の描画。(特定の地点から見える範囲を地図上に描画)

- . 断面図の作成。
- . グレースケール画像の作成。
- . 正射図法による画像の作成。
- ・ 円錐図法による画像の作成。
- ・メルカトール図法による画像の作成。
- .正距方位図法による画像の作成。
- .正積方位図法による画像の作成。
- ・UTM図法による画像の作成。
- . ランバート正角円錐図法による画像の作成。
- ・ 経路に沿った距離の測定。
- ・画像をファイルに保存。
- . 任意の場所へメモ、経路、領域データの書込み。(ユーザデータ機能)
- ・gpx形式のGPSデータファイルを読込んで、ユーザデータとして表示。
- ・E00形式のArc-Infoデータファイルを読込んで、ユーザ経路データとして表示。
- ・KML/KMZデータファイルを読込んでユーザデータとして表示。
- . ユーザデータをテキストファイルとして書き出し、また読み込む機能。

#### 測地系

天体のデータを除き常にWGS84世界測地系です。ただし段彩図の描画、距離、面積の計算などは半径 6371kmの真球として処理しています。

WGS84以外が指定されている標高データもすべてWGS84と見なしてそのまま処理します。ただし国土 地理院が発行しているファイル拡張子が以下の標高データは、旧日本測地系による区画ですがWGS84に変 換して処理します。これらに対してはファイル境界に線が出ることがあります。特にTEM(1km)、 SEM(250m)では目立ちます。

該当する拡張子: TEM / SEM / MEM / LEM

(注意)日本地図センターが発売している、「JMC 50mメッシュ(標高)」「JMC 5mメッシュ(標高) 東京都区部」は世界測地系となっており、正しく処理できません。GeoTiff形式を利用してください。

#### 座標系

標高データの持つ座標系に依存します。複数種類の標高データがある時は最も狭い間隔を持つ標高デー タに依存します。例えば10mメッシュのUTM座標のデータと1秒メッシュの経緯度区切りデータを読込ん だ場合UTMで描画します。

どの座標系でも、南北方向のデータ間隔を画面の1点として表示する状態が100%スケールです。ただし Retinaディスプレイの場合は画面の4点(2 x 2)に対応します。

#### 経緯度区切り標高データ

正距円筒図法となります。基本は赤道で地球面と接した円筒です。しかし狭い範囲を描画する場合、赤 道近辺以外では歪みが大きくなるので、指定した緯度で縦横比が1:1になるようにできます。(<u>基準緯</u> 度を参照)

UTM座標、19平面直角座標の標高データ

それぞれUTM座標、19平面直角座標となります。東西方向の描画範囲は、中央経線の両側、赤道上で6 度に相当する距離(約667km)までです。高緯度地方では10度以上も離れることがありますが、6度以上 離れると精度が下り、10度以上離れた地域には経緯度線やユーザデータを描画できません。 その他の平面座標系標高データ

当プログラムではUTM以外の平面座標系のデーター般を指しますが、国土地理院の平面直角座標系だけ が特別扱いです。UTM同様の横メルカトール図法を使用し、WGS84に準拠した平面座標については、そ のパラメータを設定することで、標高データを経緯度とリンクした形で扱えるようになります。この場合 描画範囲は前項同様の制限が付きます。GeoTiffの場合は条件に合うならば、事前にパラメータを設定して いなくとも自動で平面座標系管理テーブルに登録します。(平面座標系を管理を参照)

条件を満たしていない平面座標系は経緯度とリンクせず、複数のデータを指定された位置に合わせて配 置できる以外は、アドレスなしデータとして扱います。

ファイル形式としてはbil、GeoTiff、ArcAsciiをサポートします。

座標系が異なるデータでも判別はできないので、同じ座標系に属するデータかどうかはユーザの判断に 任されます。

アドレス無し標高データ

単独ファイルのみの表示です。縦横比が1:1になるように表示します。通常は縦横のデータ間隔が同 一ですが、異る値が指定されている場合は、それに合せて横方向を拡大/縮小します。

経緯度とリンクしないので、ユーザデータの描画や、経緯度線の描画はできません。

(注)次章以降ではUTM、19平面直角座標系、「平面座標系を管理」で定義した平面座標系を合わせて「UTMおよびその他の平面座標系」と総称します。

#### 地球外天体の標高データ

PDS形式およびBIL形式標高データで、地球外天体を扱えます。BIL形式の場合の指定方法は<u>BIL形式</u> <u>データの要件</u>を参照。PDS形式標高データはファイル拡張子が IMG のもののみサポートします。ファイル 情報がファイル拡張子 LBL の別ファイルとして添付されるものがあります。この場合同じフォルダに存在 していることが必要です。指定された半径の真球とし、経緯度区切りのみのサポートです。以下の機能は 使用できません。

- ・ UTM図法画像の作成。
- ・ 展望図の海の描画、太陽の描画。
- ・ 南極とグリーンランドを白くする。
- ・ カスピ海周囲などのOm以下の土地を、Omのすぐ上の色で描画。

## 2. 標高データを準備

標高データは付属していないので、まずこれを調達する必要があります。標高データはインターネット サイトからダウンロードできるものも多くあります。日本のデータとしては国土地理院が発行している 「数値地図1km/250m/50m/2mメッシュ(標高)」、「数値地図10mメッシュ(火山標高)」、基盤地 図情報の標高データ(10m/5mメッシュ)がよく使われます。数値地図は市販されているものです。基盤 地図情報の標高データは国土地理院のサイトから無料でダウンロードできます。

#### GTOPO30およびHYDRO1k

どちらも1kmメッシュのデータです。GTOPO30は経緯度で区切られたデータで全地球を33面に分割しています。HYDRO1kは大陸別となっており、経緯度情報はありません。

USGSのElevation data サイトからダウンロードできます。データが古いので、下記のSRTM30などを 推奨します。

### ETOPO1、ETOPO2、ETOPO5およびGLOBE

米国のNational Geographic Data Centerのサイトから入手できます。それぞれ1分/2分/5分/30秒 メッシュの標高データです。 ETOPO1/2/5は海底のデータも持っています。

ETOPO1はbil、GeoTiffまたはnetCDF形式で提供されており、当プログラムではそれぞれの形式として扱います。

#### SRTM 3秒メッシュおよびSRTM 1秒メッシュ

スペースシャトルからレーダーで取得したデータを基にしたもので、南緯50度から北緯60度の範囲が 作成/公開されています。取得方式の性格から一定の誤差があり、海面も凸凹です。また山岳地帯などで データが取得できていない領域があります。経線方向、緯線方向共に1度で区切られた範囲を一つのファ イルにしています。

解説はNASAのShuttle Radar Topography Missionサイトにあり、ダウンロードサイトもここからリ ンクされています。

改良版が提供されていて、SRTM3 Ver.4では海は0mに統一されており、ほとんどの欠損部も補間されています。主な湖も湖面の標高が一定に編集されています。

#### SRTM DTED level 0/1/2 (30/3/1秒メッシュ)

前項のデータの海面や湖面、一部のデータ無し領域を修正したものです。USGSからDVD-Rで提供されています(有償)。USGSのSRTMサイトから "Obtaining Finished SRTM data" へ進んでください。3 秒/30秒メッシュはpublic domain ということなので、他の入手方法もあるかと思います。

### SRTM30 plus

SRTMのデータをもとにした30秒メッシュのデータで、海底標高が追加されています。名称の先頭7文 字がGTOPO30と同じで、ファイル拡張子が "SRTM" です。

#### 国土地理院の「数値地図1km/250m/50m/5m/2mメッシュ(標高)」

#### 国土地理院の「数値地図10mメッシュ(火山標高)」

(財)日本地図センター(JMC)を通じて市販されています。地形図を扱う書店などで購入できます。 5m/2mメッシュ および火山標高はファイル拡張子が "LEM" で、平面直角座標です。 5m/2mメッシュ および火山標高の水部は「データ無し領域」として処理します。

「基盤地図情報」の標高データについては下の「BILフォーマット」を参照。

<AS注>5m/2m及び10m(火山標高)はサポート対象外です。

#### ASTER GDEM

SRTM同様人工衛星のセンサにより地形データを取得した物で、SRTMよりも南北に広い範囲を1秒 メッシュで公開しています。 <u>https://gdemdl.aster.jspacesystems.or.jp</u> からダウンロードできます。 GeoTiffフォーマットです。

2019年秋からバージョン3となっており、海や河川、湖沼の範囲を指定するWBDファイルが添付されて います。当プログラムではその内attファイルを読み込んで海のデータのみ処理します。

<AS注>読み込む時に上位フォルダを選択して読み込まないと、WBDファイルを検出できません。

#### JAXA ALOS (AW3D30)

やはり人工衛星のセンサにより地形データを取得したもので、1秒メッシュでGDEMとほぼ同等の範囲 です。宇宙航空研究開発機構(JAXA)が無償で公開しています。

http://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/aw3d30/index_j.htm

海や欠落部の情報が別ファイルで提供されており、一緒にダウンロードされます。このマスクファイル が同じフォルダに存在しない時は、一般のGeoTiff DEMとして処理します。

<AS注>読み込む時にフォルダを選択して読み込まないと、マスクファイルを検出できません。

#### GeoTiff

外見的にはTIFF形式のファイルに標高データを埋め込んだ物で、各種が公開されています。ASTER GDEM、JAXA ALOSやSRTM V4 もこの形式で公開されています。

データの種類は各種ありますが、経緯度区切り、UTMおよびその他の平面座標系で、測地系がWGS84 の物をサポートしています。他の測地系もWGS84とみなして処理します。他のデータと組み合わせる時は 注意してください。座標系を特定するためにインターネットにアクセスします。その他の平面座標系で、

「平面座標系を管理」のテーブルに登録されていない場合、一時的なものとして登録します。(「<u>平面座標</u> <u>系を管理</u>」を参照)座標系を特定できない場合はどの座標系で処理するか問い合わせますが、多くの場合 「経緯度リンクなし」を選択することになります。

<AS注>Openパネルでは単純な画像ファイルと区別できないので、ユーザが選択し読み込んだ後で、DEMではない とメッセージを出します。

#### USGSのascii形式

USGSやUSの大学のデータセンターなどで各種入手できます。経緯度で区切られたデータと、UTM方式 のデータがあります。

ファイル拡張子は "DEM" であることが必要です。

#### USGSのSDTS形式

経緯度で区切られたデータと、UTM方式のデータがあります。一個のDEMをファイル拡張子が "DDF" の複数ファイルで構成しています。読込みダイアログで選択できるのは xxxxxxCEL0.DDFファイルだけで すが、他のファイルも必要です。

2015年頃からこれも廃止の方向のようです。新しい3DEPではbilなど一般的な形式を採用しています。 <AS注>常にフォルダを選択して読み込みます。

BILフォーマット

USGS や U.S. の大学のデータセンターなどで各種入手できます。SRTMもこのフォーマットで入手できます。

BILフォーマットの要件は次ページを参照してください。

国土地理院の「基盤地図情報」サイトにある各種標高データをダウンロードし、bil形式に変換して処理 することができます。品川地蔵のサイトにある「基盤地図標高変換」を参照。

#### ArcAscii形式

ArcInfoの外部連携用テキスト形式標高データです。ファイル拡張子は "ASC" で、経緯度区切りとUTM およびその他の平面座標系とをサポートします。標高の単位は常にメートルとして処理します。

UTMのときは読み込み時にゾーン番号を、19平面直角座標の時は座標系番号を問い合わせます。またその他の平面座標系の時は、平面座標系を管理で設定した座標系IDを選択できます。

#### netCDF形式

netCDFにはいろいろなデータがありますが、その中でファイル拡張子が"GRD"でGMT互換のものを サポートします。ファイル拡張子が"GRD"でもnetCDF形式でないものがあります。またnetCDF形式で もDEM以外の場合があり、誤認する可能性もあります。DEMファイルであることを確認してから使用して ください。

#### PDS形式

PDSはPlanetary Data System の略でNASAが中心になってまとめたものです。ファイル拡張子が IMG で標高データだけでなく画像やセンサデータなどもあります。ファイル拡張子がIMGのファイルはそ のほかにも各種ありますし、Macではディスクイメージファイルとして認識されますが、当プログラムで は自動で識別します。

ファイルの内容を記述したデータをファイル拡張子が LBL の別ファイルとしているものがあります。この場合はそのファイルも同じフォルダ内にないと正しく認識できません。

<AS注>Openパネルではサポート外のファイルと区別できないので、ユーザが選択し読み込んだ後で、サポート外またはDEMではないとメッセージを出します。

#### カシミール用圧縮形式

MS Windows用のプログラム「カシミール」用の標高データです。ファイル拡張子が "DCM" のもので、 カシミールで作成します。過去には市販されていたものもありましたが、現在では入手できません。

#### その他の形式のDEMについて

国土地理院基盤地図情報の標高データ

品川地蔵サイトの「基盤地図標高変換」を用いてbil形式またはGeoTiffに変換することで利用できます。 XYZ(テキスト)形式標高データ

品川地蔵サイトの「XYZ標高変換」を用いてbil形式に変換することで利用できるものがあります。

#### BIL形式データの要件

BIL形式標高データを処理するためにはそのデータが下記要件を満たしていることが必要です。大文字小文字の違いは無視します。

- ・DEMデータの本体は1個のデータが16bitまたは8bitの符号付き整数、あるいは32bitの浮動小数である こと。
- ・標高値はメートルかフィート単位。フィートの場合読み込み時にメートル単位の32bit浮動小数に変換する。
- ・データ間隔は度または秒単位。ただし平面座標系、およびアドレス無しの場合はメートル単位。
- ・地図領域の左上から右上、1行ずつ下がって左下、右下の順に配列されていること。
- ・改行文字は無いこと。
- ・ファイル拡張子が "BIL"、"DEM" または "FLT" であること。"FLT" の場合は常に32ビット浮動小数で す。
- ・ファイルサイズが ヘッダーファイルに記述されている カラム数x行数x2(8bitデータの場合はx1、32bit データの場合はx4) と一致すること。(SKIPHEADを指定した場合、指定した値を加える)
- ・本体と同じフォルダ内に同名で拡張子が "HDR" のファイルがあり、次の3行が記述されていること。

NCOLS 横ドット数

NBITS データのビット数(16,32または8であること)。32ビットのデータは浮動小

数点数で、他は整数です。ファイル拡張子が "FLT" の場合は省略可。

オプションとして以下の内容を指定できる。これ以外の指定は無視する。

- BYTEORDER バイト順序(Iまたは LSBFIRST を指定した場合インテル形式。それ以外を指定するか省略の場合モトローラ形式)
- ULXMAP データの左上隅ピクセル中央の経度を度単位で指定。西経はマイナス。UTMの 場合はY座標。

(例 135.50000000)

ULYMAP データの左上隅ピクセル中央の緯度を度単位で指定。南緯はマイナス。UTMの 場合はX座標。

(例 -20.333333333)

- XLLCORNER データの左下隅ピクセルの左下の経度を ULXMAP同様の形式で指定する。
- YLLCORNER データの左下隅ピクセルの左下の緯度を ULYMAP同様の形式で指定する。
- XLLCENTER データの左下隅ピクセルの中央の経度を ULXMAP同様の形式で指定する。
- YLLCENTER データの左下隅ピクセルの中央の緯度を ULYMAP同様の形式で指定する。
- XULCORNER データの左上隅ピクセルの左上の経度を ULXMAP同様の形式で指定する。
- YULCORNER データの左下上隅ピクセルの左上の緯度を ULYMAP同様の形式で指定する。
- XULCENTER ULXMAPと同じ。
- YULCENTER ULYMAPと同じ。
- ULXMAP/ULYMAP、XLLCORNER/YLLCORNER、XLLCENTER/
   YLLCENTER、XULCORNER/YULCORNER、XULCENTER/YULCENTERの
   組み合わせのいずれかを指定します。複数指定した場合結果は保証しなません。
- XDIM 東西方向のデータピッチを度単位または秒単位で指定。0.1以上は秒単位として 処理する。ただし地球外天体の場合は1.0以上を秒単位とします。UTMおよびそ の他の平面座標、アドレス無しの場合はメートル単位で、最低 0.1m。

(例 3秒メッシュなら 0.0008333333 または 3.0

YDIM 南北方向のデータピッチをXDIMと同様に指定する。

- CELLSIZE データピッチが南北方向と東西方向で同じ場合、その値を XDIM と同じフォーマットで指定する。この場合 XDIM および YDIM は指定しない。
- UTMZONE UTMのゾーン番号を1から60の整数値で指定する。南半球の場合は-1から-60の 範囲の整数で指定する。UTM形式でない場合は指定しない。
- XYPLANE 19平面直角座標の座標系番号を1から19の整数値で指定する。あるいは平面座 標系を管理で設定した座標系IDを指定する。0を指定すると「その他の平面座 標」となる。それ以外の場合は指定しない。座標系IDが平面座標系管理テーブル に存在しない場合、0を指定したものとして処理する。座標系IDがスペースを含 む場合は「"」(二重引用符)で囲む。
- SEALEVEL データ中の海の値を指定する。これを指定せず、次のNODATAで-9999mを指定していなければ、-9999mを海として処理する。
- NODATA データ欠落部がある場合、その値を指定する。

NODATA_VALUE NODATA と同じ。

- ELEVATIONUNIT 標高データの単位がフィートである場合 F を指定する。メートルの場合は指定しない。
- SKIPHEAD ファイルの先頭に標高データ以外の情報が含まれている場合、スキップするバイト数を指定する。

RADIUS 地球以外の天体の平均半径をkm単位で指定する。数値の代わりに月、水星、金 星、火星については MOON / MERCURY / VENUS / MARS の文字列でも指 定できる。 この項目を指定した場合、座標系は常に経緯度です。それ以外を指定した場合読 み込めません。またたとえ地球の半径を指定した場合でも、地球以外の天体とみ なします。

指定された経緯度が((-90,90),(-180,180))の範囲外のとき、UTMZONE も XYPLANE も指定されてい ないと「その他の平面座標 ( XYPLANE 0 )」として処理します。

HDRファイルで ULXMAP から CELLSIZE が指定されていない場合、同じフォルダ内に同名で拡張子が "BLW"のファイルがあり内容が正しく記述されていれば経緯度で区切られたデータまたはUTM形式の データとなります。このファイルもない場合は経緯度情報無しとして処理します。

BLWファイルは6行からなり、各行には1個の小数が指定されていること。各数値は次の値を示します。

- 第1行 XDIM と同じ。
- 第2行 無視
- 第3行 無視
- 第4行 YDIM と同じ。但し常にマイナス符号が付く。
- 第5行 ULXMAP と同じ。
- 第6行 ULYMAP と同じ。

<hdr サンプル1> 経緯度区切り、1秒メッシュ、16ビット整数

BYTEORDER I

NROWS	3600
NCOLS	3600
XDIM	1.0
YDIM	1.0
ULXMAP	139.000138888
ULYMAP	35.999861111
NBITS	16

ULYMAP 139100.00

<hdr サンプル2> 経緯度区切り、0.5秒メッシュ、32ビット小数

byteorder	lsbfirst	
nrows	7200	
ncols	7200	
cellsize	0.5	
xllcorner	139.0000	
yllcorner	35.0000	
nbits	32	(本体のファイル拡張子が "FLT" の時は省略可)
<hdr td="" サンプル3<=""><td>3&gt; 平面直流</td><td>角座標帯14、2,5mメッシュ、16ビット整数</td></hdr>	3> 平面直流	角座標帯14、2,5mメッシュ、16ビット整数
BYTEORDER	I	
NROWS	520	
NCOLS 4	400	
NBITS 1	6	
ULXMAP	-111700.00	

SimpleDEMViewer

 XDIM
 2.50

 YDIM
 -2.50

 XYPLANE
 14

## 3. 標高データを読む

### データの読込

「ファイル」メニューの「読込む…」でファイル毎か、フォルダを指定して読み込みます。フォルダを指 定したとき、「2階層下まで読込む」がチェックされていると、選択したフォルダの中にあるフォルダの 直下にあるファイも読込みます。

<AS注>SDTSとJAXA ALOSについては常にフォルダ指定で読み込みます。

種類やメッシュサイズの違う標高データも同時に読み込んで描画することができます。ただしUTM座標 やその他の平面座標系の場合は、同じ座標帯に属するデータしか読み込めません。UTM座標やその他の平 面座標系のデータと経緯度区切りデータの場合、経緯度区切りデータの方が粗い場合共存できます。アド レス情報の無いデータは常に単独となります。

読み込んだデータは自動的に表示されます。最後に読み込んだデータを画面の中央に配置し、横方向が ウインドウ内に全部見える大きさより一段上の大きさに設定します。ただし100%を超える場合は100%で 表示します。

標高データファイルをダブルクリックしたり、APPアイコンへ標高データファイルや、それを含むフォ ルダをドロップすることでも読込めます。

#### 異種標高データの組み合わせ

- ・複数種類のデータを読み込んだときは、メッシュ間隔の一番小さいデータがスケールの基準になります。
   それがUTMおよびその他の平面座標系のデータの場合は、全体がUTM座標またはその他の平面座標で表示されます。UTM座標とその他平面座標のデータを組み合わせることはできません。またUTM座標同 士、19平面直角座標同士でも座標帯(ゾーン)が異なる場合は共存できません。
- ・ベースがUTMおよびその他の平面座標系のときは、中央経線の両側667kmを超える部分は描画しません。地図画像の保存等で「データ領域全体」を指定した場合にも適用されます。また経度で6度以上離れる領域の位置精度は悪くなり、描画された経緯度線とマウスポイントの経緯度も食い違ってくることがあります。
- ・UTMおよびその他の平面座標系のデータは、よりデータ間隔の狭い経緯度基準データと組み合わせることはできません。その場合UTMおよびその他の平面座標系のデータは無視されます。
- ・異なる天体のデータを組み合わせることはできません。

### 起動時の自動読込み

起動時に前回終了時の状態を自動的に復元する機能があり、標高データも自動的に読込まれます。これ をスキップしたい場合はshiftキーを押しながら起動します。詳細は「<u>作業状態の保存と復元</u>」の項を参照 してください。

### 名前付作業状態セットとして読込む

あらかじめ名前を付けて保存した作業状態セットを読込むと、関連するファイルとして標高データも読 込みます。詳細は「<u>作業状態の保存と復元</u>」の項を参照してください。

### 標高データの削除

「ファイル」メニューの「データを削除」でダイアログを呼出し、削除したいデータを選択して削除し ます。「<u>データを削除</u>」の項を参照。

削除しないまま共存できない標高データを読み込もうとしたときは、以前のデータを削除するか、読込 みを中止するか問い合わるダイアログが出ます。

## 4. 地図の操作

### 縮尺の変更と地図の移動

「表示」メニューのスケールで指定%を選択するか、「その他」で%数値で指定します。あるいは「大きくする」「小さくする」を選択します。メニュー選択時点のウインドウの中央地点を維持したまま拡大または縮小します。ただし北極または南極に近い場合、あるいは縮尺が小さくて中心を維持すると、上下に隙間ができてしまう場合は、隙間が無くなるように上または下に寄ります。全体がウインドウ内に収まる場合は中央に表示します。

ポップアップメニューから「スケール」あるいは「中央へ移動」を選択したときは、ポップアップメニュー を出した地点が中央になるように再描画します。

トラックパッドでのピンチ動作による拡大縮小もサポートしています。この場合、その時点のマウスカー ソル位置を維持するように拡大縮小します。

ETOPO2やETOPO5で世界全体がウインドウよりも小さくなる場合はウインドウの中央に表示され、外 側は黒くなります。経緯度のないデータやUTMおよびその他の平面座標系データの場合も、全体が表示で きる場合はウインドウの中央に表示します。

### その他のスケールの指定

スケールメニューから「その他」を選択するとダイアログを表示し、以下のような設定ができます。

%指定 標高データを基準に5%~2000%の範囲のパーセントで拡大縮小率を指定する。小数点 以下は、表示時は3桁ですが入力はそれ以上できます。

1単位の距離 画面(画像)の1ピクセル(Retinaの場合は2ピクセル)が実際の何メートル(または km/ヤード/マイル/海里)になるか指定します。あるいは画面上の1cm / 1 インチに対 応する距離で指定します。)

縮尺指定 縮尺を何分の1にするか指定します。

2、3項はウインドウ中央の南北方向が基準です。実際の画面の解像度には関係なくドット密度は 72dpi(dots per inch)として計算します(Retinaの場合は144dpi)。値を設定した後「計算する」ボタンを クリックすると%値が設定されます。このとき表示は小数点以下3桁ですが実際には10桁くらいの有効桁 数があります。

#### 経緯度指定による位置付け

「検索と移動」メニューの「指定アドレスへ移動」でダイアログを呼出し、経緯度を指定して移動する ことができます。移動後に、指定した地点にマークを付けて明示できます。

よく移動する地点に名前を付けて記憶でき、以降名前で参照して移動できます。この名前は保存されメ ニューから選択できます。

### ユーザデータの文字列検索による位置付け

後述のユーザデータの文字列を検索してウインドウ内に表示できるように地図を位置付けます。「文字 <u>列検索による地図の位置付け</u>を参照。

#### 索引図から位置付け

索引図で表示中を示す白枠内でクリックしドラッグします。マウスボタンを開放したとき、その場所が 地図ウインドウに表示されます。また索引図内の任意の場所でダブルクリックすると、その場所を中心に して地図領域を描画します。「<u>索引図</u>」を参照。

## スクロール

ドラッグスクロール、ホイールマウスのホイールによるスクロール、またトラックパッドのスクロール ジェスチャーによるスクロールをサポートしています。

矢印キーによる1ドット(Retinaの場合は2pixel)ずつのスクロールができます。キーリピートは無視します。

経緯度区切りの標高データの場合、東西方向には無限にスクロールできます。

### 地図ウインドウの大きさ

地図ウインドウの地図描画領域の大きさをポイント数で指定できます。「表示」メニューの「ウインド ウの大きさ」で、地図領域の大きさを、ポイント数で設定します。最小は横幅 600 x 高さ 500 です。 Retinaディスプレイの場合1ポイントは画面の2ピクセルに相当します。Retinaでなければ1ポイントは 1ピクセルです。

#### 経緯度と標高値の表示

地図領域上でoptionキーを押しながらマウスを動かすと、その近く にマウスポイントの経緯度と標高値を表示します。標高値は「環境設 定」の指定により、一番近い標高データの値か、補間計算の結果か、 どちらかを表示します。

標高値はDEMが整数型の場合は整数で、それ以外は小数点第1位ま で表示します。DEM領域外、データ無し領域、海はそれぞれ n/a 、 void 、sea と表示します。基盤地図情報の5mメッシュは海とデータ 無し領域の区別をしないので、海も void 表示となります。



### 情報表示

メインウインドウを前面に出した状態でファイルメニューの「情報表示」を選択して現在読み込んでいる 標高データの情報を表示します。読み込んでいる標高データが複数種類あればそれぞれについて 種類/ データ間隔/読み込み済みのファイル数 を表示します。また地図領域中央の縮尺、経緯度を表示しま す。

基準となる標高データの種類 データ間隔 ファイル数	BIL(float) 0.4 sec 南北 0.4 秒、 東西 0.4 秒 4
その他の標高データ データ間隔 ファイル数	GDEM 南北1秒、東西1秒 23
ウインドウ中央の縮尺	南北方向 1/ 105,000 東西方向 1/ 107,000
ウインドウ中央の経緯度	N35.21.38 E138.43.39
	UK

カラーセットを編集

3 (標準) ᅌ

٢

٢

## 5. 情報パネル

読込んである標高データの種類や、現在のスケール、カラー設定を表示します。陰影、カラーセットの選 択ができ、即座に地図領域に反映されます。

-----

## 表示内容

.__ .

標高テータ	読込んである標高データの種類を示します。UTMや 19平面直角座標の時はゾーン番号あるいは座標系番 号も表示します。平面座標系を管理で定義した座標 系の場合は、そのIDを表示します。	BIL 30 sec 33.33 % スケール: 1/ 7,880,000 基準緯度: 37 度
スケール	標高データの1セルを1ピクセル(retinaのときは	経緯度線: 5 度
	2x2の4ピクセル)に表示した状態を100%とした	
	時の拡大/縮小率を表示します。	陰影処理 光による
	また画面のドット密度が72dpi(retinaのときは	陰影の強さ 3 (標準)
	144dpi)としたときの、地図として南北方向のス	カラーセット
	ケールを分数形式で表示します。東西方向は異なる	etopo
	ことがあります。	m
基準緯度	標高データが経緯度区切りの時、基準緯度を表示し	5,000
	ます。	3,000
経緯度線	経緯度線の間隔を表示します。経線の間隔と緯線の	1,000
	問隔が異なる時は (経線の間隔) / (緯線の間隔)	200
	のように表示します	100
险总加田		-200
医家处理	現任週用されている陰影処理の催頬を示します。ま	-1000
	たメニューから選択できます。	-3,000
陰影の強さ	陰影処理の強さを示します。またメニューから選択	-5.000
	できます。「傾斜+光」を選択した時の「光による	0,000
	陰影の強さ」は環境設定で変更します。	海 二 二
カラーセット	現在適用中のカラーセットを示します。またメ	湖沼

ニューから選択できます。

カラーセットを編集

編集用のダイアログを表示します。

## 操作

- ·「表示」メニューの「サイドバーを表示する/隠す<#/>
  パン」で表示したり、隠したりできます。
- .このパネルでの設定変更は、即座に地図領域描画に反映されます。
- ・設定内容の変更は「環境設定」と連動します。

## 6. 索引図

メインウインドウの左側サイドバーの最下段に索引図を表示しま す。標高データを読み込み済みの範囲と、地図領域に表示中の範囲を 示します。白い枠線が表示中の範囲です。地図をスクロールしたとき はその範囲が中央に来るように索引図もスクロールします。標高デー タを読み込んでいる範囲を濃く、それ以外は薄く描画します。また、 拡大表示になっているときは国境線を表示します。

索引図の大きさは縦のみ1/2まで縮小できます。上端をドラッグして調整します。

アドレス情報を持たない標高データの場合索引図は表示しません。

## 索引図のスケール

地図領域の描画範囲に応じて、ほぼ世界全体表示から自動的に拡大表示をします。全体表示を1として 64倍まで、日本付近は256倍まで2倍ずつ拡大できます。4倍までは基準緯度が赤道にある正距円筒図法で すが、8倍以上では中央の緯度に応じて縦横比を調整します。ただし南北60度までなのは地図領域と同様 です。16倍以上では国境線を表示します。

索引図のスケールは自動的に調整されますが、左下の+/ーボタンで一時的に拡大縮小できます。 下に1倍から16倍までのサンプルを示します。上の図は128倍となっています。





## DEMの範囲と地図領域の描画範囲

ページトップの図に示すように、読み込み済みの標高データ領域を濃く、 それ以外を薄く描画します。個別の標高データごとの領域を示します。デー タ内にデータ無し領域があっても反映しません。

平面座標系のDEMの場合は、四隅の経緯度に基づいて矩形領域を描画す るので、実際より北側か南側が少し広くなります。また地図領域(白枠)は四 隅の経緯度に基づいて台形で表示します。(右図)





データを読み込んだ直後は、最後に読んだデータが中央になるように索引図も再描画します。白い枠線 が小さくなりすぎるときは自動的に図を拡大しますが、最大でも64/256倍までなので、狭い範囲の標高 データの場合はほぼ点になってしまうことがあります。

### 操作

索引図の表示/非表示は「表示」メニューの「情報パネルを表示する/隠す」で情報パネルと一緒に表示/非表示できます。

索引図の内容はマウスでドラッグスクロールできます。ただし、地図領域の地図が移動したときには標 準状態に戻ります。

「+」「-」は索引ウインドウ内の地図表示が2倍拡大または2分の1の縮小になります。

地図の表示範囲を示す白線の枠内でマウスボタンを押して表示したい場所までドラッグすることにより、地図の表示場所を変更できます(下図)。また索引図内でダブルクリックすることにより、その場所 を中心にして地図を描画することができます。



## 7. 段彩や陰影を設定する(環境設定)

地図領域に描画する段彩図の色や陰影、縦横比、経緯度線の描画などを設定できます。 「SimpleDEMViewer」メニューの「環境設定」によりダイアログを呼出して各設定ができます。

#### 段彩色・段彩境界・グラデーション

段彩境界と段彩色を右図のように同じ行に表示しますが、境界の示す値は 同じ行の段彩色と下の行の段彩色との境界です。

段彩色の数は最小3(段彩境界の数で2)最大30の範囲で増減できます。 右下にある「+」および「ー」のボタンで追加/削除をします。追加は選択 行の上です。選択されていない場合は一番上に追加されます。追加される行 の内容はすぐ下の行(選択されていた行)と同じとなります。削除は選択さ れている行が対象ですが、一番下の行は削除できません。

段彩境界を変更したい場合は、その行を選択した後数字をダブルクリック するか、tabキーまたはreturnキーを押して編集可能にします。境界標高を メートル単位で(小数で指定できます)設定します。

段彩色を変更するには各々のカラーボックスをクリックしてカラーパネル を表示します。またカラーボックスをドラッグ&ドロップしてコピーできま す。

カラーセットはここで編集できますが、「別ウインドウで編集」ボタンを クリックして、<u>後述の編集専用ダイアログ</u>でも編集できます。

境界標高の間にある標高の地域はその段彩色で描画します。境界標高と一致した場合は、0mより高ければ上側の色で、0m以下の場合は下側の色で描画します。

海の色は標高データが海として指定された標高値の場合適用します。 -9999mが海となっている場合が 多いです。SRTMでは海の指定はなく、海面は一般的にOm前後になっていて海かどうか明確ではありませ ん(Omに統一した改訂版が出ています)。その他にも海をOmとしているデータがあります。その場合は Om以下の色を海の色と合わせてください。 あるいは環境設定で、Omを海とするオプションを選択してか ら読み込んでください。この場合、内陸部のOm地帯も海として処理されます。

ETOPO1/2/5やGEBCOでは海底の標高も持っており、海かどうかは判定できません。一般的にはOm以下を海の色に設定する必要があります。ETOPO用のカラーセットを標準で用意しています。

「グラデーション」をオンにすると色を連続的に変化させら れます。各段階の中央の標高値の色を指定した色とし、その間 は標高に比例して変化します。ただし以下の条件に該当する場合 グラデーションを適用しません。

- ・最上位を区分する標高値に、その下の区分の標高差の半分だけ 上乗せした標高値以上。上図を例に取れば5000mに (5000 -3000) / 2 を加えた6000m 以上。
- ・最下位を区分する標高値に、その上の区分の標高差の半分だけ 差引いた標高値以下。
- ・境界標高値が0mで、その上下の区間の中央値に挟まれる標高 値。上図では20mの半分10m以下。

#### データの無い領域の色

標高データが存在しない領域の色を白、黒または海の色から 選択します。「海の色」を選択した場合、実際の色は使用してい るカラーセットに依存します。





## 南極とグリーンランドを白くする

段彩の設定にかかわらず、南極を白く描画します。ただし周辺の低地では、段彩設定 に依存します。南緯60度以南が対象です。グリーンランドは簡易に1300m以上を白く します。右図はetopo1を使用した正射図法によるグリーンランドです。

地球外天体の場合は無視します。

#### カスピ海周囲などの0m以下の土地を、0mのすぐ上の色で描画する。

etopoカラーセットのように海底の色を持ったカラーセットを使用している時、海面より低い土地の色を0mのすぐ上の色で描画します。ただしカスピ海の場合は28mより 浅い場所のみで、それより深い場所は本来の段彩色で描画します。対象は以下の場所です。

カスピ海、死海、エジプト/リビア/アルジェリアの北部低地、 エリトリア、イングランド(ロンドンの北120km付近)、ソル トン湖(米国)、デスバレー(米国)、エール湖(豪州)、トル ファン(中国)、名古屋、新潟、東京。

カラーセットのゼロメートル以下が陸地の色になっている場合 は、オンにしないでください。

右図はetopolを使用したカスピ海で、右側が機能をオンにした場合です。

地球外天体の場合は無視します。

#### 湖沼を描画する

別途作成する湖沼データを描画することを指定します。「<u>湖沼データの作成と描画</u>」の項を参照。

#### DEMに海の指示が無い時、Omを海とみなす

DEMファイルに海についての指示が無い時、Omを海として処理することができます。

内陸のOmも海として処理するので注意が必要です。標高データを読込む時の設定が有効で、読込んだ後での変更はできません。

GDEMバージョン3でWBDのattファイルを読み込めた時は、海はそちらで処理するのでこの機能の対象 外です。

#### 海をデータ無し領域として処理する

gtopo30や国土地理院のデータのように、「海」として定義されている領域にETOPO1のような海底標 高を持ったデータを描画したい場合にオンとします。遅くなるので、必要のないときはオフにします。

### カラーセット

- ・環境設定ダイアログに表示されている段彩色と境界標高及び海と湖沼の色をまとめて、名前を付けて保存できます。保存した物はカラーセットメニューに追加されます。
- ・削除ボタンで、カラーセット呼出しメニューに表示されているユーザ作成のカラーセットを削除できます。標準のカラーセットは変更/削除できません。

### 陰影

- ・「陰影無し/光の方向に拠る/傾斜に拠る/両方をミックス」
   から選択します。
- ・「陰影の強さ」を8段階で指定します。6から8は5mメッシュなどで、平地の凹凸を強調したい場合に利用します。
- ・「光の方向に拠る/両方をミックス」の場合「光の方向」を 8方向から選択します。高度角は常に45度です。
- ・「両方をミックス」の場合「陰影の強さ」を別途1から5の範囲で指定します。



 陰影無し
 ① 光の方向に拠る

○ 傾斜に拠る

強さ 3

光の方向「北西

○ 両方をミックス

\$

0





ミックス時の光に

よる陰影の強さ

2

・標高データが経緯度情報を持たないときは、上が北であるとして処理します。



上図は基盤地図情報の5mメッシュ標高データを利用した小田原城付近です。左から順に「光の方向に拠る」「傾斜に拠る」「両方をミックス」による描画です。

### 経緯度線

- ・経緯度線の間隔を1分から30度の範囲でメニューから選択します。「自動」あるいは「自動(粗め)」を選択するとスケールにあわせて自動調整します。高緯度地方などの場合のために、経線と緯線を別に設定することもできます。
- ・線の色をカラーピッカーパネルで指定します。
- ・線の太さをポイント数で指定します。
- ・UTM座標およびその他の平面座標系の場合、基準経度から東西に10度まで描画します。

### 画像の縦横比(基準緯度)

標準では画面の1ピクセルは緯度方向/経度方向とも同じ角距離を 持つものとして描画されます。例えばGTOPO30を100%で描画した とき1ピクセルは緯度30秒、経度30秒に相当します。このため赤 道から離れるにしたがって実際より横長に表現されます。高緯度の狭 い地域を見るとき等に不便なので、その緯度に合わせた縦横比に設定 することができます。合わせたい緯度を「縦横の比率を決める基準緯 度」で指定します。

0度から60度の範囲で指定できます。「現在のウインドウに合わ せて設定」ボタンは、基準緯度をウインドウの中央の緯度に設定しま す。ただし60度以北、-60度以南の時は60度になります。

「表示」メニューの「基準緯度を現在の位置に設定」は「現在のウインドウに合わせて設定」ボタンと同じ動作です。

右図の上は基準緯度が0度、下は37度に設定しています。

### 距離の単位

距離の単位を「km」「マイル」「海里」から選択します。縮尺パネ

ル、経路に沿った距離の測定、ユーザ経路データの距離、断面図の始点からの距離、展望図の情報表示に 反映されます。単位表示はそれぞれ km / ml / nm となります。

## 経緯度のコピー形式

経緯度アドレスをコピーするときの、文字列の形式を選択します。

- ・DMS形式 LW N23.45.43.890 E123.45.54.789
- ・度単位の浮動小数 12,34567890 -129.87654321

いずれを選択しても、当プログラム内や関連プログラムでのペーストに問題ありません。



### 標高の表示

地図領域上でoptionキーを押したままマウスを動かした時に、マウスカーソル位置の経緯度、標高をマ ウスポインタの近くに表示しますが、その標高値をマウスカーソルに最も近いデータの値をそのまま表示 するか、周囲の値から補間した値を表示するか選択します。

補間値を選択した場合、ピークなどでは標高データの最高値よりも高くなることがあります。

#### 起動時に前回の状態を復元する

常に復元するか、または前回意識的に保存した時のみその状態を復元するか選択します。初期値は常に 復元する設定になっています。保存内容を無視する場合はshiftキーを押しながら起動すれば、何も読込ま ない状態となります。「作業状態の保存と復元」を参照。

#### 湖沼データの保存場所

湖沼データを保存するフォルダを指定します。初期値は「~/ライブラリ/Application Support/jp.jizoh/SDVr7/Lakes/」です。参照するだけの場合は場所を問わないが、湖沼データの作成/更新をする場合は、 書込み権限のある場所であることが必要です。他のユーザーと共有する必要がなければ初期値のままを推 奨します。「<u>湖沼データの作成と描画</u>」を参照。

<AS注> ライブラリの初期値は「~/ライブラリ/Containers/jp.jizoh.SDVrAS/Data/Library/Application Support/jp.jizoh/SDVrAS/Lakes/」です。

#### ワールドファイルを作成する

グレースケール画像、ステレオ画像あるいはSRVC立体地図を保存する時ワールドファイルを作成するか どうかを指定します。作成条件や、ファイルのフォーマットについては「<u>画像を保存</u>」の項を参照。作成 した画像をGISソフトなどで利用する時に位置決め用に使えます

### Retinaディスプレイの扱い

Retinaディスプレイを使用している時、地図領域の描画をRetinaに対応した倍密度で描画するかどうか を指定します。地図領域の描画は若干遅くなる程度ですが、等高線の描画や、可視領域の描画などはほぼ4 倍の時間がかかります。等高線は太さが半分になります。

倍密度で描画した画像の精細度を維持したまま画像を保存するには保存時に144dpiを選択する必要があります。

### その他のボタン

- リセット 環境設定ダイアログの全ての設定をプログラムの初期値に戻します。ただし「湖沼データ フォルダ」と「Retinaディスプレイの扱い」の指定を除きます。
- 再描画 現在の設定内容で地図領域を再描画します。このボタンをクリックしなくとも、地図領域 が再描画される時点で、現在の設定内容が適用されます。

## 8. 平面座標系を管理

世界各地のローカルな平面座標系を設定します。UTMや国土地理院の平面直角座標のように、横 メルカトール図法を使用し、WGS84に準拠していることが前提です。

ここで設定した座標系は任意の文字列のIDで管理され、標高データを読み込むときにメニューとして参照できます。______

## ダイアログ

ファイルメニューの「平面座標系を 管理」でダイアログを呼び出します。初 期サンプルとして図のようにスイスと ニュージーランドの座標系を定義して ありますが、削除することもできま す。新規作成する時はテーブルの下の 「+」ボタンをクリックします。 「ー」ボタンまたはdeleteキーで削除

できます。

ID	任意の文字列で識別ID
	を指定する。
座標系基準点	基準となるアドレスを
	経緯度で指定する。

平面座標系 ID	ID NZTM20	00
CH1903+		
NZTM2000	座標系N	0.00.00.000
	基準点 E 17	3.00.00.000
	基準点での座標値	
	南北方向	10,000,000
	東西方向	1,600,000
	縮尺係数	0.9996
	コメント	
	new Zealand ⁻ Mercator 200	<b>Transverse</b> O

基準点での座標値

南北方向	座標値をメートル単位で指定する。	常に北がプラス。
東西方向	座標値をメートル単位で指定する。	常に東がプラス。
縮尺係数	中央経線での縮尺係数を指定する。	0.9990から1.0の範囲で指定する。
コメント	任意のコメント文字列を指定する。	標高データを読み込んだときに表示される、座標系
	選択ダイアログに表示される。	

## 参照方法

ArcAscii 標高データ

UTMおよびその他の平面座標系データの場合、座 標系を問い合わせるダイアログを表示します。そこ でメニューから該当する座標系IDを選択します。

BIL形式標高データ

hdrファイル中の xyplane パラメータで平面座標 系IDを指定します。IDにスペースが含まれる場合は 「"」(二重引用符)で囲みます。



## GeoTiffでの自動処理

UTMや19平面直角座標ではない横メルカトール図法に準拠した平面座標系のGeoTiffを読み込んだ時、自動で登録されます。この時IDは Temp_Plane-*n* の形式で設定され、コメント欄にEPSGコードとコードに付けられた名前がセットされます。ID欄の*n* は連番となります。

IDかコメント欄を変更すると保存されます。その他の項目はファイルから得られた情報をセットされるの で変更しないでください。どの項目も変更しなかった場合プログラム終了後はこのテーブルから消えます。 EPSG:2056, Swiss Oblique Mercator 1995 のように斜軸メルカトール図法でも両軸とも直角になっている場合は、実質的に横メルカトール図法としてここに登録します。

## 9. カラーセットを編集

概要

カラーセットの編集は環境設定の段彩ページや展望図ダイアログで編集できます。しかし色数の多いカ ラーセットを作成したいときなどに、より作成し易いように別ダイアログを用意しました。

地図情報パネルから「カラーセットを編集」で呼び出すことができます。また環境設定の段彩ページ や、展望図ダイアログから「別ウインドウで編集」で呼び出せます。

段彩境界と段彩色を下図のように同じ行に表示しますが、境界の示す値は同じ行の段彩色と下の行の段 彩色との境界です。

段彩色の数は最小3(段彩境界の数で2)最大30の範囲で増減できます。

## ダイアログ

初期状態のカラーセット

呼び出し元のカラーセットが設 定されています。元のカラーセッ トとは無関係に参照メニューから 選択できます。

### 行数の増減

右側にある「+」および「ー」 のボタンで追加/削除をします。 追加は選択行の上です。追加され る行の内容はすぐ下の行(選択さ れていた行)と同じとなります。 複数行が選択されていた場合は、 最後にクリックされた行が対象と なります。



削除は選択されている行が対象ですが、一番下の行は削除できません。また3行より減らすことはできま せん。

右欄の「段彩色数」を設定することで増減できます。増える場合は「+」ボタンと同様、選択されてい たうちの最後にクリックされた行が複製されます。減る場合は選択されているうちの最上段から下が削除 されます。ただし下に行が少ない場合、および最下段が対象にかかる場合は繰り上がります。

#### 段彩境界を変更

段彩境界を変更したい場合は、その行を選択した後数字をダブルクリックするか、tabキーまたはreturn キーを押して編集可能にします。境界標高をメートル単位で(小数で指定できます)設定します。

右欄の「境界標高を等間隔で設定」ボタンでは、選択されている複数行の最上段と最下段を固定して、 その間を等間隔で設定します。半端な値になることもあります。

#### 段彩色を変更

段彩色を変更するには各々のカラーボックスをクリックしてカラーパネルを表示します。またカラー ボックスをドラッグ&ドロップしてコピーできます。

#### 空の色を表示する

環境設定で作成したカラーセットにも、空の色は含まれています。地図情報パネルおよび環境設定から 呼び出された時点では、空の色を表示しませんが、チェックボックスをチェックして表示することができ ます。展望図から呼び出された場合は、初期状態で表示します。 新しいカラーセットして保存する / 削除する

表示中の境界標高と色を合わせてカラーセットとして名前を付けて登録できます。新しい名前がメ ニューに表示されるようになります。

削除ボタンをクリックしてメニューに表示されているカラーセットを削除します。

#### 編集結果の反映

「適用」ボタンをクリックした場合、編集結果がそれぞれの呼び出し元に反映されます。すなわち地図 情報パネルの場合は、地図画像の描画に即反映され、環境設定や展望図の場合はそれぞれのダイアログに 設定されます。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合は、編集結果は無視され呼び出し元の設定も変わりません。 ただし、「新しいカラーセットとして保存」したものは有効で、メニューに表示されます。また削除した 結果も有効です。

## 10.カラーセットの管理、書出しと読込み

「カラーセットを管理」ダイアログで、作成した複数のカラーセットを管理します。名前を変えたり、 削除したり、外部ファイルとして書き出すことができます。書き出したファイルは別のマックで読込むこ とができます。容易に新しいシステムに移行したり、他のユーザに渡すことができます。また一覧テ*ー*ブル 上でドラッグして並び替えることにより、メニューの順番を変えることができます。

## カラーセットを管理

「ファイル」メニューの「カラーセットを管 理...」で右図のようなダイアログを表示しま す。展望図で作成したものも含めてカラーセッ トがリストアップされます。

- テーブルから一つを選択すれば右側にその内容
   を表示します。
- ・名前をダブルクリックして名前を変更できます。
- 1行を選択してドラッグすることにより順序を 変えると、カラーセットメニューの順序に反映 されます。
- . 選択したカラーセットを削除できます。

## 書出し

保存したいものを選択して「保存」ボタンを クリックします。ファイル保存ダイアログが出 るので、場所とファイル名を指定して保存しま

す。複数のカラーセットをまとめて一つのファイルに保存することもできます。ファイル拡張子は ".jzcolor"です。

標準カラーセットはリストに現れず、書出しもできません。

### 読込み

「読み込む」ボタンでファイル選択ダイアログが出るので、上で書き出した jzcolor ファイルを選択して 読込みます。ファイル拡張子が "jzcolr" の旧バージョンのファイルも読込めます。

同じ名前がすでに存在すれば、上書するか、別の名前で登録するか問い合せます。同じ名前があっても 内容が同一の場合はそのまま処理(無視)します。読込み完了後、いくつのカラーセットが追加あるいは 更新されたか表示します。内容は環境設定で確認してください。



## 11.湖沼データの作成と描画

標高データの湖面が平になっている領域について、湖沼データを作成し、 湖沼として描画することができます。湖沼データは、標高データの種類毎に 作成され、ファイルに保存されます。

湖沼データを作成できるのは、湖面標高が一定の場所で、標高データの データ数で100点以上の面積がある場合だけです。標高データの種類毎に作 成する必要があります。例えばGTOPO30とGLOBEで湖面標高が同じでも 別々に作成する必要があります。またメッシュサイズが異るbil形式の場合も 別々に作成する必要があります。右図はETOPO2のバイカル湖ですが、南北 で標高が1m異なっているため、湖沼データが別になります。



アドレス無し標高データでは、湖沼データを作成することはできません。

#### 湖沼データの作成

湖沼データを作成するには標高データの種類は1種類だけにします。異種標高データが混在していると きは作成できません。

標高データを読込んだ状態で「ツール」メニューの「湖沼データを作成…」を実行します。「湖沼デー タ作成」ウインドウを表示し、カーソルがバケツに変るので、データを作成したい湖面でクリックしま す。同じ標高の場所を調べて自動的に湖面を描画します。湖面の形が複雑だったり、面積が非常に大きい ときは全体を認識できないことがあるので、残った部分でさらにクリックします。また標高データが複数 ファイルある場合、別ファイルの領域は自動認識しないので、隣接区域をクリックします。

必要な領域が埋ったら、名称を入力して 「登録」ボタンをクリックします。引続き 別のデータを作成できます。

湖面の標高に段がある場合は別データと します。湖沼データの作成を終了するとき は「閉じる」ボタンをクリックすれば「湖 沼データ作成」ウインドウを閉じ、データ は保存されます。

C	湖沼データの作成	)
	地図上で湖沼データを作成したい場所をクリックします。	
	湖沼名湯の湖	
	基準ポイント N36.47.57 E139.25.32 湖面標高 1480.00 m	
J	閉じる     編集     クリア     登録	)

湖沼名 データを識別する名称を指定する。重複チェックはしていないので同名でも登録できます。 変更するつもりで二重に登録してしまった場合は、下の編集機能で削除できます。

基準ポイント 湖沼として認識した場合、最初にマウスをクリックした場所の経緯度を示す。

湖面標高湖沼として認識した場合、マウスをクリックした場所の標高を示す。

登録 1箇の湖沼データの作成を完了する。

- クリア ダイアログの表示をクリアする。クリックした場所を間違えて誤認識した場合にクリアする ときなど。
- 編集湖沼データの一覧表を出し、データの削除、名称の変更、矩形領域の修正ができる。

閉じる 湖沼データの作成を完了し、データを保存する。

### 湖沼データの編集

「湖沼データ作成」ウインドウの「編集」ボタンをクリックして、個別湖沼データの削除と、矩形領域 四辺の経緯度の変更ができます。

湖沼領域は矩形領域と標高値で処理されるため、矩形領域内の湖沼でない部分も湖沼として描画されて しまう場合があります。その場合湖沼を複数の矩形領域に分割して、誤処理を軽減することができます。 分割は、同じ湖沼のデータを複数作成し、それぞれの矩形領域を調整することで実現します。 また、湖面と湖岸の標高が同じで、湖面が実際より広がってしまう場合にも、矩形領域を調整すること で、収る場合があります。

表示対象(標高データの種類)	BIL(float) 0.4 sec	$\odot$	緯度経度は矩形領 域中央の値。
名称	緯度	~ 経度	標高
畑薙湖	N 35.20.30	E 138.10.41	935.00 m
阿木川ダム	N 35.24.47	E 137.26.16	405.00 m
山中湖	N 35.25.08	E 138.52.31	980.50 m
丹沢湖	N 35.25.14	E 139.02.27	325.00 m
本栖湖	N 35.27.52	E 138.35.08	900.00 m
宍道湖	N 35.26.36	E 132.57.35	0.00 m
精進湖	N 35.29.20	E 138.36.38	900.00 m
	1105 00 10	E 400 E0 00	0.00
名称	北西角	南東	〔角
山中湖	N 35.25	5.45.600 N	35.24.30.400
	E 138.50	0.58.800 🎽 🛛 E 1	38.54.03.600 🎽

編集ダイアログで選択した湖沼の範囲を右図のように地図領域上に表示します。

領域調整が必要な場合に活用できます。編集ダイアログでの経緯度コント ロールの操作に連動してフレームが動きます。調整後は「更新」を忘れない ようにしてください。

## 湖沼データファイル

作成されたデータは標高データの種類毎に一つのファイルとして「湖沼

データフォルダ」に保存します。「湖沼データフォルダ」は「環境設定」の「その他」タブで指定します。 「環境設定」で「湖沼データフォルダ」の場所を変更したときは読込み済湖沼データを破棄し、新しい「湖 沼データフォルダ」の中にあるデータを読込みます。無ければ、湖沼データをゼロから作成することにな ります。他のマックからコピーしたものも利用可能です。

SimpleDEMViewer V4 で作成したファイルと互換性があります。旧バージョンと同じフォルダを利用 することもできますが、同時に使用しないでください。

#### その他

湖沼データは湖沼を囲む矩形領域と標高値で処理されます。矩形領域は、標高データによって経緯度、 UTM座標または平面直角座標で管理されますが、「湖沼データの編集」ダイアログでは常に経緯度で表示 します。UTM座標およびその他の平面座標系のときは、矩形領域の西北隅、東南隅の経緯度となります。

基盤地図情報の10m/5mメッシュ標高を「基盤地図標高変換」を使用してbil形式に変換するとき、16 bit整数にすると、湖沼面と湖岸の標高が同じになってしまい、湖岸線を正しく認識できないことがありま す。32 bit 浮動小数に変換すれば問題はありません。ただし5mメッシュの場合、湖面が平らでないデータ があります。

当機能では標高データが一定の値を持っている場合のみ湖面領域として認識します。そのため湖の領域 が一定の標高値になっていない場合、湖として描画することができません。ETOPO系のデータは北米五大 湖など湖部分も湖底の標高を持っていることが多く、その場合湖としては認識できません。

湖沼領域を修正して湖沼を描画できるようにしたい場合、「<u>標高データインスペクタ</u>」が利用できま す。



## 12.作業状態の保存と復元

プログラム起動時に前回終了時の状態を自動復元する機能と、名前を付けて保存した状態を任意の時点 で復元する機能とがあります。さらに起動時の自動復元では、常に前回終了時の状態を復元する場合と、 終了前に意識的に保存を指示した場合のみとを選択できます。

名前付保存回復機能ではカラー設定なども対象です。ETOPO1等の世界のデータや、基盤地図など国内 のデータと各種設定を組み合せて保存できるので、世界地図を見たい時、日本の地形を見たい時など切替 えが簡単にできます。

### 起動時の自動復元

環境設定の「その他」タブで常に復元するか、ユーザ が意識的に状態を保存したときのみ復元するかを選択し ます。

「常に」を選択した場合はプログラムを終了する時点 で状態を自動的に保存します。そうでない場合は「ファイ ル」メニューの「作業状態を保存」により起動時の自動 回復用として保存した時、次回起動時に復元されます。

	作業状態を保存	
<ul> <li>次回起動時の自動読込み用として保存。</li> <li>名前を付けて保存。</li> </ul>		
名称:	未設定	
	キャンセル 保存	

「常に」を選択した場合でも任意の時点で保存することにより、異常終了したときの対策とすることがで きます。

shiftキーを押したまま起動すると復元動作をスキップします。

## 名前付き保存と復元

「ファイル」メニューの「作業状態を保存」により右 のダイアログを出し名称を指定して保存します。指定した 名前は「ファイル」メニューの「名前付作業状態を読込 む」のサブメニューにリストアップされます。

保存ダイアログでは名称入力欄右側の▼ボタンをクリッ クすると既存名称を参照できます。一覧表から名称を選択 すると入力欄にコピーされます。またここで既存のものを 削除することもできます。

## 保存と復元の対象

起動時に自動的に復元する内容はつぎのものです。

- .標高データ
- . テクスチャーマップ
- ・ユーザデータ
- · 表示位置
- ・スケール
- . 選択した矩形領域

標高データやテクスチャーマップは再開時に読直すので、アクセスできる状態にあることが必要です。 ユーザデータは再起動時に元のファイルがなくても復元します。ユーザデータはファイル毎には管理してい ないので、自動復元機能では全体をそっくり保存して復元します。このとき追加、更新されたデータがあっ ても、未保存の警告メッセージは出しません。次回復元されますが、プログラム(またはシステムに)異 常があって突然終了した場合はデータが消えてしまうので、必要なデータは個別に保存してください。

	作業状態を保存
<ul><li>○ 次回</li><li>○ 名前</li></ul>	起動時の自動読込み用として保存。 を付けて保存。
名称:	50m八ケ岳
	名称
	50m八ケ岳
	etopo1日本
(	削除 キャンセル 保存
環境設定の内容、ウインドウの位置やユーザデータの設定など、自動的に保存される設定はこの機能に よる保存・復元の対象外ですが、通常起動時には前回終了時の内容が保たれています。画像ウインドウは 対象外です。

名前付で保存回復する場合、上記の内容に加えて下記も保存回復します。

.環境設定の内容。ただし「その他」のページは基準緯度のみ。

- ・等高線の設定情報。
- . ユーザデータのレイヤーによる表示設定。

# 注意事項

- ・名前付作業状態を読込む時、その時点で読み込み済の内容は一度全て廃棄します。たとえ同じ標高デー タやテクスチャーファイルを使用していても、一度全て廃棄してから読直します。
- ・名前付作業状態を読込む時、展望図の設定情報は初期状態にリセットします。
- .環境設定パネル「その他」ページの内容は、基準緯度を除きこの機能による保存回復の対象外です。

# 13. 縮尺パネル

縮尺を縦または横のフロートパネルに表示します。地図ウインドウが選択されているときだけ表示し、 それ以外では隠されます。東西方向の距離は、画面上の距離が同じでも実際の距離は異なります。した がって下図のように置く場所によって変化します。ここで示す距離は大円距離ではなく、緯線に沿った距離 となります。横型パネルの場合北緯85度以北、南緯85度以南では表示しません。2地点間の大円距離を 知りたい場合は、「<u>経路に沿った距離の測定</u>」機能を使用します。

左側にある弧状矢印アイコンをクリックすると、縦と横を切替えられます。縦の場合は場所による変化 はありません。横の場合、縮尺ウインドウの下辺にあたる緯度が基準になります。「ツール」メニューの 「スケールを縦/横にする」でも縦横を切替えられます。

「環境設定」ダイアログの「その他」タブで、長さの単位をkm、マイル、海里の間で切替えられます。 距離が短い(大縮尺)場合それぞれメートル、ヤードで表示します。

「ツール」メニューの「スケールを表示する/隠す」で表示/非表示を切替えられます。

スケール内のどこかを押えてドラッグしパネルを移動できます。

٦	) km	500	1000	15	00 20
	17	No.	1		
42		4 .			- ¹²
1	km !	500	1000	1500	2000

# 14. 標高データインスペクタ

# 標高データ中の個別の値を表示する

標高データの各セルの値を独立したパネルで7x7の表に表示します。地図領域上で指定した場所を中心 にその周囲の値を表示します。その後は1セルずつ東西南北に移動できます。

地図領域上でポップアップメニューから「インスペクターを表示」を選択します。メニューを出した場所が赤いX印でマークされます。インスペクターパネル内にもマークされます。また地図領域には7x7のセル範囲が広幅の白い枠で示されます。枠の内側が対象範囲です。

表示範囲を移動するにはパネル内の赤い矢印をクリックするか、矢印キーを使用します。枠が移動しま すが赤いX印マークは移動しません。

標高値はデータに合わせて整数または小数で表示します。海やデータの無い場所は次の文字で表示しま す。

sea 海

void データ無し

(n/a) DEM領域の外側

		標高デ	ータインス	ペクタ			
マークの 表示中央の	D経緯度 D経緯度	N35.21.3 N35.21.3	38.3 E13 38.2 E13	8.43.38.9 8.43.38.0	5 6		
3764.00	3770.20	3770.10	3758.80	3752.10	3747.30	3741.10	Xarm. Wa
3765.10	3769.90	3771.30	3770.60	3758.60	3753.80	3748.40	
3763.60	3768.40	3771.50	3771.40	3769.20	3758.20	3752.60	
3763.10	3767.50	3771.90	3774.90	3771.50	3759.90	3755.30	
3762.30	3766.60	3770.70	3772.70	3771.90	3767.60	3758.00	
3759.60	3763.30	3767.70	3770.10	3770.20	3767.30	3760.70	
3755.90	3757.60	3759.80	3760.50	3759.10	3758.60	3757.90	
変更可	能にする。						
3700	全セル^	、セット	全社	<b>ァルをコピー</b>	•	閉じる	

# 標高値を変更する

標高データを修正、変更して誤データの修正や、海面、湖沼面などを平らにすることができます。勝手 な地形に改変することもできます。

「変更可能にする」ボタンをチェックすることで、個別の値や、全セルにセットなどの機能が有効になります。変更した結果は即座に地図領域の描画に反映されます。

変更した値は一時的なもので、標高データがプログラムから削除されたり、プログラムを終了すると破 棄されます。作業状態を保存する機能でも保持できません。変更した値を保存したい場合は、標高データ 書出し機能で別ファイルとして保存することになります。ただしWGS84に準拠したDEMであることが必 要です。国土地理院の数値地図(ファイル拡張子がTEM/SEM/MEM/LEMのもの)の場合は保存する 術はありません。変更した結果を利用して成果を公開する時は元データの著作権に注意してください。

# 個別の値を変更する

標高値または sea / void の文字列上でクリックまたはダブルクリックすることでその値を編集できま す。入力確定はtabキーまたはreturnキーを押すか、他のセルをクリックあるいはダブルクリックします。 確定操作をしないままウインドウを閉じると変更が反映されません。

値の範囲は-15000から9999mです。sea / void の文字列を入力することもできます。この場合実際 の値はDEMによります。DEMによっては-9999mなどの値が海になったり、データ無し領域になったりし ます。また sea と void で同じ値になることがあります。

# 全セルヘセット

海面や湖面なのに標高データが平になって いない時、それを修正するのに1セルごとに 修正すると大変な手間がかかります。その省 力化のために7x7の全セルに同一の値を設定 することができます。左下のテキストフィー ルドをダブルクリックして値を入力し、タブ キーかリターンキーで確定したあと「全セル ヘセット」ボタンをクリックします。

取り消し機能は用意していないので、広い 範囲を処理する時は、適宜標高データを保存 する機能で保存してください。

# 選択した矩形領域の全セルヘセット

インスペクタを表示中も地図領域の操作ができます。拡大縮小やスク ロールだけでなく、矩形領域を選択して、インスペクタの全セルヘセッ トする値をその矩形領域全体に埋め込めます。矩形領域内でポップアッ プメニューを出すと右図のように「領域内の全セルに nnn をセット」と いうメニューが出ます。nnn のところはインスペクターでセットした値 で、標高値だけでなく sea や void も可能です。インスペクタで全セル ヘセットする値を指定していないと、このメニューは表示されません。

海面や湖沼などが平らになっていないデータを、修正する場合などに 利用できます。

			標高デ	ータインス	ペクタ		<u>`</u>
	マークの 表示中央の	D経緯度 D経緯度	N36.16.3 N36.16.3	34.7 E14 30.5 E14	0.30.45.1 0.30.44.9	)	
	void	void	void	void	0.11	0.11	0.11
	void	void	void	void	0.11	0.11	0.11
	void	void	void	void	0.11	0.11	0.11
	void	void	void	void	0.11	0.11	0.11
	void	void	void	void	0.11	0.11	0.11
	void	void	void	void	0.11	0.11	0.11
	void	void	void	void	void	void	void
1	🗸 変更可	能にする。					
1	0.11	全セル^	セット	全t	2ルをコピー		閉じる

この場所を 矩形領域を選択… 経緯度をコピー	>
移動 スケール 拡大 縮小	>
 矩形内の全セルに 0.11 をセット	

# 全セルをコピー

7x7の全セルの値をコピーします。タブ区切りのテキストデータなので Numbers の 7x7 のセルヘペー ストできます。もちろんテキストエディタへのペーストも問題ありません。

# 注意事項

- ・複数種類の標高データが読込まれている時、表示できるのは基準となる標高データ(最も間隔の小さい 標高データ)のみです。
- ・元のファイルの単位がフィートの場合、メートル単位の小数点付で表示します。
- ・国土地理院のデータでファイル拡張子が "LEM" の物の水部はデータなし領域(void)として表示します。
   また基盤地図情報の標高データで航空レーザ測量となっているものも同様です。
- ・地図領域上ではデータ無し領域(void)の部分もデータのある部分から外挿して描画しています。そのため 境界付近ではインスペクターの表示と一致しないように見えることがあります。

# 15. 標高データの書き出し

# 新規標高データファイルを作成する

読込んである標高データをまとめて、あるいは一部を切り出して新しい標高データファイルとして保存す ることができます。小さな多数のタイルに別れているデータを一つにまとめたり、逆にGEBCOのように大 きなデータから日本周辺のみを切り出したりできます。また標高データインスペクターで編集したデータ を保存できます。基盤地図情報の10mメッシュのデータを1次メッシュ単位にまとめて、読込み速度を速 くするといったことにも使えます。あるいは読み込みに時間がかかるAscii文字形式のデータをBIL形式に しておくということもあります。

WGS84準拠ではない国土地理院の数値地図(ファイル拡張子がTEM/SEM/MEM/LEMのもの)は 対象外です。異種の標高データが読込まれている時は基準となる標高データだけが対象です。

保存形式は bil または GeoTiff 形式で、データ間隔は基準となる標高データに依拠します。ただし GeoTiff を選択できるのは、元の標高データが経緯度区切りかUTMおよびその他の平面座標系の時だけで す。

## 操作

標高データが読込まれている状態 で、ファイルメニューの「標高デー タを書出し...」を実行すると右のよ うなダイアログが表示されます。

地図上で矩形領域が選択されてい れば「範囲指定」が選択されて、そ の矩形領域の範囲がセットされま す。そうでなければ「全領域「が選 択された状態になります。

標高データがUTMおよびその他の 平面座標系である場合は、下の図の ように平面座標で領域を表示/指定で

きます。アドレス無しデータの場合は、常に 平面座標で指定します。

元のDEM 作成するDEMファイルの元
 になる、読込み済みのデー
 タです。データ間隔は出力
 ファイルに引き継がれます。

作成範囲

全データ 対象となる(複数の) DEM
 全体を一つのファイルに保
 存します。矩形領域内に
 データが存在しない空間が





有る場合は、「データなし」の値が書き込まれます。

範囲指定 経緯度で区切られた矩形領域の範囲を一つのファイルとして保存します。右側の経緯度コ ントロールで左上(北西角)と右下(東南角)の経緯度を設定します。平面座標系の場合 は平面座標でも指定できます。 全データから範囲指定に変更した時、地図上で矩形領域が設定されていれば、その領域 を設定します。

形式 出力ファイルの形式を bil か GeoTiff から選択します。

元のDEMに応じた推奨設定

枠内の値を推奨設定にします。

出力形式 16ビット整数か32ビット浮動小数かを選択します。

- 海 海を示す値を指定します。-1mから-19990mの間で指定できます。元のデータの値と異なる値を指定した時は出力時にデータを変換します。
- データ無し データが無いことを示す値を指定します。 -1mから-20000mの間で指定できます。元の データの値と異なる値を指定した時は出力時にデータを変換します。
- 北西角、南東角 出力ファイルの区域を示す経緯度を指定します。範囲指定の時のみ変更できます。経度 180度を挟む領域の指定はできません。
- 大きさ 指定した内容から計算した出力ファイルの大きさを示します。作成できる限度の2GBを 越えるときは赤い文字で表示します。領域が180度の経線を挟む時は表示しません。

「作成」ボタンをクリックすると、保存ダイアログが表示されるので、保存場所と名前を指定して保存を 指示します。bil ファイルと hdr ファイルが作成されます。GeoTiffの場合は tiff ファイル単独です。

# 注意事項

.2GBを越えるファイルは作成できません。

- ・180度の経線を挟む範囲のファイルは作成できません。
- ・バイトオーダーは常にインテル形式 (LSB) です。
- ・指定したアドレスが元データのセル境界とずれている場合、自動的に調整します。

# 16. ユーザデータ

地図上にマーク付のメモや、経路データ、領域データを 作成し表示することができます。作成したデータを保存 し、後日再表示することはもちろん、他のマックにコピー して表示することもできます。

ユーザデータはその分類名と、レイヤーに応じて個別の データの表示、非表示を設定できます。分類名は任意の文 字列で設定でき、レイヤーは0から9の数字で設定しま す。レイヤーについては単純に表示、非表示を設定するほ かに、地図の縮尺に応じて表示するように設定することが できます。



### メモデータ

特定の地点にマーク(標準41箇、ユーザー作成最大50箇から選択)、名称(3行以内)、コメントを付けられ、地図上にはマークと名称、あるいはそのどちらかを表示します。地図上のマークまたは名称をダブルクリックしたとき、コメントや経緯度などの基本情報だけでなく、画像や、指定したウエッブサイトを表示することもできます。標準ではウエッブサイトは表示しない設定にしてあり、ユーザデータ初期設定で変更できます。

# 経路データ

複数の地点を折れ線で結んで、全体の名称、指定した地点のコメントをそれぞれ3行以内で作成できま す。線の種類(実線、点線など)や色、太さも設定できます。半透明の線にすることもできます。

#### 領域データ

折れ線で囲んだ領域を半透明の塗りつぶし、網掛け、斜線、縦線、横線、または枠のみで表示できます。 色の選択もできます。また領域名を3行以内で設定、表示できます。

ArcInfo の EOO 形式データを読込んでユーザ経路データとすることができます。 gpx 形式のGPSデータを読込んで、ユーザメモデータ、ユーザ経路データとすることができます。 KMLファイルから単純な Placemark をユーザメモデータとして読込むことができます。

# 16.1.メモデータ

## 概要

地図上の経緯度にリンクしたメモ(表題とマーク、コメント等)を作成し表示できます。地図上には表 題とマークを表示します。表題は最大3行で、フォントや文字サイズなどを設定できます。

表題は、マークがある場合マークの右に、マークがない場合表題1行目の中央下が指定したアドレスに なるように表示します。

メモは「分類」コードで分類され、さらに0から9の 「レイヤー」コードと合わせて表示/非表示の選択がで きます。「分類」コードは"都市"、"日本の主な山"など のように任意の文字列で設定します。

マークは規定のセットから選択する以外に、ユーザー が作成したマークも使用できます。

右図はETOPO2上にメモを描画した例。

地図上でメモのマークか表題文字列をダブルクリック すると、右下図のようにコメントを含む詳細を表示しま す。

コメント欄の先頭に下図のようにurl文字列を指定した ときは、右のダイアログを表示する代りに、url文字列で 指示されるファイルの画像や、htmlページを表示しま す。この場合、右図のような情報を見たい場合は、 optionキーを押しながらメモをダブルクリックして、メ モ更新ダイアログを出します。標準設定ではウエッブ ページは表示しないので、メモデータ初期設定で変更す る必要があります。

<http: www.metro.tokyo.jp=""></http:>	
日本の首都	
1603年、徳川家康による江戸開府とともに発展し、	以来政治経
済の中心都市として栄える。	
区部の人口はおよそ830万人(2003)	

コメント欄の文字列のフォーマットをHTML構文で整形できま す。KMLデータ中にあるものを表示するのが主な目的であり、 WYSIWYGな編集機能はありません。画像ファイル参照や、リン クはサポートしません。詳細は別項「コメントをHTML構文で整 形」を参照してください。







# メモを作成する

地図領域上でメモを作成したい場所にマウスカーソルを位置付け、ctrl+クリックでポップアップメ ニューを出し、「メモを作成…」を実行します。表示されるダイアログで以下の項目を入力します。

分類 メニューから選択するか、直接文字列を入力する。

メニューにない分類は追加されます(確認ダイアログあり)。

- レイヤー 0~9の範囲でメニューから選択します。
- マーク クリックして図柄メニューから選択します。マーク無しもあります。
- 初期値 マークと文字列属性を「分類」に従った初期値にセットします。
- 表題 地図上に表示したい任意の文字列を入力します。改行コードも有効で、最大3行まで使用で きます。3行を超える場合はそれ以降を3行目に表示します。
- 経緯度 ポップアップメニューを呼出した場所の経緯度がセットされているが、任意に設定可能で す。
- 標高 上の経緯度が示す位置の標高データの値がセットされているが任意に変更可能です。 -20000を指定するか、入力フィールドをクリアすると、データ無しの扱になります。
- 文字列属性 表題を地図上に表示するときのフォント、サイズ、スタイル、色を別ダイアログで指定しま す。(別項「文字列属性」を参照)
- コメント 任意の文字列を指定します。先頭に<>で囲まれたurl文字列があるときは、地図上でメモを ダブルクリックしたときに特別な処理をします。(別項、「画像やウエッブページを表示す る」を参照)

作成ダイアログを表示したとき、「分類」「レイヤー」「マーク」「文字列属性」は直前の作成/更新 ダイアログの内容がセットされています。プログラム起動直後では、最初の「分類」の属性がセットされ ます。

# 画像ファイルから直接メモデータを作成する

画像ファイルを地図領域へドラッグ&ドロップしてメモデータを作成できます。作成されるデータの内 容は以下のようになります。

- . 「分類」と「レイヤー」は「メモ初期設定」で指定したもの。
- . 「表題」はファイル名からファイル拡張子を除いたもの。
- 「マーク」および「文字列属性」は「分類」に設定してある初期値。
- ・「経緯度」および「標高」は画像ファイルがGPS情報を持っている場合その内容。持っていない場合は ドロップした場所の経緯度と標高。
- 「コメント」にはファイルのurl情報、サイズとExifの作成日付が入ります。メモ作成ダイアログに画像 ファイルをドロップしたときと同じ内容です。(別項、「画像やウエッブページを表示する」を参照 GPS情報の測地系は明確に「Tokyo」と指示されていない場合はWGS84(世界測地系)として処理しま す。古いGPS付カメラでは測地系を明示しないまま旧日本測地系を使用している場合があるので注意して ください。

<AS注> 画像ファイルはメモライブラリ内にあることが必要です。それ以外でも作成でき、作成した時点では表示できますが、メモデータを保存して後で見ることができなくなります。

# メモを修正する

個別のメモ内容の修正と、複数のメモを一括して属性を修正することができます。

#### 個別の変更

次の3とおりの方法でメモ修正ダイアログを呼出して全ての項目を修正できます。

・地図領域上でoptionキーを押しながらメモをダブルクリックする。

・地図領域上でメモをダブルクリックして、メモ内容を表示した後、「編集」ボタンをクリックする。
 ・「ユーザデータ」メニューの「一覧編集」で一覧表を出し、メモを一つ選択して「編集」ボタンをクリックする。

#### 一括変更

「ユーザデータ」メニューの「一覧編集」で一覧表を出します。表から複数のメモを選択し、「一括変 更」ボタンをクリックして、以下の項目を変更できます。一部の項目だけの変更もできます。結果は選択し た全てのメモデータに適用されます。

- .分類
- ・レイヤー
- ・マーク
- 、文字列属性

# 画像やウエッブページを表示する

メモデータのコメントの先頭に '<' と '>' で囲まれたurl文字列を置いた場合、ローカルの画像ファイル 等、あるいはインターネットサイトのウエッブページが指示されたものとして扱います。この場合地図領域 上でメモをダブルクリックしたとき、指示された画像またはウエッブページを表示します。ただし標準では ウエッブページは表示しません。表示したい場合はメモデータの初期設定で変更してください。

画像やウエッブページを表示するとき、SimpleDEMViewer内で表示するか、safariなどのウエッブブラ ウザを使うか選択できます。SimpleDEMViewerのウインドウではウエッブブラウジングのサポートツール は用意していないので、表示したページからいろいろたどらせたい場合はウエッブブラウザを利用した方が 便利です。下のurl形式により「ウエッブページ」の場合だけブラウザを使うか、常に使うか、使わないか の3とおりから選択できます。メモデータの初期設定で指定します。

### url形式

url形式はhttp:とfile:のみサポートします。url文字列の先頭がこれ以外の場合は、「メモ用データライブ ラリ」の中のファイル指定として処理します。それぞれの例は次のとおり。

- 1. ウエッブページ <<u>http://www.abcd.co.jp/pages/123.html</u>>
- 2. ローカルの画像ファイル <<u>file:///User/Name/Picture/abc.jpg</u>>
- 3. メモ用データライブラリ中のファイル

<Photos/Fujisan.jpg> <movies/Cities/tokyo.mov> <hawaii.rtf>

### urlの自動取得

ローカルのファイルを指定するときは、ファインダーからファイルアイコンをメモ作成ダイアログにド ラッグ&ドロップすると、ファイルのありかに応じて上記2.か3.の形式で「コンテンツ」に書込みます。 またインターネットロケーションファイルをドラッグ&ドロップしたときは、そのファイルそのものでは なく、指し示している先のアドレスを設定します。

画像ファイルをドロップしたとき、そのファイルがGPS情報を持っていれば、経緯度と標高を参照して ダイアログにセットします。そのとき(GPS時刻でなく)Exifから取得できる画像の作成日時をコメント 欄に追加します。

(例) <<u>file://memo/photo01.jpg</u>> Date(2012.02.02 18:10:10)

### ウインドウの大きさ

指示されたファイルが画像やムービーの場合は、その大きさを基に最適なウインドウサイズを設定しま すが、ウエッブページやテキストファイルの場合はデフォルトで横600、縦400ドットのウインドウを作成 します。特定のウインドウサイズを指定したい場合は、url文字列の後に size=(幅,高さ)の形でウインド ウサイズを指定します。

例: <<u>http://www.xyz.com/123park.html</u>> size=(700,600)

# コメントをHTML構文で整形する

タイトル行や強調などのHTML構文を利用してコメント欄 を整形できます。例えば <h1></h1>、<h2></h2>、 、<b></b>、<i></i>、<br> などがあります。 <html></html>を含むフルセットを受付けますが、画像 ファイルやcssファイル、インターネットサイトなどの外 部参照はできません。またリンクも機能しません。

コンテンツ表示パネル(右上図)のコメント欄が対象 になります。「HTMLビュー」チェックボックスはデータ がHTML構文を含んでいる時のみ表示されます。チェック をオフにすると、編集ダイアログへ移らなくとも元の文字 列を表示します。

編集ダイアログのコメント欄(右下図)ではHTMLタ グなどもそのまま表示されます。WYSIWYGな編集機能 は用意していないので、コメント編集欄に直接タグを書込 むか、他の編集プログラムで作成してからコピーしてくだ さい。

HTMLではなく、前項にも該当しない文字列の中に < に続いて英文字がある場合、次の > まで表示できないことがあります。その場合は編集ダイアログへ移動し、< を &lt; に変えるか、< の後ろにスペースを挿入してください。

000		メモデータ	
分類:	[ KMLPlacemark		1レイヤー: 0
表題:	Fujiyama		マーク: 🔺 red04
経緯度	N35.21.36.00	E138.43.33.00	標高:3776 m
World	's Mountains		
NAMI ELEV ALT_ COMI COUN	E = Fujiyama /ATION = 3776 NAME = Mount Fuj MENT = Hihest poin /TRY = Japan	i, Fujisan t of Japan.	
	1L ビュー	編集	ОК
	=	レーザメモデータ	
分類 〔 表題 F	MLPlacemark 初期値 マークと; ujiyama	▼ レイヤー 0 文字属性を分類にしたが-	
経緯度	N 35.21.36.000		文字属性を設定
内容(副	E 136.43.33.000	標	高 3776 m
World Fujiyan 3776 - Fujisan Japan.	s Mountains  ma <b>ELEV/   <b>ALT_NAM n  <b>COMM   <b>COUNTI</b></b></b></b>	 <b>NAMEATION</b> = ME = Mount Fu ENT = Highest RY = Japan	l> = Ji, popint of
	削除	キャンセル	, 更新

# メモデータを共用する

「メモ用データライブラリ」の中に置かれたデータは、メモデータと一緒に他人に渡せば表示すること ができます。他の場所に置いた場合は表示が難しくなります。他人に渡したい画像などを表示するデータ を作成する場合は、「メモ用データライブラリ」の中に画像等を置いてください。ファイルを指していな い場合や、ポイント先がウエッブサイトの場合は気にする必要がありません。

### メモを移動する

最初にメモを作成した場所から移動することができます。メモの修正ダイアログを出して、経緯度を変 更することもできるし、地図上でマークを選択してドラッグすることでも移動できます。

文字列の表示場所だけを変更することもできます。地図上で文字列をドラッグして移動します。マーク の方をドラッグすると表題も連動して動きます。

正射図法/円錐図法/メルカトール図法/正距方位図法/正積方位図法の画像ウインドウに描かれたメ モは、マークは移動できませんが、文字列はドラッグして移動可能です。ウインドウの外までドラッグす ると削除になります。

# カスタムマークを利用する

ユーザがPNG画像として作成したマークを使用できます。

「メモ用データライブラリ」フォルダの中に"MemoMark"という名前のフォルダを作成し、その中に PNG画像を置くとSimpleDEMViewerの起動時に、あるいはライブラリを選択/変更した時に読込みます。 読込んだ画像はマーク選択ダイアログに表示されます。ライブラリを変更した時は、それまで読込んでい た、新しいライブラリに無いカスタムマークは使えなくなります。

ファイル名はファイル拡張子が .png であれば名称は任意です。画像サイズは任意ですが、常に32x32ピクセルで描画するので、64x64ピクセルを推奨します。32x32ピクセルを塗潰すのでない限りは背景を透明にしてください。

ユーザ作成マークの数は最大50個です。

### メモの初期設定

各「分類」ごとの初期値、およびメモ用データライブラリの場所等を設定します。「分類」そのものの 作成、更新、削除も行えます。「ユーザデータ」メニューから「初期設定…」で設定ダイアログを出し、 メモタブを選択します。

#### 「分類」の初期設定

追加 分類コードを新規に作成します。

削除 使用しているメモデータがない場合のみ削除可能です。

名称変更 既存の分類コードの名前を変更します。使用しているメモデータがある場合は全て変更され ます。

分類ごとに対応するマークと文字属性がそれぞれの標準値となります。この標準値はメモ作成/更新ダ イアログで「標準値」ボタンをクリックしたときに参照されます。

このダイアログのリストの順序はメモダイアログの「分類」メニューの順序と一致します。テーブル内で 分類をドラッグして順序を変更できます。

#### 画像やウエッブページの表示先

画像やウエッブページを指定してあるメモを地図上でダブルクリックしたときの表示先を下記から選択します。

・すべてSimpleDEMViewerのウインドウで表示する。

・ウエッブサイトの時はブラウザを利用して表示する。

・常にデフォルトアプリケーションを利用する。

デフォルトアプリケーションはファイルによって「safari」だったり「プレビュー」だったりします。

ただしウエッブサイトは標準では表示しないようにしてあり、表示したい場合はこのオプションを変更し ます。

### メモ用データライブラリの場所

メモ用データライブラリの初期値は「無し」となっています。「選択」ボタンをクリックしてファイルダ イアログで任意のフォルダを指定してください。変更した先にカスタムマークがあれば、その時点で読込み ます。

#### ドラッグ&ドロップで作成するメモデータの初期値

「分類」と「レイヤー」をメニューから選択します。

ここで指定した内容が、画像ファイルを地図領域にドロップしたとき作成されるメモデータに適用され ます。

# メモ用データライブラリ

メモデータのコンテンツが参照する画像やムービーなどを置くためのフォルダです。またユーザが作成 したメモ用マークを置きます。(注:メモデータそのものはデータライブラリ内に保存する必要はありま せん)

メモの初期設定ダイアログで場所を指定します。初期値は「無し」です。場所はいつでも選択/変更でき ます。ファイル(画像データなど)を新しいデータライブラリフォルダに移動した後、初期設定ダイアロ グで変更します。

マーク画像はデータライブラリフォルダの直下に "MemoMark" というフォルダを作成し、そこにファ イルを置いてください。それ以外のデータはフォルダの階層なども自由に配置できます。

# KMLファイルをメモデータとして読込む

KML(およびKMZ)ファイルには様々なデータを含んでいますが、その中にある「目印」 Placemark を 取出してメモデータとすることができます。Pointを1個含む単純なものだけで、それ以外は無視します。 アイコンは参照しません。

KMLデータの項を参照。

# 16.2.経路データ

## 概要

地図上の経緯度にリンクした地点を結んだ経路を作成し表示 できます。地図上には線と表題、各地点に付けたコメントを表 示します。表題やコメントは最大3行で、フォントや文字サイ ズなどを設定できます。線については色と太さ、線種を指定で きます。地点間の距離が150km以上ある場合、その地点間は大 圏コースで描画します。短い場合は画面上で直線で結びます。

右図はETOPO5上に経路データを作成し、正射図法で描画しています。

線種は実線、破線、一点鎖線、点線を選択できます。太さは0.5ポイントから30.0ポイントの間で指定できます。

経路データは「分類」と「レイヤー」と合わせて表示/非表示の選択ができます。「分類」は任意の文 字列で指定できます。

断面図作成機能で経路データに沿った断面図を作成することもできます。

### 経路データを作成する

地図領域上で経路の開始点にマウスカーソルを位置づけ、ctrl+クリックでポップアップメニューを出し、「経路を作成」を実行します。その点からマウスカーソルまで赤い線が引かれるので次の地点を決め てクリックします。この時 option キーを押しながらクリックすると、その地点に後でコメントを付けられ ます。

既に存在するメモや経路の文字列上でクリックすると、クリックした場所でなくその文字列の基準点ア ドレスが採用されます。またその時optionキーを押していれば、その文字列が地点コメントとして取込ま れます。最後の地点ではダブルクリックをします。経路設定中に間違いを訂正するときは Esc キーを押す ことで、一つ前の地点に戻れます。

ダブルクリックの後ダイアログが現れるので、経路の分類、名称、色、各地点のコメント等を入力しま す。デフォルトでは両端と、optionキーを押しながら作成した地点に仮のコメントが入っていますが、ダ イアログでどの地点にもコメントを入れられます。また中間地点の追加、削除、経緯度の修正もできま す。指定が済んだら「作成」ボタンをクリックします。

分類	メニューから選択するか、直接文字列を入力する。	
	メニューにない分類は追加されます(確認ダイアログあり)。	
レイヤー	0~9の範囲でメニューから選択します。	
初期値	線の属性と文字属性を「分類」に指定されている初期値に設定しま	ます。
経路名	地図上に表示したい任意の文字列を入力します。改行コードも有	効で、最大3行まで
	使用できます。3行を超える場合はそれ以降を3行目に表示します	t。
線の属性		
色	任意の色設定できます。カラーボックスをクリックして、カラー	パネルを出します。
	カラーパネルでアルファー値を指定して半透明にできます。	
線種	メニューで実線、破線、一点鎖線、点線から選択しま	
	す。	後田不添田の例
太さ	0.5ポイントから30.0ポイントの間で指定します。	
経路名の文字屋性	経路名を地図上に表示するときのフォント、サイズ、スタイル。	色を別ダイアログで

指定します。(別項「文字列属性」を参照)



50

- コメントの文字属性 コメントを地図上に表示するときのフォント、サイズ、スタイル、色を別ダイアロ グで指定します。(別項「文字列属性」を参照)
- 地点(ノード)数 両端を含んだ地点の数を示します。
- 始点から終点まで経路をたどった距離で、地球を半径6371kmの真球として計算した 総延長距離 値を示します。
- 地点の選択 どの地点を表示するか選択します。

先頭 始点を表示します。

一つ前のコメント付地点を表示します。無い場合は始点を表示します。 前のコメント付地点 前

一つ前の地点を表示します。

- 最後 終点を表示します。
- 一つ後のコメント付地点を表示します。無い場合は終点を表示します。 次のコメント付地点

一つ後の地点を表示します。

#### 各地点の情報

後

- n番目の地点 始点を1とした連番で現在表示中の地点を示します。
  - 地図上に表示したい任意の文字列を入力します。 改行コードも有効で、最大3行まで (コメント) 使用できます。3行を超える場合はそれ以降を3行目に表示します。
- 経緯度 各地点の経緯度として地図上でクリックした地点の値がセットされますが、任意に変 更可能です。
- 標高 新規作成時は標高データから計算された値が表示されますが、任意に設定可能です。-20000mを指定すると「データ無し」になります。
- 表示中の地点と次の地点の中間に地点を追加します。地点表示は新しく追加した物に 後に地点を追加 なります。
- この地点を削除 表示中の地点を削除します。始点及び終点は削除できません。
- キャンセル 経路データの作成を中止します。

作成 経路データを登録し、地図上に描画します。

作成ダイアログを表示したとき、「分類」「レイヤー」「文字列属性」「線の属性」は直前の作成/更 新ダイアログの内容が設定されています。

## 経路データを修正する

個別の経路データの修正と、複数の経路データを一括して属性を修正することとができます。

#### 個別の修正

次の2とおりの方法で経路データ修正ダイアログを呼出して全ての項目を修正できます。

- ・optionキーを押しながら地図領域上で経路データの文字列のいずれかをダブルクリックする。地点に付 けたコメント文字列上でダブルクリックしたときは、その地点が修正ダイアログに表示されます。
- ・「ユーザデータ」メニューの「一覧編集」で一覧表を出し、経路データを一つ選択して「編集」ボタンを クリックする。

また、地図上で各地点をドラッグして位置を修正(移動)することができます。option+shiftキーを押 しながら、地図領域上で経路データの文字列のいずれかをダブルクリックします。各地点に黒丸が表示さ れるのでそれをドラッグします。黒丸以外の場所でクリックすると、移動編集モードを終了します。ある いは移動編集モードにしなくとも、直接optionキーを押しながら各ノードをドラッグして移動できます。

#### 一括修正

「ユーザデータ」メニューの「一覧編集…」で一覧表を出します。表から複数の経路データを選択し、 「一括変更」ボタンをクリックして、以下の項目を変更できます。選択した全ての経路データに適用され ます。

- ·分類
- ・レイヤー
- ・線の属性
- 、文字列属性

# 経路データの初期設定

ユーザデータメニューの「初期設定…」でダイアログを出し「経路データ」タブを選択します。

「分類」の初期設定

各「分類」ごとの初期値を設定します。「分類」そのものの作成、更新、削除も行えます。「ユーザデー タ」->「初期設定」で設定ダイアログを呼出し、経路タブを選択します。

追加 分類コードを新規に作成します。

削除 使用している経路データが無い場合のみ削除可能です。

既存の分類コードの名前を変更します。使用している経路データがある場合は全て変更され 名称変更 ます。

分類が一つ選択されているとき、対応する線の属性と文字属性を標準値として設定できます。この標準 値は経路作成/更新ダイアログで「標準値」ボタンをクリックしたときに参照されます。

このダイアログのリストの順序は経路作成/更新ダイアログの「分類」メニューの順序と一致します。 ドラッグして順序を変更できます。

## e00ファイルを経路データとして読込む

GISソフトArc/Infoの外部連携用ファイル形式としてファイル拡張子が eOO のファイルが各種公開され ています。その中でラインデータを含む物について、そのラインデータをユーザ経路データとして取り込 むことができます。

「ファイル」メニューの「読込む…」でe00ファイルを選択し読込みます。標高データと一緒に読込むこ ともできます。ファイル名が経路データの「分類」として、ファイル内の1ラインが1「ユーザ経路データ」 として読込まれます。

個別データの経路名は "Arc" の後にシーケンス番号を続けた物になります。線の属性や、文字属性は固 定で変換されるので、読込後「一括変換」機能を使用して適切に変更してください。

ファイル内にarcデータがない場合は無視します。

ファイルが線でなく領域を示すデータであっても、周囲を線としてのみ認識します。 経緯度は全てWGS84として処理します。

# KMLファイルを経路データとして読込む

KML (およびKMZ) ファイルには様々なデータを含んでいますが、その中にある Placemark の LineString を取出して経路データとすることができます。

KMLデータの項を参照。

SimpleDEMViewer

# 16.3.領域データ

## 概要

地図上の経緯度にリンクした地点を結んだ領域を作成し表示できま す。地図上には領域と表題を表示します。表題は最大3行でフォント や文字サイズなどを設定できます。領域については色とパターンを指 定できます。パターンは、枠のみ、半透明塗りつぶし、網掛などから 選択です。



領域データは「分類」と「レイヤー」コードと合わせて表示/非表示の選択ができます。「分類」は任 意の文字列で指定できます。

Ver. 6.4.3 (AS Ver. 1.4.3) から穴の空いた領域データをサポートしたが、KMLなどの外部データを取 り込んだ時のみで、当プログラム内で新規作成することはできません。また穴部分の構成点を移動編集す ることもできません

### 領域データを作成する

地図領域上で領域周囲の1点にマウスカーソルを位置づけ、ctrl+クリックでポップアップメニューを出し、「領域を作成」を実行します。その点からマウスカーソルまで赤い線が引かれるので次の地点を決めてクリックします。設定中に間違いを訂正するときは Esc キーを押すことで、一つ前の地点に戻れます。既に存在するメモや経路の文字列上でクリックすると、クリックした場所でなくその文字列の基準点アドレスが採用されます。最後の地点ではダブルクリックをします。

ダブルクリックの後ダイアログが現れるので、領域の分類、名称、文字属性、パターンと色を入力します。 指定が済んだら「作成」ボタンをクリッ クします。

分類 メニューから選択するか、直接文字列を入力する。

メニューにない分類は追加されます(確認ダイアログあり)。

- レイヤー 0~9の範囲でメニューから選択します。
- 初期値パターンとその色、表題の文字属性を「分類」に指定されている初期値に設定します。
- 領域名 地図上に表示したい任意の文字列を入力します。改行コードも有効で、最大3行まで使用 できます。3行を超える場合はそれ以降を3行目に表示します。
- パターン メニューから選択指定します。枠のみ/半透明塗りつぶし/網掛/横線/縦線/右下がり 斜線/右上がり斜線から選びます。
- 色を設定 任意の色を設定できます。カラーボックスをクリックして、色の設定ダイアログを出します。
- 領域名の文字属性 領域名を地図上に表示するときのフォント、サイズ、スタイル、色を別ダイアログで 指定します。(別項「文字列属性」を参照)
- 領域の面積 指定した領域の面積を示します。地球を半径6371kmの真球として計算した値です。
- キャンセル 領域データの作成を中止します。
- 作成 領域データを登録し、地図上に描画します。

作成ダイアログを表示したとき、「分類」「レイヤー」「文字列属性」「パターンと色」は直前の作成 /更新ダイアログの内容が設定されています。

4つの経緯度は領域の最北、最南、最西、最東の経緯度を示します。

### 領域データを修正する

個別の領域データの修正と、複数の領域データを一括して属性を修正することとができます。

次の2とおりの方法で領域データ修正ダイアログを呼出して全ての項目を修正できます。

・optionキーを押しながら地図領域上で領域データの表題文字列をダブルクリックする。

・「ユーザデータ」メニューの「一覧編集…」で一覧表を出し、領域データを一つ選択して「編集」ボタン をクリックする。

また、地図上で各地点をドラッグして位置を修正(移動)することができます。option+shiftキーを押 しながら、地図領域上で領域データの表題文字列をダブルクリックします。各地点に黒丸が表示されるの でそれをドラッグします。黒丸以外の場所でクリックすると、移動編集モードを終了します。あるいは、 移動編集モードにしなくとも、optionキーを押しながら、各構成点を直接ドラッグできます。いずれの場 合も、内側の穴を構成する点は移動できません。

#### 一括修正

「ツール」メニューの「ユーザデータの一覧編集」で一覧表を出します。表から複数の領域データを選択し、「一括変更」ボタンをクリックして、以下の項目を変更できます。選択した全ての領域データに適用されます。

・分類、レイヤー、パターン、色、文字属性

#### 領域名の描画位置を変更する

領域名は領域全体を囲む矩形の中央に描画されますが、領域が曲 がっているような時には、領域外に描画されることがあります。文 字列の位置をドラッグして移動できますが、スケールを変えると意 図した位置からは外れてしまいます。

表示位置を経緯度固定にするために以下の操作をします。 #キー を押したまま表題をドラッグして、意図した場所でドラッグを止 め、移動を示す赤い線が消えてから#キーを離します。この時の文 字列を囲む矩形領域の下辺中央の場所に基準位置が変更されます。 右下図のようにドラッグしてみると基準位置が変更されているのを 確認できます。

領域データを保存するとこの情報も書き込まれるので、以降読み 込んだ時にも反映されます。旧バージョンのプログラムで読み込ん だ時にはこの情報は無視されます。



### 領域データの初期設定

ユーザデータメニューの「初期設定...」でダイアログを出し「領域データ」タブを選択します。

「分類」の初期設定

各「分類」コードごとの初期値を設定します。「分類」コードそのものの作成、更新、削除も行えます。 追加 分類コードを新規に作成します。

- 削除使用している領域データが無い場合のみ削除可能です。
- 名称変更 既存の分類コードの名前を変更します。使用している領域データがある場合は全て変更され ます。

分類が一つ選択されているとき、対応するパターンと色、文字属性を標準値として設定できます。この標 準値は領域作成/更新ダイアログで「標準値」ボタンをクリックしたときに参照されます。

このダイアログのリストの順序は領域作成/更新ダイアログの「分類」メニューの順序と一致します。 ドラッグして順序を変更できます。

### 領域が画面上で小さい時表示しない

これをオンにすると、領域を囲う矩形の「幅 x 高さ」が10以下の場合描画しません。オフの場合は 1 以下は描画しません。

## 領域が画面上で小さい時名称を表示しない

これをオンにすると、領域を囲う矩形の「幅 x 高さ」が200以下の場合、名称を描画しません。オフの 場合は常に描画します。ただし、ユーザデータを選択表示する設定ダイアログで、描画する設定になってい ることが必要です。

# KMLファイルを領域データとして読込む

KML(およびKMZ)ファイルには様々なデータを含んでいますが、その中にある Placemark の Polygon を取出して領域データとすることができます。

<u>KMLデータ</u>の項を参照。

# 16.4.GPXデータを読込んでメモ/経路データを作成する

gpx形式のGPSファイルを読込んで、その内容に従ってメモデータまたは経路データを作成します。一個のファイルの中に混在していても処理します。ファイルは「ファイル」メニューの「読込む…」で選択し読込みます。経緯度は常にWGS84としてそのままユーザデータに転記します。また標高値が存在すればそのまま転記します。

常に分類を GPX として読込むので、Waypointデータなどマークを変えて表示したい場合は、読込後 「ユーザデータの一覧編集」から「一括変更」で必要な設定変更をします。必要に応じてユーザデータファ イルとして保存しておきます

# メモデータ

WayPoint (wpt) データがあればメモデータに変換します。

分類は常に「GPX」です。もちろん作成後他の分類に変えるのは任意に実行できます。分類「GPX」が存在しなければ自動的に作成します。存在すればマークや文字属性はその設定に従います。

レイヤーは常に0で作成します。

表題は、wptがname属性を持っていればそれを採用し、無ければファイル名+連番となります。 <time>, <magvar>, <cmt>, <desc>があればコメント欄に転記します。

# 経路データ

Route (rte) および Track (trk) データがあれば経路データに変換します。

分類は常に「GPX」です。もちろん作成後他の分類に変えるのは任意に実行できます。分類「GPX」が存在しなければ自動的に作成します。存在すれば線属性や文字属性はその設定に従います。

レイヤーは常に0で作成します。

rteの場合は1個の経路データに、trkの場合は各セグメント (trkseg) を1個の経路データに変換します。 nameが設定されていればそれを表題にセットします。無ければファイル名+連番となります。

rteの場合、各ポイントにnameがあればそれをノードコメントとします。nameが無くcmtがあればそれを コメントとし、どちらもなくtimeがあればそれを採用します。

trkの場合、 各ポイントにtimeがあればそれをノードコメントとします。timeが無くnameがあればそれを コメントとし、どちらもなくcmtがあればそれを採用します。

# 16.5. KMLデータをユーザメモ/経路/領域データとして読込む

KML(およびKMZ)データは様々なデータを含んでいますが、Placemark を取出してメモ/経路/領域 データとすることができます。"Point" データはメモデータに、"LineString" データは経路データ に、"Polygon: データは領域データに変換します。スタイル設定なども参照しますが、ユーザデータがサ ポートする範囲での変換となります。Polygonは常に平面領域として変換します。建物など立体図形は再現 できません。

#### 共通事項

「分類」は常に「KMLPlacemark」になります。もちろん作成後他の分類に変えるのは任意に実行できます。「KMLPlacemark」が存在しなければ自動的に作成します。

標高値が clampToGround となっている場合、標高値指定無しとして変換します。またその他の設定の 場合でも標高値が Om となっている場合、指定無しとして変換します。ただし領域データが標高値を持た ないので、polygonデータの標高値は無視します。また Extrude オプションも無視します

標高が地表面からの高さとなっている場合、標高データから得られた値にKMLデータの高さを加えて標 高値とします。標高データが読込まれていない場合およびその場所の標高データが無い場合は地表面を 0 m として処理します。

1個のPlaceMarkの中に複数の LineString または Polygon がある場合、すべて同じ名称がセットされます。

KMZデータもそのまま処理できますが、複数のファイルで構成されている場合処理できません。必要に 応じて解凍してからKMLファイルを使用してください。

### メモデータ

1個の Point データを1個のユーザメモデータに変換します。

分類「KMLPlacemark」がなければ自動的に作成します。自動的に作成される場合、そのマークは「白旗」になります。存在すればマークや文字属性はその設定に従います。ただしデータ中にラベルの色と大きさが指定されている場合はそれが優先されます。レイヤーは常に0で作成します。

Name の内容をメモデータの名称欄にセットします。

Description の内容をメモデータの「内容」欄にセットします。内容がCDATAとして指定されたHTML データも表示できるようにセットしますが、リンクなどは機能しません。

#### 経路データ

1個の LineString を1個のユーザ経路データに変換します。

分類「KMLPlacemark」が存在しなければ自動的に作成します。存在すれば線種や色、文字属性などは その設定に従います。ただしデータ中に線の色、太さ、ラベルの色と大きさが指定されている場合はそれ が優先されます。レイヤーは常に0 で作成します。

Name の内容を経路データの名称欄にセットします。

標準の線種は「実線」となります。

#### 領域データ

1個の Polygon を1個のユーザ領域データに変換します。内部の「くりぬき」もサポートします。

分類「KMLPlacemark」が存在しなければ自動的に作成します。存在すれば色、文字属性などはその設定に従います。ただしデータ中にポリゴンの色、ラベルの色と大きさが指定されている場合はそれが優先されます。ただしポリゴンの色の透明度(アルファー値)は無視します。レイヤーは常に 0 で作成します。

パターンは fill が指定されていれば「半透明」に、指定されていなければ「枠のみ」で作成します。 線の色や太さが指定されていても無視します。

・標高値や Extrude 指定は無視します。常に地表上の領域として変換します。

# 16.6.ユーザデータ共通の処理

# ユーザデータを選択表示する

ユーザデータは「分類」と「レイヤー」ごとに表示/非表示を設定できます。また「レイヤー」につい ては、地図の縮尺に応じて自動的に表示/非表示を制御することもできます。

「ユーザデータ」->「表示設定…」メニューでダイアログを出します。「分類」と「レイヤー」をそれぞれ独立に表示/非表示の設定ができます。両方の設定で「表示」指定になったデータのみが実際に表示されます。この設定は地図領域だけでなく、円錐図法などを作成するときにも適用されます。

#### 分類による設定

データの種類と分類毎に次の設定ができます。

メモ

・その分類のメモを表示するかどうか。

.その分類のメモの表題を表示するかどうか。(マークだけを表示するかどうか)

経路

.その分類の経路を表示するかどうか。

.その分類の経路の経路名を表示するかどうか。

.その分類の経路の地点コメントを表示するかどうか。

#### 領域

. その分類の領域を表示するかどうか。

·その分類の領域の領域名を表示するかどうか。

#### レイヤーによる設定

レイヤー毎の設定はユーザデータの種類全体(メモ/経路/領域)に共通です。単純に(1)レイヤー毎に 表示するかどうかを設定するだけでなく、(2)縮尺に応じて表示するかどうかを設定できます。後者はオプ ションで、指定した場合は両者が「表示」となった場合に表示されます。

レイヤー毎に表示/非表示を設定します。

レイヤー毎に、表示する縮尺の範囲を設定します。地図の縮尺がその範囲にあるとき表示します。

## 文字属性を設定する

メモ/経路/領域データの表題及び経路データの地点コメントの文字列に対し、フォントやサイズ色な どの属性を指定できます。個別のデータに設定できるほかに、初期設定で「分類」コードごとに初期値を 設定できます。また一覧編集からの一括更新で選択した複数のデータをまとめて設定できます。

下表の項目を設定できます。

フォント メニューから任意のフォントを選択します。

- サイズ 文字サイズをポイント数で設定します。5~256ポイント の範囲です。
- スタイル 太字、斜体、影付の指定をします。

文字色文字の色を設定します。

背景を不透明にする文字背景の透明/不透明を選択します。

背景色 背景を不透明にするとき、背景の色を指定します。カラーピッカーパネルで透明度も指定 できます。

フォントパネルを使用して「フォント」「サイズ」「太字」を設定できます。「太字」を指定できるか どうかはフォントによります。

不透明 Opaque

透明Transparent

フォントパネルを使用すると「斜体」の設定はクリアされます。フォントパネルで斜体フォントを選択 し、さらに文字属性の「斜体」を指定すると傾きが強くなります。

## ユーザデータの保存と読込み

保存

作成したメモ/経路/領域データ(およびディスクから読出したユーザデータ)を種類毎に一括して、 あるいは特定の「分類」を選択してディスクに保存できます。

「ファイル」->「ユーザデータを保存…」でファイル保存ダイアログを出します。ダイアログでデータの 種類、分類を選択して任意の場所に保存できます。ファイル名は任意ですが、ファイル拡張子はそれぞ れ.jzmemo/.jzrout/.jzarea となります。

ユーザデータを作成、変更、削除したときは、保存しないままSimpleDEMViewerを終了しようとする と警告を出します。その時点で保存するか、無視するか選択できます。ただし環境設定で「常に作業状態 を復元する」設定になっているときは警告を出さずにそのまま保存し、次回起動時に引継がれます。

表題の表示位置のみの変更は保存されないので、表題を移動しても更新とは見なされません。メモのマー クを移動すると更新したことになります。

保存したファイルを後日参照したいときは、「ファイル」メニューの「読込む」を実行します。標高デー タと一緒に読込むこともできます。

ユーザデータファイルの保存は常に新規保存で、更新という考え方はありません。置換えたい場合は同 名で上書き保存します。メモリ上ではファイル単位の管理はしていないので、複数のユーザデータファイル を読込むと区別できないためです。

#### 読込み

「ファイル」メニューの「読込む」でファイル毎か、フォルダを指定して読み込みます。標高データと 同時に読むこともできます。また、ファインダーでユーザデータファイルをダブルクリックしたり、APPア イコンヘドロップすることでも読込めます。

同じユーザデータファイルを読込んでもエラーとはならず、メモリ中に二重に存在することになります。 その場合、全部消して再読込するか、一覧編集機能で個別に重複分を削除します。

読込んだデータの「分類」が新しい物の場合、自動的に登録されます。その場合そのファイルの中で、 最初に出てくるその分類のデータが持つ属性が、その分類の初期値として登録されます。

ファイル拡張子が .sdmemo / sdrout / sdarea の旧タイプのファイルも読込めます。

### ユーザデータの一覧編集

ユーザデータをリスト状に表示し、そこから一つまたは複数のデータを選択して様々な編集を実行でき ます。また削除できます。まずメモ、経路、領域のいずれかを選択した上で、全データを表示するか、特 定の分類のみ、特定のレイヤーのみあるいは両方を指定して選択表示することができます。また分類、レ イヤー、名称、緯度、経度のいずれかにより並び順を指定できます。

特定の一つのデータを選択してすべての項目の編集をしたり、複数のデータを選択して共通の変更を加 えることができます。たとえば、ある分類コードのデータをすべて別の分類に変更する、などができま す。

一覧表示

「ユーザデータ」メニューの「一覧編集」で一覧編集ウインドウを呼び出します。リストには各データ の「分類」「レイヤー」「表題」「緯度」「経度」が表示されます。次の三つのメニューにより表示する データを選択します。

データの種類 メモ、経路、領域のいずれかを選択

分類 特定の分類コードを一つ選択するか「全て」とします。

レイヤー 特定のレイヤー番号を選択するか「全て」とします。

#### 一括変更

リストの中から一つまたは複数のデータを選択して「一括変更」ボタンをクリックして以下の項目を変 更できます。

メモデータ 分類、レイヤー、マーク、表題の文字列属性

経路データ 分類、レイヤー、線種、色、太さ、表題およびコメントの文字列属性

領域データ 分類、レイヤー、パターン、色、表題の文字列属性

#### 個別編集

リストの中から一つのデータを選択して「編集」ボタンをクリックすると、編集ダイアログで各データ の全ての項目を修正、編集できます。リスト上でダブルクリックすることでも同じ操作となります。

#### 削除

リストの中から一つまたは複数のデータを選択して「削除」ボタンをクリックすることで削除ができま す。件数を示して確認を求めます。メモリからサック除するだけで、ディスクにあるファイルからは消えま せん。

#### 検索

検索フィールドに検索したい文字列を入力すると、その文字列を表題に含むデータだけが表示された状態になります。

#### 地図上で場所を確認

リストの中から一つのデータを選択して「地図」ボタンをクリックすると、そのデータが地図上で確認 できるように地図を移動します。地図上でその文字列を赤丸矢印で示します。

#### 書出し

表示中のデータをテキストファイルに書き出します。次章「ユーザデータのテキストファイル書き出し、 読み込み」を参照。データの種類、分類、レイヤーの設定に、検索条件も加えた内容の表示中のデータを 書き出します。

#### 文字列検索による地図の位置付け

メモ/経路/領域データの表題、及び経路データのコメントの中の文字列を指定して検索し、地図領域 上にその位置を示します。単にユーザデータを検索するだけでなく、地図の位置付け機能として使用でき ます。

「検索と移動」メニューの「文字列検索」でダイアログを呼出し、検索したい任意の文字列を指定して 「検索」ボタンをクリックします。メモ->経路->領域の順に検索し、指定された文字列が見つかると地図 領域上でその文字列を赤丸で囲って示します。同じ条件でさらに別のデータを検索したい場合は「検索と 移動」メニューの「次を検索」を実行します。最後まで検索して見つからなかった場合は、メッセージが 出て、先頭に戻って継続するか、中止を選択できます。

検索された文字列の基準点がウインドウの中央になるように地図が描き直されます。縮尺が小さいか、 北極や南極に近い場合は中央に表示できないで、外側に寄る場合があります。

標高データの範囲外のユーザデータも検索するオプションがありますが、標高データをまったく読込ん でいない場合は検索操作ができません。またUTMおよびその他の平面座標系の場合は標高データの範囲外 は検索できません。

0

小数第一位

標高値

# 16.7.ユーザデータとテキストファイルの書き出し、読み込み

ユーザデータをテキストデータとしてファイルに書き出すことができます。またそれを読み込んでユーザ データにします。ArcInfoのEOOファイルや、GoogleのKMLファイルなど、直接読み込めるデータなどが ありますが、それ以外のフォーマットで様々なアプリケーションとやり取りできるように、テキストファ イルで書き出し、読み込みできるようにしました。

メモデータはNumbersで処理できる TSV (Tab Separated Variable)形式に書き出します。経路/領 域データは単純なテキスト形式です。TSVもTabで項目を分けただけのテキストファイルです。

文字属性は書き出しも読み込みもしません。必要に応じて読み込んだ後「一括編集」で設定します。既 存の「分類」を指定すれば、そこに定義済みの文字属性を適用します。

#### 書き出し

前章内の「ユーザデータの一覧編集」から「書出し」ボタンをクリックしてファイル保存ダイアログを 呼び出します。その時表示対象のデータをまとめて1個のファイルとして書き出します。メモ/経路/領域 データのそれぞれに対し、ファイル拡張子は.tsv、.rout、.area と固定です。

経緯度

ファイル書き出しダイアログで以下の指定ができます。

経緯度の形式 度単位の少数か、度/分

標高値

整数か、小数点以下を1

/秒かを選択。

桁か2桁から選択。

領域データおよび標高値が設定されていないデータの場合、この指定は無視します。

🖸 度・分・秒

度単位の浮動小数

#### 読み込み

「その他のデータ」メニューから「テキスト形式のユーザデータを読み込む」を実行しファイル選択ダ イアログでテキストファイルを読み込みます。

ファイル拡張子は.tsv、.rout、.area と固定です。

## テキストフォーマット

各ファイルに以下の条件が適用されます。

- ・ファイルのテキストエンコーディングは常にutf-8。
- ·行の先頭文字が; (セミコロン)の場合はコメント行となる。
- ・経路/領域データでは表題やコメントなど文字列項目は、スペースを含む場合二重引用符で囲む。文字列 内に二重引用符を含む場合は \ を直前に付加する。
- ・表題やメモの内容などの項目に改行コードを含む場合 \r あるいは \n を使用する。

ユーザメモデータ

次の項目をタブ区切りで出力します。

- 表題表題表題をそのまま出力。
- 分類 分類をそのまま出力。
- レイヤー 0から9の一桁の数字。
- マーク マークに付けた番号または名前。標準マークの場合は0から35の番号。旗記号はFlag1か らFlag5、カスタムマークの場合はその名前(=ファイル名)。標準マークの番号は Mark Tableでカーソルをマークに位置付けるとtipsとして表示されます。
- 緯度/経度 度単位の小数、または度、分、秒単位で出力。秒は小数表示。度分秒の場合はそれぞれ 項目が分かれる。
- 標高 メートル単位の整数または小数。メモデータに標高が指定されていない場合、(n/a) と出 力する。入力の場合は -20000 でも良い。
- 内容 改行コードは /r または /n と変換し、その他はスペースも含めてそのまま出力する。

SimpleDEMViewer

サンプル出力。( → はタブ )下の図はNumbersに読み込んだもの。

;表題→け分類→レイヤー→マーク→は緯度→は経度→に標高→に内容

知床岳→日本の主な山→17→120→144.23572717→145.27393682→1254.3→1しれとこだけ(北海道)\r火山 羅臼岳→日本の主な山→14→120→144.07590885→1145.12225028→1661.0→1らうすだけ(北海道)\r深田百名山\r火山

;表題	分類	レイヤー	マーク	緯度	経度	標高	内容
知床岳	日本の主な山	7	20	44.23572717	145.27393682	1254.3	しれとこだけ(北海道) 火山
羅臼岳	日本の主な山	4	20	44.07590885	145.12225028	1661.0	らうすだけ(北海道) 深田百名山 火山

ユーザ経路データ

・ファイルの先頭で経緯度の形式を指定する。測地系は常に世界測地系(wgs84)とする。

・経路データの先頭に Route= で始る1行を定義し、引続いてNodes_Begin とNodes_End の2行で挟ん でノードデータを置く。

- ・以上の組合わせを経路データの数だけ繰返す。
- ・名称、分類の2項目が必須。その他を省略した場合は後述の標準値を使用する。
- ・キーワード、指定項目は半角スペースまたはカンマで区切る。
- ・名称やコメントは原則として " で囲むが、文字列中にスペース、 " や改行を含まない場合は囲わなくとも 良い。 " を含む場合は直前に \ (バックスラッシュ)を置いて \" とする。

<サンプル>

; ユーザ経路データ

AddrForm= D

Route= "おらが山登山道", Kind= "登山コース", LineColor= red

Nodes_Begin

Addr= ( 36.0123456, 139.33333 ), Elev= 456, Comment= "登山口"

- Addr= ( 36.0123444, 139.3340 ), Elev= 499
- Addr= (36.0123400, 139.33433), Elev= 555, Comment= "おらが山山頂"
- Nodes_End

【経緯度形式の指定】

AddrForm= form

formは次のいずれかを指定する。

D度単位例)145.3333333度単位の小数。D.M.S度分秒を.で分離例)145.20.00.0

【経路ヘッダ行】

<キーワード一覧>

Route= Kind= Layer= Line= LineColor= Width= 先頭の2項目が必須で、Route= を左端に指定し、続けて Kind=を指定する。それ以降の順序は任意。

Route= 経路名を " で囲んで指定する。

Kind= 分類名を " で囲んで指定する。(日本語の場合20文字以内で)任意の文字列を指定する。

Layer= レイヤーを整数で0から9の間で指定する。

Line= 線の種類を下のキーワードで指定する。それぞれ実線/破線/一点鎖線/点線を指す。 normal / dashed / dotandline / dots

LineColor= 線の色をRGBA形式(赤、緑、青、不透明度)または色名で指定する。RGBA形式の場合 は全体を括弧で囲み、それぞれの色要素を 0~1.0 の小数で指定し、コンマで区切る。色 名は white / black / red / green / blue のみ。不透明度は 1.0 が不透明、0.0 が透明。 例) LineColor=(1,0,0,1) LineColor=(0.8, 0.5, 0.0, 1.0) LineColor=(red)

Width= 線の幅を0.5から30.0の範囲で指定する。範囲外を指定した場合 1.5とする。

【ノード開始行】

Node_Begin のキーワードのみを指定する。

【ノード行】

<キーワード一覧> Addr= Elev= Comment=

Addr= が必須で左端に指定する。

Addr= 経緯度を括弧で囲んで緯度、経度の順に指定する。形式はAddrForm=の指定に従う。
 南緯または西経の場合前に - (マイナス)符号を付ける。
 例)Addr=(-25.30.45.0 145.0.0.000)
 Addr=(35.750000, -99.33333333)
 Elev= 標高値を整数または小数でメートル単位で指定する。省略するか、-19990以下の値を指定すると「データ無し」となる。
 Comment= ノードに付すコメントを "(二重引用符)で囲んで指定する。
 例) Comment = "中継点 1(給水有り)"

【ノード終了行】

Nodes_End のみを指定する。

【各項目の標準値】

Line=、Width=、LineColor=の3項目については「分類」が登録済みの場合その設定内容にしたがう。 Elev= データ無し Layer= 0 Line= normal Width= 1.5 ポイント LineColor= red

ユーザ領域データ

・ファイルの先頭で経緯度の形式を指定する。測地系は常に世界測地系(wgs84)とする。

- ・先頭に Area= で始る1行を定義し、引続いてNodes_Begin とNodes_End の2行でで挟んでノード データを置く。ノードは3点以上必要。
- ・以上の組合わせを領域データの数だけ繰返す。
- ・名称、分類の2項目が必須で、その他を省略した場合は後述の標準値を仮定する。
- ・キーワード、指定項目は半角スペースまたはカンマで区切る。

SimpleDEMViewer

- ・名称やコンテンツは原則として " で囲むが、文字列中にスペース、 " や改行を含まない場合は囲わなくと も良い。
- ・"を含む場合は直前に \ (バックスラッシュ)を置いて \"とする。

<サンプル>

; ユーザ領域データ AddrForm= D Area= "ABC自然公園" Kind= "公園" Pattern= translucent AreaColor= red Nodes Begin Addr=(36.012456, 139.33333) Addr= (36.012344, 139.3340) Addr=(36.012400, 139.33433) Addr= (36.012302, 139.33421) Nodes End 【経緯度形式の指定】 AddrForm= form formは次のいずれかを指定する。 D 度単位 例)145.3333333 度単位の小数。 D.M.S 度分秒を. で分離 例) 145.20.00.0 【領域ヘッダ行】 くキーワード一覧> Area= Kind= Layer= Pattern= AreaColor= 先頭の2項目が必須で、Area= を左端に指定し、続けて Kind=を指定する。それ以降の順序は任意。 領域名を『で囲んで指定する。 Area = Kind= 分類名を " で囲んで指定する。(日本語の場合20文字以内で)任意の文字列を指定す る。 レイヤーを整数で0から9の間で指定する。 Layer= 領域パターンを以下のキーワードで指定する。 Pattern= frame, translucent, dots, horizontal, vertical, RightUp, RightDown パターンの色をRGBA形式(赤、緑、青、不透明度)または色名で指定する。RGBA形式 AreaColor= の場合は全体を括弧で囲み、それぞれの色要素を 0~1.0 の小数で指定し、コンマで区切 る。色名は white / black / red / green / blue のみ。不透明度は 1.0 とする AreaColor = (1, 0, 0, 1)例) AreaColor = red

【ノード開始行】

Node_Beginのみを指定する。

【ノード行】

Addr= のみを指定する。

 Addr=
 経緯度を括弧で囲んで緯度、経度の順に指定する。形式はAddrForm=の指定に従う。

 南緯または西経の場合前に - (マイナス)符号を付ける。

 例)Addr=(-25.30.45.0 145.0.0.000)

Addr= ( 35.750000, -99.33333333 )

【ノード終了行】

Nodes_End のみを指定する。

【各項目の標準値】

Pattern=、AreaColor=の2項目については「分類」が登録済みの場合その設定内容にしたがう。

Layer= : 0 Pattern= : dots (網掛) AreaColor= : red

# 17. テクスチャーマッピング

任意の画像をテクスチャーとして地形表面に貼り付けることができ ます。LandSat衛星画像などが主な対象ですが、それに限らず、航空 写真、地形図、地質図、土地利用図なども考えられます。

地図領域だけでなく、各図法画像、鳥瞰図、ステレオ画像、展望図 に適用できます。右図は地図領域の平面図にランドサット画像をマッ ピングした例です。

初めに「ツール」メニューの「テクスチャーマップを設定」でダイ アログを呼び出します。このダイアログで、テクスチャーとして使い たい画像ファイルを読込み、画像毎に四隅の経緯度を設定します。読 込んだ画像がGeoTiff形式の時は四隅の経緯度を自動認識します。 ま たワールドファイルが添付されていれば認識します。LSMixer(注)



により経緯度付きで作成された画像も認識します。国土地理院の地形図の時は管理ファイルがあれば自動 認識して、経緯度を設定します。

(注) LSMixer:品川地蔵のサイトで公開しているプログラムで、ランドサットデータをカラー画像に変換します。 <AS注>国土地理院の地形図の管理ファイルを認識できません。自分で設定する必要があります。

# テクスチャーマップダイアログ

ファイルリスト

読込んだファイルの名称がリス トアップされます。順序がその まま優先順となり、範囲が重 なっている場合、上にあるテク スチャーが描画されます。順序 はファイル名をドラッグして変 更します。後述の「不透明度」 が100%でない場合も、適用さ れた場合、以降のテクスチャー は参照しません。

「描画」チェックボックスは、 そのファイルを一時的に描画対 象から除外したい場合チェック を消します。

- テクスチャーマップを読込みま 読込む す。ファイルブラウザで任意の 画像ファイルを読込めます。
- 取除く 選択しているファイルをメモリ から削除します。(HDD上の ファイルは消えません。)
- 画像を表示 選択しているファイルの画像を 表示します。大きな画像の場合 は512ピクセルに縮小して表示 します。確認用です。
- 四隅の経緯度 ファイルが選択されているとき 表示され編集可能になります。

) 💿 🔵 テクスチャ	ーマップ
画像ファイルを読込んでテクス÷ します。	チャーマップとして設定
ファイル名	描画 読込む
NZ北島.jpg	
	取除く
	画像を表示
ファイル:NZ北島.jpg	
画像サイズ W	/6000 x H8816 pixels
四隅の経緯度 経緯度	実線に平行
北西	北東
S 33.54.47.065	S 33.54.47.065
E 171.57.51.103	E 179.03.33.319
南西	南東
S 41.42.11.636	S 41.42.11.636
E 171.57.51.103	E 179.03.33.319
使用領域	地図上で位置決め
<ul> <li></li></ul>	画像データが 持つ経緯度に 設定
不透明度 100 %	座標系を変更
✔ アンチエイリアシングを適用	用する。
海面、湖面にも適用する。	
陰影処理を適用する。	閉じる

閉じる

次の「経緯度線と平行」がチェックされているときは、北西と南東のみが指定でき、そうで なければ四隅を独立に指定します。

北極点や南極点を内包する画像の設定はできません。

#### 経緯度線と平行

- 画像の周囲が経緯度と平行なときにチェックします。描画速度が向上します。画像データが 平面座標系の位置情報を持っている時は、チェックできません。
- 使用領域 画像全体を使用するか、一部の領域を対象外とするか指定します。 ランドサット画像が斜めで周囲に余白(黒)がある場合や、地形図の地の白い部分を透明に するなどのとき白か黒を選択します。白あるいは黒い領域を除外すると指定した場合、該当 領域はテクスチャーマップが適用されていないことになります。
- 不透明度 テクスチャーマップを適用するときの不透明度を設定します。100%ならテクスチャーマッ プの色がそのまま適用されます。それ以下の値の場合、地の色と混ぜ合されます。100%未 満の場合でも、他のテクスチャーマップは適用されません。

#### 地図上で位置決め

地図領域上に画像を表示して、全体の移動、拡大縮小、四隅をドラッグして位置付けること により経緯度を設定します。テクスチャーマップ設定ダイアログは一時的に消えます。位置 決め操作については下の「位置決め操作」の項を参照。

#### データが持つ経緯度に設定

画像ファイルがアドレスを持っているときでも四隅の経緯度を編集できますが、ファイルが 持つ情報に戻すときクリックします。

座標系を変更 画像ファイルがワールドファイルでアドレスを指定されていて、かつUTMおよびその他の平 面座標系の場合に表示され、読込後に変更できます。

#### アンチエイリアシングを適用する

画像がきれいに再現されるが速度が遅くなります。

#### 海面湖面にも適用する

標準では海面や湖面にはテクスチャーマップを適用しませんが、適用したい場合にチェック します。

#### 陰影処理を適用する

標高データを用いた陰影処理をテクスチャーを描画した領域にも適用するときチェックしま す。航空写真など画像に陰影が含まれているときはチェックしないほうが良い場合がありま す。

### 位置決め操作

画像の正確な位置が不明で、経緯度を直接指定するのが困 難なとき、地図領域上に表示して位置合わせをすることがで きます。

テクスチャーマップ設定ダイアログの「地図上で位置決 め」ボタンをクリックしたとき、一時的にダイアログを消し て、該当画像を地図領域内に配置します。すでに四隅の経緯 度が設定されていればそれに従って配置し、なければ現在の 地図領域の中央に配置します。

四隅の赤丸をクリック&ドラッグして四隅を独立に動かす か、内側でクリック&ドラッグして全体を動かすことができま す。また操作パネルから、全体を拡大したり縮小したりできま す。

位置決め操作中はメニューバーのメニューは使えませんが、



	テクスチャ-	-マップ	
透明	不透明	拡大	縮小 決定
	──────	中止	

地図の移動、拡大縮小は地図領域上でctrl+クリックしてポップアップメニューから実行できます。地図の ドラッグやスクロールバーによるスクロールもできます。

位置決め操作中に表示されている操作パネルでは、以下の操作ができます。

拡大/縮小 テクスチャー画像の中央を基準に1.1倍拡大または1/1.1に縮小します。

経緯度基準ではなく、画面上の形を保ったまま適用範囲を拡大/縮小します。

透明(スライダー)

位置決め操作中の画像を描画するときの透明度を設定します。背景を透かしてみることで位 置決めをしやすくします。画像中の透明部分は薄い黒として描画します。位置決め専用の一 時的なもので、テクスチャー設定の「不透明度」とはリンクしません。

中止 位置決め捜査を中止して設定ダイアログに戻ります。四隅の経緯度は以前のままです。

位置決め結果を設定ダイアログに反映して位置決め操作を終了します。 決定

## ワールドファイル

ワールドファイルは bil ファイルの場合と同様ですが、画像が平面 座標系で座標軸に平行でない場合、全6行を使用します。右図は画像 の右上隅の1ピクセルを表したものですが、a から f はワールドファ イルの第1行から第6行の値を示しています。

第1行 (a):1ピクセル東隣との東西方向の差

- 第2行 (b):1ピクセル東隣との南北方向の差
- 第3行 (c):1ピクセル南隣との東西方向の差
- 第4行 (d):1ピクセル南隣との南北方向の差
- 第5行 (e) : 画像の左上隅にあるピクセル中央の東西方向の座標。

第6行 (f) : 画像の左上隅にあるピクセル中央の南北方向の座標。

a は常にプラス、d は常にマイナス。b と c は図のように右下がりならマイナス、右上がりならプラス になります。

各行の値は経緯度なら度単位または秒単位に統一、UTM/XY座標ならメートル単位に統一です。

ワールドファイルを UTMおよびその他の平面座標系と認識した場合、ゾーン番号を問い合わせます。た だし過去に読込んだ実績があり、情報が保存されていれば問い合わせずに適用します。また初めて読み込 んだ場合で、標高データがUTMまたはその他の座標系の場合、その座標系であるとして処理します。間違 えたゾーン番号を指定した時は、後で修正できます。

## サンプル

右のような文字図形をテクスチャーマップとした例です。下の 図は後述の展望図です。白い部分を透明に指定しています。この 場合画像がjpegだと文字周辺が純白でないので結果がうまくい きません。tiffやpngの方が適しています。

# 注意事項

- ・画像の持つ経緯度がUTMでも常に四隅の経緯度で指定します。
- GeoTiffやワールドファイル添付で画像の座標が指定されている時は、それが平面座標であれば内部的に 平面座標系で管理します。
- ・経緯度を正しく設定しないままダイアログを閉じようとすると警告が出ます。設定できないときは該当 ファイルを取除いてください。
- ・保持したままダイアログをいったん終了したいときは、「地図領域で位置決め」機能を使って仮配置して おくこともできます。ただし標高データが読込まれていることが必要です。





・GeoTiffに設定されている測地系(Datum)は無視して、常にWGS84として処理します。

- ・一度設定した情報は保存されます。同じファイルであればゾーン番号も含めて過去に設定した情報が自動 的に適用されます。ファイル名で管理しているので、場所を移動しても認識します。ただし画像の大きさ が異なるときは同名の別ファイルとして以前の情報は捨てられます。
- ・テクスチャマップの座標系が名前付き平面座標の時、複数の平面座標系を使用していてその構成を変化させると、保存されているテクスチャーマップ情報の座標系が変わってしまうことがあります。その時は正しい座標系を選択し直してください。

# 18. 矩形領域を選択する

地図画像を保存するときと、「鳥瞰図」「ステレオ画像」「グレースケールマップ」および「SRVC立体 地図」を作成する対象となる矩形領域を指定できます。また、最高最低標高ポイントを探すときの対象に もなります。標高データを別ファイルとして作成する時の、範囲の初期値にもなります。標高データインス ペクタでは、領域内に一定の標高値を設定できます。

地図上でポップアップメニューを出し「矩形領域を選択」を選びます。マウスを移動して描かれる矩形を 見ながら適当なところでクリックして確定します。経度および緯度に平行した矩形になります。(UTM座 標およびその他の平面座標系の場合は経緯度とは平行になりませんが、北西隅と南東隅の経緯度で管理さ れます。)

地図上に描画されている矩形領域の各辺をドラッグし て変更することができます。また「ツール」メニューの

「矩形領域の設定/解除」により、矩形領域を経緯度で 指定したり、「クリア」ボタンで設定を解除することが できます。

N 36.03.46.000	<b>(</b> )
E 138.18.16.300	•
左上	石
	N 35.54.32.000
	E 138.26.47.171



右図はアドレス無し標高データの場合で、単位はメートルで す。赤枠の外側、四辺にある数字は読込まれている標高デー タの範囲です。



# 19. 経緯度をコピー/ペーストする

各ダイアログで入力可能な経緯度コントロールが選択されているとき、経緯度情報をテキストデータと してコピーすることができます。また逆にテキストデータから経緯度コントロールへペーストすることがで きます。経緯度コントロール同士で直接コピー/ペーストもできます。

地図領域上のポップアップメニューからマウスポイントの経緯度をコピーすることもできます。

経緯度コントロールやポップアップメニューからのコピーする時の形式は、専用フォーマットか2個の浮 動小数点数のいずれかで、環境設定で選択します。

# テキストのフォーマット

専用フォーマット(DMS形式)

全て半角で先頭に 'LW '、続けて緯度、経度です。緯度の先頭は文字 'N' か 'S'、経度の先頭は 'E' か 'W' で、度、分、秒の区切りはピリオドです。1/10秒の単位は省略可。スペースが入れば後ろに無関係な 文字列があっても受付けます。

例: LW N30.15.25.0 E111.10.30.0 LW S23.10.0 W44.50.10

ISO 6709

±DD.DDDD±DDD.DDDD 度
±DDMM.MMM±DDDMM.MMM 度分
±DDMMSS.SS±DDDMMSS.SS 度分秒
+の場合も必ず指定し、間にスペースを置かない。
例: +26-110
 -45.66666+15.25
 -4540+1515
 -4540.000+1515.000
 +364533.000-1293636.333

2個の浮動小数点数のみ

±dd.dddd ±ddd.ddd +は省略可能。度単位の数値を緯度、経度の順に指定する。

例: 38.33333 141.0123333 +42 142.666666 -65.3333 -23.456666

2個の正の浮動小数点数とNSEWの文字

Ndd.dddd Nddd.dddd または dd.ddddN ddd.ddddN Nは緯度の場合 'N' または 'S'、経度の場合 'W' または 'E'。緯度経度はどちらが先でも可。前後や間に 数字以外の文字が入っても無視する。ただしスペースが必要。

例: N33 E123 33N 123E S5.11111 W99.5 E133.5678 N23.45678 北緯 36.3333N 東経 111.2345E

小数点を2個または3個含む数字列が2個ある場合

33.26.30 137.40.15 あるいは 33.26.30.123 137.40.15.789 など 33度26分30秒 あるいは 33度26分30.123秒 のように処理します。

先頭にマイナス符号があれば南緯または西経となります。また文字列中に東西南北やNSEXの文字を見つけた場合は緯度経度の順も含めて適切に処理します。

上記以外の文字列

3個の数値を含む文字列の場合3番目の数値を無視して、上記いずれかの処理をします。

4個または6個の数値と様々の文字を含む文字列を次のように処理します。

数字(+、一、小数点を含む) N S E W North South East West (大文字小文字は無視する) および 北 南 東 西 の文字(列)以外は全て無視して処理します。全角の数字(+、一、小数点を含む)も数値とし て認識します。

4個または6個の数値を前後二つに分けます。それぞれを度分、または度分秒として処理します。それぞれの最後の数値は少数点数を正しく処理します。

34:12:55 West 35:46:12.123 South

緯度34°19'06.8" 経度131°34'05.0"

東経135度1分2.567秒 北緯33度21分33.4秒
# 20. 外部の地図で場所を表示

Appleの「マップ」アプリケーションや、ウエッブサイトのGoogleマップを呼出して、 地図領域上でポッ プアップメニューを呼出した場所を表示することができます。

いずれもインターネットにアクセスできることが必要です。

# 「マップ」アプリケーションで表示する

「マップ」を呼出して(プログラムが動いていなければ起動して)該当する場所を表示させます。中央に ピンアイコンを表示します。当プログラムの地図領域のスケールに応じたスケールで表示します。

# safariでGoogleマップに表示する

safari(あるいはデフォルトブラウザに設定されている別のブラウザ)を呼出して(プログラムが動いて いなければ起動して)該当する場所が中央になるように表示させます。

# 21. 経路に沿った距離の測定

地図領域上の任意の2地点間の経路に沿った距離を測定できます。 距離 を測定したい基準となる地点でポップアップメニューを出し、「経路に 沿った距離の測定」を選択します。その地点からマウスカーソルまで赤い 線が引かれ、開始点からの距離が示されます。別の地点でクリックするこ とによりそれまでの線が固定され、引き続き経路に沿った距離が表示され ます。

位置決めの時ユーザデータの文字列上でクリックすると、その文字列の 基準点が使われます。Escキーを押すと最後の地点をキャンセルして一つ前 に戻ります。ダブルクリックで終了します。

距離の単位はkm/マイル/海里から選択でき、環境設定の「その他」タブ で設定します。距離が短いときはmまたはyard単位で表示します。

2地点間の距離は大円距離です。2地点間の距離が150kmを超える場合は その間を結ぶ線は大円で描画します。

計算は地球を真球とみなしているので、2地点間の距離が数百キロ以上に なる場合、誤差が大きくなります。



# 22. 最高/最低標高を探索する

読込んでいる標高データの中から、最高または最低標高の地点を探します。地図上で位置づけるととも に、経緯度、標高値などをパネルに表示します。また結果をテキストデータで取得できます。

最低探索の場合、DEMファイル中でデータ無しとなっている場所、海は対象外です。 表示する標高値は、計算値でなくDEMファイルが持つ生データです。ただし元がフィートの場合はメートルに換算した値です。

# 操作

「ツール」メニューの「最高/最低標高を探索...」でダイアログを表示します。

最高/最低のどちらを探すか、探す範囲を 指定した矩形領域 / ウインドウに表示中の範囲 / データ全体 から選択して「探索」ボタンをクリックします。

探索した場所を赤丸矢印で示すとともにその近くに内容を示したパネルを表示します。

ウインドウ範囲の探索のときは、場所がウインドウの端にあたる場合でも移動せずに、赤丸矢印が半欠けの状態になります。

# 表示内容

標高 メートル単位の表高値をDEMに合わせて整数または小数第2位まで表示します。
 経緯度 経緯度を度分秒表示します。複数の同値の場所があるときは最初に検出した場所を表示します。UTMや平面直角座標の場合も経緯度で表示します。

DEMファイル名 検出した場所を含むDEMのファイル名を示します。

DEM中のXY位置 DEMファイル中の位置を東北角(左上)基準で示します。 「変換済み50m」の場合は内部で分割された単位になるので意味を持ちません。

「経緯度をコピー」ボタンで、経緯度と標高をテキストとしてクリップボードへコピーします。アドレス 無しデータの場合は使えません。



文字列の形式(度分秒か度単位か)は環境設定の指定に依存します。

# 23. 等高線

段彩図上に標高データから計算した等高線を描画します。 等高線の間隔と色を設定できます。地図領域に描画する等高 線は一時的な物で、地図をスクロールしたり再描画すると消 えます。

Retinaディスプレイを使用していて倍密度の描画を選択している時、等高線も倍密度対応となり線が細くなります。描画時間もほぼ4倍かかります。

地図画像を保存する時と各図法画像を作成するときにも等 高線を描画できます。このときの設定は地図領域に描画する 設定が使われます。地図領域に描画する時は、実際には線で なく、1ドットごとの点の連続になっていますが、地図画像 を保存する時と各図法画像を作成するときには、線として描 画することを選択でき、線の太さも設定できます。次ページ 「ベクターモード」を参照。

等高線の設定をまとめて「等高線セット」として保存で き、メニューから名前で呼び出せます。

# 設定ダイアログ

「ツール」メニューの「等高線を描画」でダイアログを呼 出します。適切な設定をして「描画」ボタンをクリックする ことで地図領域に等高線を描画します。またEOPO2のよう に海底の標高値を持つ場合、等深線も引けます。

- 等高線セット名 等高線セットを呼び出して各項目にセット します。
- 現在の設定を名前をつけて「保存」

名前を付けて保存し、メニューに追加しま す。

- 「削除」ボタン 現在メニューに表示されている投稿線セットを削除します。「標準」セットは削除できま せん。
- 等高線の間隔 任意の整数で、メートルまたはフィート単位で指定します。最小1mまたは1ft。
- ー定間隔で色を変える(計曲線)

2/3/4/5/10本毎から選択。

- 色を選択 等高線の色をメニューから選択。主曲線と計曲線のセット。
- 主曲線 通常の等高線の色。クリックして個別に変更できる。
- 計曲線 上で指定した一定間隔毎の等高線の色。ク リックして個別に変更できる。

[0] mより低い線は下の設定による

等深線については一定間隔でなく、指定し た深さの線だけ引くことができます。色は 任意の2色を指定して選択適用します。テー ブル内で深さを任意に指定でき、線の数も





77

増減できます。 通常は等深線を引くために使いますが、陸上の海岸近くの平地に通常より狭い間隔で等 高線を引くためにも使えます。境界を指定する標高の値は最高1000mです。

色1、色2 使用する2色を設定します。クリックしてそれぞれの色を変更できます。

深さ/標高 線の色

線を引きたい深さと、それぞれに使用したい色を指定します。色は主曲線/計曲線の色も 選択できます。

+、- テーブル内の行を追加/削除します。

Omより高い線は引かない

等深線のみ欲しい場合チェックします。

Omの線は引かない

海岸線に等高線を引きたくない場合チェックし ます。内陸の0mの線も引きません。

Omより低い線は引かない

海底の等深線が不要な場合チェックします。 クリックして等高線を描画します。

# ベクターモード

描画

地図画像を保存する時、SRVC立体地図および各図法画像を作成 する時に、それぞれのダイアログで等高線の描画とベクター モードを使用するかを指定できます。ベクターモードでは線の 太さも選択できます。等高線の間隔や色などそのほかの設定は、 地図領域に描画するダイアログの設定がそのまま適用されます。

等深線テーブルで指定する線の色が「色1」「色2」の場合は等深線の線の太さが適用されますが、「主曲線」「計曲線」を選択した場合はそれぞれの太さが適用されます。

ベクターモードで描画し、PDF形式で保存すると、Illustratorなどで等高線を線として処理できます。た だし簡易モードに比べると数十倍の時間がかかることもあります。

下図はそれぞれの設定で作成した画像を同じ比率で拡大したものです。最後の画像以外は PNG 形式で 保存しています。いずれも線の太さは標準設定です。

最初の画像は簡易モードで72dpi。 2番目は簡易モードで144dpi。

3番目はベクターモードで描画し PNG で保存。 最後はベクターモードで描画し、PDF形式で保存 したものです。PDFビューア(Acrobat Reader) で拡大表示したものをキャプチャーしています。ど ちらも144 dpiです。







- ・地図領域上では描画済の等高線を消さずに上書きするので、間隔を変えたときは、予め地図を再描画し て等高線を消去する必要があります。
- ・地図画像を「ウインドウ範囲」、同じスケール、同じ dpi で保存する場合、地図領域に描画済みの画像
   をそのまま保存します。保存ダイアログで等高線の描画を指定するときは、予め地図領域内の等高線は消しておいてください。
- ・「画像の保存」や「SRVC立体地図の作成」「各図法画像の作成」で等高線の描画を指定したとき、等 高線ダイアログで最後に「描画」ボタンをクリックしたときの設定が適用されます。

# 24. 傾斜度合による描画

標高データから算出した傾斜度合により色分けして段彩 図上に描画します。描画は一時的な物で、地図をスクロー ルしたり再描画すると消えます。

右図は基盤地図情報の5mメッシュ標高を利用し、30度 以上の傾斜地のみを赤で描画したもの。

# 設定ダイアログ

「ツール」メニューの「傾斜による描画」でダイアログ を呼出します。適切な設定をし て「描画」ボタンをク

リックすることで地図領域に傾斜度合により指定された色で描画します。

- 描画 描画したい傾斜区分をチェックし、それ以外はチェックを外します。
- 傾斜区分 各区分けの下限を度で指定します。0度から89度の範囲で下降順に指定します。「描画」区 分のチェックを外している行も参照されるので正しく設定します。
- 描画色 それぞれの区分の色を任意に指定します。カラーボックスをクリックしてカラー選択ウイン ドウを出します。ドラッグ&ドロップによりカラーボックス間でコピーできます。
- 不透明度 段彩図上に描画するときの不透明度を設定します。100%で完全な上書きです。0%では結果 が見えません。
- カラーセット 描画、傾斜区分、色、不透明度をセットにして名前付で保存できます。保存したものはメ ニューで選択できるようになります。
- 描画範囲 描画対象地域を標高値の上限下限で設定できます。上限のみ、下限のみの指定もできます。 グラデーション

各区分の色を連続的に変化させます。最上位区分は変化しません。

描画ボタン クリックして描画を実行します。

# その他

- ・描画済の傾斜色を消さずに上書きするので、全ての傾斜区分を描画し、100%不透明以外では描画する 前に地図を「再描画」して以前の傾斜色を消去する必要があります。
- ・下図はまず右の設定で描画したものをTiff画像として保存し、それをテクスチャーマップとして利用した
   画像です。テクスチャーマップにも陰影を適用する設定で描画しました。







# 25. 鳥瞰図

# 鳥瞰図とは

文字通りには「鳥の眼から見た図」という ことで空中高くから地上を眺めた図を言いま す。SimpleDEMViewerの鳥瞰図は空中高く

には違いないのですが、無限遠から見た図ということになります。しかも地球の丸みを無視して描画する ので「平らな板の上に作った立体地形模型」が近いイメージです。本来の鳥瞰図に近いのは後に出てくる 展望図の方です。

上図は富士山(俯角15度で南東からの鳥瞰図)SRTM3秒メッシュを利用

経緯度情報を持つデータの時は、領域中央の緯度に基づいて経度方向と緯度方向の画像の大きさを自動 的に調整します。一つの画像の中では緯度にかかわらず緯度1度あたりのサイズが同じになるので、高緯 度地方では(低緯度地方でも広い範囲を描画したときは)歪みが大きくなります。

# 設定ダイアログ

「ツール」→「鳥瞰図を作成…」でダイアログを表示しま す。

作成範囲 予め設定した矩形領域、ウインドウに表 示中の範囲、読み込んであるデータ領域 全体から選択します。データ領域全体を 指定した場合、全データ領域を含む矩形 領域が対象領域となります。この矩形領 域は180度の経線をまたぎません。した がって180度の経線の両側にデータがあ る場合、地球を一周する矩形領域となり ます。 経緯度情報のないデータ(UTM およびそ

液構度情報のないアータ(UTM およいその他の平面座標系を含む)の場合、ウインドウ範囲を指定してもデータのない領域は対象外となります。

視線の方向 360度任意の方向を指定できます。経緯 度情報を持たないデータの場合は上を北 と見なします。方位角を直接指定するか ダイヤルで指示します。ダイヤルの場合周 囲の目盛りをクリックするか、矢印の先 端をドラッグします。



陰影の種類/強さ/光の方向

陰影の付け方を地図領域と同様に指定します。光の高度角は常に45度です。 陰影無しも選択できますが、複数の画像を組み合せて(画像処理ソフトなど)後処理で 加工する場合に使います。

- 俯角 見下ろす角度を度単位で指定します。0度(水平)から90度(真下を見る)の範囲で指 定できます。
- 高さの強調 水平方向に対し高さを強調する度合いを、最大10倍の範囲でメニューから選択します。



画像のスケール 標高データの1点を1ドットに表現するのを基準に、何%に拡大/縮小するかを指定しま す。画像の高さは領域の大きさ、俯角、最高標高によって自動的に調整されます。 画像の大きさは縦横とも最大65500ドットです。

傾斜による色分けを描画する

傾斜度合による色分けを鳥瞰図上に描画します。設定は地図領域に描画するときと同じ設 定になります。

テクスチャーマップを適用する

テクスチャーマップを適用します。

カラーテーブルを表示する。

カラーテーブルを画像内四隅のいずれかに挿入します。スライダーで大きさを指定しま す。大サイズは縮小印刷するときなどに使用します。

# 文字列の追加・編集。

完成した画像上に任意の文字列を追加できます。追加したい場所でコンテクストメニューから文字列を 追加するダイアログを表示します。既存の文字列上でコンテクストメニューを出せば、変更ができます。 ドラッグして移動でき、ウインドウ外までドラッグすると削除できます。

# 26. ステレオ画像

地形を真上から見た形で表現する立体視用の画像で、平行視、交差視、アナグリフの3種類があります。

# 平行視・交差視

右目用、左目用の2枚の画像を並べて立体視します。右図は平行 視用で、左の画像を左目で、右の画像を右目で見ます。交差視の場 合は左右逆に、左の画像を右目で見ることになります。次のアナグ リフと違ってフルカラーで楽しめますが、(特に平行視は)画像の 大きさに制限を受けます。

# アナグリフ

左目が赤、右目が青(または緑色)のメガネを 利用します。(普通のメガネに色つきセロハン紙を 貼ったものでも可能です)画像は単調な色に制限されますが、大きさ が自由になります。

右図は八ヶ岳のアナグリフ画像、SRTM3秒メッシュを利用

# 設定ダイアログ

作成範囲

予め設定した矩形領域、ウ インドウに表示中の範囲、 読み込んであるデータ領域全 体から選択します。データ領 域全体を指定した場合、全 データ領域を含む矩形領域 が対象領域となります。この 矩形領域は180度の経線をま たげません。したがって180 度の経線の両側にデータが ある場合、地球を一周する 矩形領域となります。 経緯度情報のないデータ (UTMおよびその他の平面 座標系を含む)の場合、ウ インドウ範囲を指定しても データのない領域は対象外 となります。



画像の向き 360度任意の方向を指定できます。経緯度情報を持たないデータの場合は上を北と見なし ます。方位角を直接指定するかダイヤルで指示します。ダイヤルの場合周囲の目盛りをク リックするか、矢印の先端をドラッグします。

陰影の種類/強さ/光の方向

陰影の付け方を地図領域と同様に指定します。光の高度角は常に45度です。 陰影無しも選択できますが、複数の画像を組み合せて(画像処理ソフトなど)後処理で 加工する場合に使います。

- 高さの強調 1から20の範囲で指定します。1から5はメニューから選択できます。1が実際に見た イメージに近いが、地表の高度差が大きくないと立体感が得にくくなります。逆に強調し すぎて山など凸地の反対側が見えなくなると立体感を感じにくくなります。
- 画像のスケール 標高データの1点を1ドットに表現するのを基準に、何%に縮小するかを指定します。東 西方向は緯度に応じてさらに縮小されます。画像の横幅は65500ドットを超えられない ので、超えるような%値は指定できません。
- 画像サイズ 平行視/交差視の時は横に2 枚並べた大きさとなります。 アナグリフでは自動で決定さ れたものになりますが、平行 視、交差視では画像サイズを 直接ドット数で指定できま す。次の図で黄色い四角形が 最終画像(指定した横幅x高 さ)、黒線による四角形が左



右それぞれの画像、緑色の部分に地形が描画されます。

- 横幅・高さ 最終画像の横幅と高さを指定します。
- 間隔 左右の画像の距離を指定します。

標準横幅、高さ、間隔を標準値にします。

「指定経緯度を中心にサイズ指定」を選択した場合は、次図のように横幅、高さと経緯度を指定します。 片画像の横幅/高さ 画像サイズ 602W x 400H (1.8 MB)

片画像の横幅

高さ

300

400

画像中央

の経緯度

片目用の画像サイズを縦横の

ドット数で指定します。アナ

グリフの場合は最終画像の大

きさと一致します。指定した

サイズで描画される領域が地図上に白い 枠線で表示されます。

- 画像中央の経緯度 ポップアップメニューから起動した時 はクリックした場所の経緯度がセットさ れます。矩形領域や、ウインドウ領域な どのメニューから変更したときは、それ ぞれの場合の中心経緯度がセットされま す。直接経緯度を編集することもできま す。
- 一方を垂直視する

ステレオの一方の画像を斜めに見ず、垂 直に見下ろすようにするオプションで す。後処理で正確な経緯度地点に書込み



N 35.59.55.200

E 138.52.31.586

ができるようにするための機能です。右目用、左目用どちらを垂直視にするか選択できま す。

垂直視とした画像に経緯度線を描画するオプションがあります。描画できるのは画像の向 きがちょうど東西南北の時だけです。経線、緯線それぞれの間隔、線の色、太さを設定で きます。

傾斜度合による色分けを適用する

段彩色でなく、傾斜度合により塗り別けることができます。設定は事前に「ツール」メ ニューの「傾斜による描画…」ダイアログで設定します。 テクスチャーマップを適用する

テクスチャーマップが読込まれている時指定できます。地図領域と同等に適用します。

## 文字列の追加・編集。

完成した画像上に任意の文字列を追加できます。追加したい場所でコンテクストメニューから文字列を 追加するダイアログを表示します。既存の文字列上でコンテクストメニューを出せば、変更ができます。 ドラッグして移動でき、ウインドウ外までドラッグすると削除できます。

追加した文字列にステレオ効果はありません。

# その他

- ・画面で肉眼で平行視するときは、左右の画像の間隔が概ね250ドット以内でないと見るのが難しくなり ます。交差視の場合は画面いっぱいの大きさでも問題ありません。
- ・アナグリフの時は右目用の図から赤を、左目用の図から緑と青を取り出して合成します。元の色彩は白に 近い明るい色が見やすくなります。
- ・方向を示す矢印は指定した領域の中央に表示しますが、全データ領域を指定した場合など地図領域から
   外れる場合は、地図の中央に描画します。
- ・「指定経緯度を中心にサイズ指定」の場合に地図上に表示される枠線は、経緯度区切り標高データの場 合正確な長方形にはなりません。特に基準緯度から離れている場合は大きく歪みます。



# 27. SRVC立体地図

# SRVC立体地図とは

地表面の傾斜、地上開度、地下開度から計算 した尾根谷度、さらに地表面の曲率を組合わせ た地図です。陰影図とは違い地形の方向によら ず形状が明瞭にわかり、またステレオ画像と 違って、道具も技術も必要ありません。ツール メニューから「SRVC立体地図を作成…」を選 択して実行すると別ウインドウに画像を作成し ます。

SRVCは 傾斜(Slope)、尾根(Ridge)、谷 (Valley)、曲率(Curvature) の頭文字を並べた ものです。



図は基盤地図情報の5mメッシュ標高データを利用した静岡県熱海付近です。

# 描画内容

- ・陸上の色は自動です。海やデータのない領域の色は環境設定の指定に依存します。
- ・湖沼は認識しません。平地として処理します。
- ・画像の中央で縦横の縮尺が一致するように横方向の大きさを調整します。そのため作成範囲を「ウインド ウ領域」とした場合でも横幅はウインドウサイズと異なることがあります。
- ・経緯度線、ユーザデータ、等高線を描画できます。描画内容はそれぞれのデータの設定によります。

# 設定ダイアログ

ツールメニューの「SRVC立体地図を作成...」によりダイ アログを呼び出します。

- 作成範囲 予め設定した矩形領域、ウインドウに表 示中の範囲、読み込んであるデータ領域 全体および画像サイズ指定から選択しま す。画像サイズ指定の場合、ウインドウ の中央が画像の中央となります。 データ領域全体を指定した場合、全デー 夕領域を含む矩形領域が対象領域となり ます。この時東経180度の経線を含むこ とはできないので、この経線の両側に データがあると、360度の範囲が選択さ れます。
- 画像のスケール 標高データの1点を1ドットに表現する のを基準に、何%に拡大/縮小するかを 指定します。画像の横幅は65500ドット を超えられないので、超えるような%値 は指定できません。
- 画像の大きさ 作成範囲が「画像サイズ指定」以外では 自動で設定されます。サイズ指定の場合 はウインドウ中央の地点を画像の中心と

5	SRVC立体地図
作成範囲	<ul> <li>選択済み矩形領域</li> <li>ウインドウ領域</li> <li>全データ領域</li> <li>画像サイズ指定</li> </ul>
画像のスケール	200%
画像の大きさ	横幅 高さ 919 X 750 2.6 MB
傾斜の強調	2
曲率の適用	3 🗘
<ul> <li>経緯度線を描</li> <li>ユーザデータ</li> <li>等高線を 描画し</li> </ul>	画する。 ′を描画する。 レない。 <mark>◇</mark>
画像の四隅の経緯 キ	渡を     コピー     初期値       ャンセル     作成

 $\boldsymbol{A}$ 

して、指定した縦横の大きさで作成します。

傾斜の強調
 傾斜の強調度合いで、全体の色合いが変化します。1から8の範囲で選択できます。大方
 は2から4で良いと思いますが、平地や海洋底などで傾斜が緩い場所を描画したい場合は
 大きな値をを選択します。

曲率の適用 地表面の曲率を適用する時の度合いを指定します。大きい値を指定すると尾根や谷が強調 され、メリハリが出ます。

下図は左から順に1、3、5を指定しています。傾斜の強調は3。



経緯度線を描画する

経緯度線を描画するときチェックします。地図領域と同じ設定で描画します

## 経緯度線に数値を表示する

経緯度線に経度または緯度の値を表示し ます。秒単位がゼロでない場合は表示し

ません。ただし経緯度線間隔の指定が

「1/2/3次メッシュ」の場合は常に表示

します。

フォントを変更するには右側の「A」ボタンをクリックしてフォントパネルを表示しま す。文字の種類、大きさ、色を変更できます。デフォルトはTimesNewRoman-Italic 11 ポイント黒です。

✓ 経緯度線を描画する。

33°30'

経緯度線に数値を表示する。

#### ユーザデータを描画する

ユーザデータがあるとき、描画するかどうかを指定します。どのデータを描画するかは地 図領域の設定と同じになります。

#### 等高線を [描画しない/簡易モードで描画する/ベクターモードで描画する]

等高線の描画を指定します。地図領域に描画した設定と同じ設定で描画します。簡易モー ドは地図領域に描画する時と同じく、ドッ

トイメージです。ベクターモードで描画 する時は線の太さも指定できます。 Illustratorなどの後処理で等高線を線とし て処理したい時は、ベクターモードで描 画します。簡易モードに比べると数十倍 の時間がかかることもあります。

#### 画像の四隅の経緯度を [コピー]

ワールドファイルを作成する代わりに、四隅の経緯度を文字列としてコピーします。ワー ルドファイルを理解できないアプリケーションで、位置を指定するために利用できます。 テキストエディタなどにペーストしてから利用してください。四隅の経緯度を北西、南 西、北東、南東の順に4行で書き出します。DMSか度単位かの形式は環境設定に依存し ます。

[初期値] ボタン ダイアログの設定を初期値に戻します。

等高線を	~	クターモ	Eードで描	歯する。	٥
		主曲線	計曲線	等深線	
線の太る	ŧ	0.6	0.75	0.6	pt.

「作成」ボタンをクリックすることで作成を開始し、別ウインドウに結果を表示します。

# 文字列の追加・編集。

完成した画像上に任意の文字列を追加できます。追加したい場所でコンテクストメニューから文字列を 追加するダイアログを表示します。既存の文字列上でコンテクストメニューを出せば、変更ができます。 ドラッグして移動でき、ウインドウ外までドラッグすると削除できます。

#### 注意事項

1kmや250mの粗い標高データでは良い結果は出ません。10mや5mなど詳細な標高データの使用を想定しています。

地形にもよりますが、200%から400%の拡大率で描画すると、一般に良い結果が得られます。

# 28. 展望図

# 展望図とは

任意の地点から任意の方向を展望した景色を描画しま す。周囲を見回した画像を円筒状の紙に描写する形にな り、360度のパノラマ画像を作成できます。反面、写真と はイメージが違い、下や上を向いたときに歪みが大きく なります。

視点の位置、視線の方向、俯角/仰角、描画角、高さの強調、 かすみ効果、画像の大きさ等を設定できます。色は初期値は地 図領域と同じ「段彩色」ですが、別個に設定できます。

視線の方向と俯角/仰角の代わりに目標の位置を経緯度・標高 で指定することもできます。ユーザデータがあるときは、視点 の位置、目標点を名前で選択できます。

ユーザメモ、経路データを描画できます。描画後の展望図に 任意の文字列を書込めます。ただし、経路データの線種、太さ は反映されず常に実線で描画されます。

テクスチャーマッピングにより画像データを地表面に描画で きます。

指定した時刻の太陽を描画できますが、太陽の位置と陰影処理とは独立なので、影の方向は一致しません。

地球外天体の場合、空や海は描画しません。全て黒くなります。また太陽描画機能も使えません。

#### 画像の投影法

画像の座標は「方位角/高度角」となっています。そのため近距離(ウインドウの下部)は実際に肉眼で見る場合より横方向に拡大されて描画されます。上や下を向いている場合は、画像の中央で縦横比が1になるように、縦方向を拡大します。

## 作成操作

地図領域上でポップアップメニューから開始する場合と、ツールメニューから開始する方法とがありま す。

ポップアップメニューから開始する

地図領域上で視点としたい地点でポップアップメニューから「展望図を作成」を選択します。クリック した地点からマウスカーソルまで矢印と扇型が描かれます。移動距離に応じて扇型の中心角が変化します が、これが展望図の描画角になります。矢印の方向が視線の方向です。適当な地点でマウスをクリックす れば設定ダイアログが表示されます。

マウスがクリックした地点の近傍にあるときは、視線の方向は北とし、描画角は360度となります。 文字列上でポップアップメニューを出したときは、マウスポイントでなく文字列の基準点が視点になり ます。そのとき標高についても文字列の持つ標高値が「地表の標高」に設定されます。

ツールメニューから開始する

前回の設定そのままでダイアログを表示します。初めて呼出したときは、ウインドウの中央が視点になり、視線の方向は北、描画角は60度となります。





描画開始後中止する

描画中に中止したい場合は展望図ウインドウをクローズします。アラートで中止してよいかと問い合せる ので「はい」をクリックします。

# 設定ダイアログ

## 視点を決める

視点の位置を経緯度、標高で指示します。標 高については「地表(または海面、海底面)の

標高+地表からの高さ」または「海面からの高さ」で表します

経緯度 ツールニューからダイアログを呼出したときは前回の値がセットされています。初回は地 図領域中央の経緯度がセットされます。ポップアップメニューから呼出したときはその場 所の経緯度がセットされます。任意に変更できます。変更すると「地表の標高」に変更後 の経緯度地点の標高がセットされます。

地表の標高 初期値として指定した経緯度の標高データから計算された高さが設定されます。あるいは
 ユーザデータの文字列を使用したときはその文字列の持つ標高値が設定されます。ここに
 任意の値を入力できますが、経緯度を動かすと標高データから計算された値が設定されます。

文字列の持つ標高値が設定されていたときは、経緯度変更後元の経緯度に戻すと、標高値 も元の値に戻ります。

#### 地表から/海面から

視点の高さを「地表の標高」+αとするか、直接海抜とするかの選択です。マイナスの値 も指定できますが、標高データの値よりも低く指定すると正しく描画されません。 「高さの強調」を1以外に指定したときはこの視点の高さも「強調」倍されます。

#### 視点を名前で検索

ユーザデータの文字列検索をしてその文字列の持つ経緯度、標高を視点に設定します。 ユーザデータが無くとも設定した地点に名前を付けることができます。その場合設定され た標高値はユーザデータの文字列の場合と同様に働きます。

## 方向を決める

視線の方向 北を 0 度とした東回りの方位

角で指定します。初期値は0 度です。 小数値を指定する場合は直接 数値を入力します。矢印ダイ



ヤルをクリックした場合は整数値になります。「目標を固定」がチェックされているとき は直接には変更できません。視点の位置に連動して変化します。

水平描画角 水平方向の描画角を0.1から360度の範囲で指定します。上下方向は画像サイズから自動 的に決ります。小数値を指定する場合は直接数値を入力します。矢印ダイヤルをクリック した場合は整数値になります。

360度を指定するとグルグル回転するパノラマビューを楽しめます。

俯角仰角が45度以上または-45度以下の時、あるいはステレオを指定しているときは120 度以下に制限されます。

俯角/仰角 視線の上下方向を±60度の範囲で指定します。「目標を固定」がチェックされているときは直接には変更できません。視点の位置に連動して変化します。
 -45度以下の値を指定したときは「水平描画角」は120度以下に制限されます。俯角を(マイナス方向へ)大きく指定すると視点の近傍(ウインドウの下部)は歪みが大きくなります。



#### 目標を名前で検索

ユーザデータの文字列検索をしてその文字列の持つ経緯度、標高を目標に設定します。 ユーザデータが無くとも設定した地点に名前を付けることができます。

チェックされている間は、視点を動かすと「視線の方向」と「俯角/仰角」が再計算され 目標を固定 ます。「俯角/仰角」は目標点が画像の中央と上から30%の範囲に収まるように調整され ます。

#### カラー設定

基本的に環境設定のカラーセットと同じですが、ここでは空の色を指定で きます。

- カラーセット 初期値は「地図ウインドウと同じ」です。メニューに表示 されるカラーセットは環境設定のカラーッセットと同じで す。
- 段彩境界 境界の標高をメートル単位で下降順に指定します。
- カラーボックス 各区分の色を指定します。
- 空の色(上空、地平)

空の色を地平線(水平線)間際と、上空(仰角で60度以 上)の色で指定します。この間でグラデーションを掛けま すが、実際の描画は視点の高さ、仰角、霞効果により調整 されます。距離による霞効果を大きくすると遠距離の地形 表現色は空の色に収斂します。

名前を付けて保存

付けた名前はカラーセットメニューに追加されます。環境 設定のカラーセットメニューにも表示されます。

- 削除 名前付で保存したカラーセットを削除します。
- 別ウインドウで編集

別項の「カラーセットを編集」ダイアログを呼び出して編集できます。

#### 描画条件

最大距離 描画の計算をする距離範囲を指定し 最大距離 ます。最大距離を長くすれば計算時 画像の大きさ 間も長くなりますが、比例はしませ 画質 普通 ん。「目標を固定」にチェックして ✓ 気差を適用する あるとき、「最大距離」が視点から

目標までの距離 +5km より短い場合は、自動的に視点から目標までの距離+5km に設定 します。

80 km 最小距離

600 x 高さ

0.133 (0 - 0.3)

横幅

٢

- 最大距離以遠は水平線まで海として描画します。
- km 単位で描画する最小距離を設定します。Okm を指定すると、実際には 2m となりま 最小距離」 す。視点が高空にあるときなど、近傍を計算する必要のないときに指定すれば高速化でき ます。
- 画像の大きさ 横幅 x 高さ

画像の大きさを画面のドット数で指定します。縦横とも最大65500ドットです。ステレ オを指定しアナグリフ以外の時は横幅は半分となります。画面の横幅よりも大きく指定す ると、ウインドウサイズは画面の横幅となり、スクロールしながら描画します。描画完了 後、ウインドウの大きさは「画像の大きさ」の範囲内で任意に変更できます。画像保存時 の大きさはウインドウサイズでなくここで指定した大きさになります。



0 km

高さを強調

300 ピクセル

1 倍

- 画質 プレビュー、普通、高精細から選択します。距離や画像の大きさによっては時間がかかる ので、プレビューで構図を確認してから、「普通」で作画します。10m以下程度の詳細な 標高データを使用していて、鋭峰や尾根などでギザギザが目立つときに「高精細」を指定 します。また急傾斜地に細かなテクスチャーマップをきれいに描画できないときに「高精 細」を使います。
- 高さを強調 1倍から10倍の範囲で指定します。海面基準なので陸のデータはより高く、海底のデータ はより深くなります。視点の高さも強調倍されます。

気差を適用する 大気差とも言い、空気中の光の屈折による浮き上り効果です。大気の密度が高度によって 変化するために効果が現れます。 指定する値は空気の屈折率に相当します。屈折率を大きくすると遠方が浮き上って見え ます。0.133は1気圧の常温下での値ですが、数千メートルの山上でもそれほど違いはあ りません。局所的な気象条件で蜃気楼的な効果があると0.3を指定した以上の浮き上りも ありえます。

月などの地球外天体の場合は通常オフにしてください。

- 陰影
  - 陰影の強さ 1から5で強さを選択指示します。初期値は3です。
  - 光の方向 八方向から選択します。初期値は東です。
  - 光の入射角 10/30/45/60度から選択です。初期値は45度。低くする と陰影が濃くなる傾向にあります。
- テクスチャーマップを適用する

テクスチャーマップが設定されていれば参照して適 用します。設定は地図領域に対するものを参照しま テクスチャーマップを適用する
 方位目盛りを描画する
 ユーザメモデータを描画する
 ユーザ経路データを描画する

陰影の強さ

光の方向

光の入射角

З

東

45 文 度

- す。
- 方位目盛りを描画する

北を0度として東廻りの方位角を目盛りと度分の数字で描画します。目盛り間隔などは自動です。

画像の上辺に描画しますが、地形で上書されて空が見えないときは消えます。

ユーザメモデータを描画する

ユーザメモデータがあるとき、その表題の文字列を描画します。描画するかどうかは地図 領域に対する設定と同一条件です。ただしマークは描画しません。メモの場所(経緯度、 高さ)が見えるかどうかを判定して見える場合に描画します。メモデータの設定に従った フォント、サイズ、色で縦書描画しますが、描画完了後文字設定を変更できます。後述の 「文字列の移動、変更、追加」の項を参照。

#### ユーザ経路データを描画する

ユーザ経路データがあるとき、その経路および表題、ノードコメントを描画します。それ ぞれ描画するかどうかは地図領域に対する設定と同一条件です。

経路は色は設定どおりですが、線種、太さは無視されます。文字列についてはメモと同様 です。

#### 距離による霞効果を適用する

距離が遠くなるに従って霞効 果が強くなり、最終的に空の 色に収斂します。

月などの地球外天体の場合は通常オフにしてください。

強さ 0から99.9の間で指定します。0は無効果となります。

最小距離 ここで指定した距離以遠に効果を適用します。小数も指定できます。初期値はOkm。

下図は左が「強さ=20」、右が「強さ= 30」



高さ以下は一様に低空色にな

るので、海面や海面近い低地を薄く見せたい時は、下限をマイナス値で指定します。

上限の標高 上限の標高をメートル単位で指定します。10m以上です。

下限の高さ この値以下の標高では地平側の空の色になります。

濃さ 0.1から99.9の間で指定します。大きな値にすると濃くなり雲海のようになります。



左は効果無し、中は上限標高1500m、濃さ90。右図は濃さ98。視点の高さは2420m。

太陽を描画する 視点における指定日時の太陽を描画します。下の「太陽を描画する」の項を参照。 月などの地球外天体の場合は選択できません。

#### 太陽を描画する

1990年1月1日から2099年12月31日の 範囲で指定日時の太陽を描画できます。展 望図の地形表現は地球を真球として計算して います。そのため天文計算による太陽や月の 位置と最大で0.2度ほど横方向にずれてしま います。当プログラムでは太陽や月の位置を

<u>~</u>	太陽を	描画する	5				
	時間帯	日本	標準時		0	GMT +	-9
	時刻	2021/	2/19 17	/:16	♀ の太陽	を描画する	0
	2	€ 分間	隔で、前後	そそれぞれ	0 😳	個描画する	5.
		寺を描画	する。	太陽の色		初期	値

地形に合わせる方向で調整しています。ただし極地方でどのくらいずれるかは検証していません。

太陽の大きさは季節により変動がありますが、当プログラムでは直径が角度で32分固定で描いていま す。地平線近くでの光の屈折による気差は位置計算に考慮していますが、太陽の形は真円のままで描画し ています。

現地の日没時刻あるいは日の出時刻が不明の場合探しや すくするために、指定した時刻の前後に最大10個の太陽 を描画できます。

時間帯

時間帯を選択します。現地近くの時間 帯、グリニッジ標準時、および当プログ ラムを実行している場所の時間帯(シス テムに設定してある時間帯)から選択で 2012-08-13 06:20 +9
2012-08-13 06:15 +9
2012-08-13 06:05 +9
2012-08-13 06:05 +9
2012-08-13 05:55 +9
2012-08-13 05:55 +9
2012-08-13 05:55 +9
305:45 +9
9

きます。後ろのGMT±n は選択した時間帯のグリニッジ標準時からの時差です。視点に一 番近い場所の時間帯が設定されます。

時刻 描画したい時刻を分単位で指定します。初期値は現在時刻です。

n 分間隔で m 個の太陽を描画する

両側にm個の太陽を描画します。m を0としたときは指定時刻の太陽1個だけを描画しま す。

日時を描画する 太陽の脇に日時の文字列を描画します。 形式 2012-07-29 18:35 +9

太陽の色カラーボックスをクリックして任意の色を設定できます。

初期値ボタン 時間帯、時刻をデフォルトに戻し、太陽の描画も1個だけです。

## ステレオ

指定した視点の左右両側に移動して展望図を描画します。 立体感を大きく指定すると左右間の距離が大きくなります。 そのため視点が谷間にあると左右に移動した場合、計算上の

<b>V</b> 7	、テレオ				
I	P行視	0	立体感	2 (標準)	<b>(</b> )

視点が地下になって正しく描画できないことがあります。「水平描画角」は120度以下に制限されます。 タイプ 平行視、交差視、アナグリフから選択します。

立体感 1から5の間でメニューから選択します。

ステレオ展望図(平行視)



初期値ボタン 各設定を初期値に戻します。ただし視点と目標点、目標を固定の設定はリセットしません。目標を固定がセットされているときは視線の方向、俯角/仰角は視点と目標で決定される値になります。

# 視点/目標点の検索ダイアログ

「視点を名前で検索」あるいは「目標を名前で検索」ボタンをクリックすることにより表示されます。 地図領域に表示する設定になっているユーザメモ/経路/領域データの文字列をリストアップします。テーブ ルをスクロールしながら目視で探すか、検索フィールドで文字列の一部を指定して探し出します。テーブル のヘッダ欄をクリックしてソート順を変更できます。選択した行の名称、経緯度、標高が下段のそれぞれ のフィールドにセットされます。

ユーザデータが無くてもこのダイアログは表示でき、名称を持った視点、目標点とすることができま す。

- 名称 テーブルから選択するか、このフィールドに直接入力することができます。
- 経緯度 テーブルから選択するか、任意のアドレスをセットします。

標高テーブルから選択するか、任意の値をセットします。

名称欄で検索 このフィールドに入力した文字列を名称に含むデータのみがテーブルに表示されます。

種類	分類	Lyr	名 称		標高 ~	緯度	経度	
メモ	日本の主な山	0	富士山	「剣ヶ峯」	3,775.5	N 35.21.38	E 138.43.39	
メモ	日本の主な山	4	北岳		3,192.5	N 35.40.28	E 138.14.20	
メモ	日本の主な山	4	穂高岳	「奥穂高岳」	3,190	N 36.17.21	E 137.38.53	
メモ	日本の主な山	4	間ノ岳		3,189.5	N 35.38.46	E 138.13.42	
メモ	日本の主な山	4	槍ヶ岳		3,180	N 36.20.31	E 137.38.52	
メモ	日本の主な山	4	悪沢岳	(東岳)	3,141	N 35.30.03	E 138.10.57	
検索結	検索結果/直接入力 Lyr : レイヤー 名称欄で検索							
名称	( no name )				Q 検	索		
経緯	度 N 35.21.45 E 138.43.50	5.084 0.166	•	標高 3539 m	視点を診	定 キ	ャンセル	設定

## 完成画像の操作

スクロール

スクロールバーはありませんが、スクロールホイールによるスクロールおよびドラッグスクロールがで きます。水平描画角が360度のときは、左右方向には無限にスクロールができます。

#### 自動スクロール

画像の横幅が3000ドット以上の時、自動スクロールが できます。左右の矢印キーを押して右向きまたは左向きに スクロールを開始します。さらに押せば速度を上げたり遅 くしたりできます。あるいは反転します。

360度の時は無限にスクロールし、それ以外では両端で 反転します。

スペースバーでスクロールを止めます。

#### 地点情報表示

- ・画像内でマウスを移動すると、その場所の方位角、俯角/
   仰角をウインドウの左上隅に表示します。
- ・文字列の上にマウスを移動すると、その文字列の基準点の経緯度、標高、視点からの距離を表示します。距離の単位はkm、マイル、海里のいずれかで環境設定に依存します。距離が近いときはメートルかヤードで表示します。
- ・controlキーまたはoptionキーを押しながら地形の上で マウスを動かすと、その地点の経緯度、標高、視点から の距離をマウスポインタの近くに表示します。(右図)

# 画像ウインドウ-7 第二日 第二日



#### 文字列の移動、変更、追加

展望図上に描画された文字列の位置を編集できます。マウスで文字列を選択し、そのまま移動でき、ウ インドウの外まで移動すれば削除できます。また文字列上でポップアップメニューから文字列編集を選択し て文字列、フォント、スタイル、サイズ、色、縦書/横書を変更できます。

展望図上に任意の文字列を追加で書込みできます。任意の場所でポップアップメニューから「文字列を 追加...」を選択します。表示されるダイアログで、文字列、フォントや色などを設定します。書込んだあと は前項の編集もできます。この機能で追加した文字列は、地点情報を持つ場合と持たない場合がありま す。空に追加した場合は地点情報なしで、地形上に追加すれば持つことになります。

# 文字列設定ダイアログ

以下の設定を全ての文字列に適用する

- このダイアログの設定を、展望図上に ある全ての文字列に適用します。
- 縦書 チェックしてあれば縦書、なければ横 書です。
- 引出し線 引出し線の有無を指定します。地点情報を持つ場合は地形上のその地点から、空に追加した文字列は、ポップアップメニューを出した場所から文字列まで引出し線が引かれます。
  - 太さ 引出し線の太さをポイント単位で指定 します。
- 色 引出し線の色を指定します。
- フォント 設定されたフォントを表示していま す。フォントの選択はフォントパネル からです。
- サイズ フォントサイズを直接指定するか、フォントパネルで指定します。
- 文字色 文字色を指定します。

#### 背景を不透明にする

文字列の背景を塗潰します。

背景色 文字列の背景色を指定します。

#### 視点や目標を再設定

文字列や地形上でポップアップメニューを出して以下の操作ができます。

- 目標に設定する ポップアップメニューを出した地点を目標に設定して新しい展望図作成ダイアログを出し ます。
- 視点に設定する ポップアップメニューを出した地点を視点に設定して新しい展望図作成ダイアログを出し ます。

視点に設定してこちらを見る

ポップアップメニューを出した地点を視点に設定し、 今までの視点を目標に設定して新しい展望図作成ダイ アログを出します。

## 地図ウインドウの位置付

文字列や地形上でポップアップメニューを出し、「地図を位置付け る」を選択すると、その地点が地図領域の中央になるように地図領域を 再描画します。

#### 展望図設定条件の表示

展望図ウインドウが再前面にある状態で、「ファイル」メニューから「情報表示」を選択することで設 定内容をパネルに表示します。

表示されたパネルの「この設定でダイアログを開く」ボタンをクリックすると、その展望図を作成したのと同じ設定で作成ダイアログを表示します。カラー設定や、太陽の設定も再現します。

「書出し」ボタンをクリックすることで設定情報をファイルに保存できます。次項参照。

文字列富士山「剣ヶ峯」 ○ 以下の設定を全ての文字列に適用する。 ✓ 縦書 ✓ 引出し線 太さ 1 pt. 色 🔳 ヒラギノ丸ゴ Pro W4 フォント サイズ 14 フォントパネル スタイル 文字色 太字 背景を不透明にする 斜体 影付 背景色 富士山「剣ヶ峯」 キャンセル 設定

男体山

目標に設定する 視点に設定する

地図を位置づける

文字列を追加...

視点に設定してこちらを見る

# 設定情報の書出しと読込み

設定情報をファイルに保存し、後で参照することにより、同じ展望図を後日、あるいは他のユーザが再 現できます。カラー設定や、太陽の設定も含みます。

前項の情報表示パネルで「書出し」ボタンをクリックするとファイル保存ダイアログが表示されるので、場所とファイル名を指定して保存します。ファイル拡張子は .jzpano です。

フィルメニューの「読込む」でこのファイルを選択して読込むと、展望図作成ダイアログを表示します。 ただし標高データを事前に読込んであることが必要です。必要な標高データがあるかどうかはチェックし ません。標高データがない場合は読込んだ設定情報は無視されます。

ファインダーで設定情報ファイルをダブルクリックしたり、アプリケーションアイコンヘドロップしたり、地図領域ヘドロップすることでも読込めます。

# その他

- .標高データが読み込まれていない部分は海として描画します。
- ・画像の座標は「方位角/高度角」となっています。そのため近距離(ウインドウの下部)は実際に肉眼で見 る場合より横方向に拡大されて描画されます。
- ・山名等を描画するときの可視判定には、ユーザデータで標高値を持っている場合はデータが持っている
   標高値を、持っていない場合は経緯度を基に標高データから計算された値を使います。 データが持っている標高値が、標高データから計算した値よりも低い場合は計算値を使用します。
- ・プレビュー以外の場合、空と地形の境界に対し、アンチエイリアシング処理を施します。
- ・画像をTiffまたはJpegで保存するとき、GPS情報を書込みます。内容は視点の経緯度、視点の標高、視線の方向です。

# 29. 3Dムービー

# 概要

Metal2(旧い機種ではOpenGL)を利用して3D地形を回転させたり、リアルタイムに移動する機能で す。3種類のモードがあります。ただしリアルタイム速度では遅すぎるので、実際の10倍から100倍くらい の速度で利用することになるでしょう。

- .回転モード:QuickTimeのオブジェクトムービーのように1点を中心にして回転させます。
- .フライトモード:地形の中を航空機で飛ぶイメージです。
- ・船舶モード:海面(または湖面)を動くことを想定した、高度が一定のモードです。

環境によっては正常に表示できない可能性があります。特にビデオカードが使えるメモリが少ない機種 では、小さいデータ(狭い範囲)でトライしてください。データ編集中のプログレスバーが消えてから3D ムービーウインドウが出るまでに数秒以上かかるようなら、ハードの能力不足です。データ量を少なくして ください。メモリが不足すると背景(空)しか描画できないことがあります。

Metal2を使用するかOpenGLを使用するかは機種によります。Mojaveまたはそれ以降のOSをインストール可能な機種ではMetal2を使用します。 OpenGL を使用する場合は情報表示欄はなく、高度や速度は画像内左上に表示します。

## 機能

#### 共通

- ・選択した範囲のデータをMetal2機能を利用して描画します。
- . ウインドウサイズを任意に変更できます。動作中にも変更できます。
- フルスクリーンモードにできます。
- ・地球の丸みは無視して、平面上に展開しています。
- ・画角を設定できます。動作中に調整できます。
- ・最大見通し距離は、DEMのデータピッチに応じて自動です。
- ・ 視点高度を表示できます。
- . 速度を表示できます。(回転モードを除く)
- ・毎秒の描画回数(フレーム/秒)を指定でき、実際の値を表示できます。
- ・・色は地図領域と同じ段彩色です。陰影の強さと方向は独立に指定できます。
- ・テクスチャーマップは常に適用されます。ただし、標高データも密度より細かな内容は表現できません。
   ・標高および高度の単位をメートルとフィートから選択できます。
- ・速度の単位を km/時、マイル/時、ノット(海里/時)から選択できます。

#### 回転モード

- ・選択した範囲の中心点を目標(回転中心)にして 3Dビューを回転させます。
- ・中心点からの距離、視点の初期高さを指定して開始します。
- ・視点の高さ、回転速度とその方向を動作中に調整 できます。
- ・視点の高度、視線の方向、毎秒の描画回数(フレーム/秒)を情報表示欄に表示します。



視点高度 7350 m,方位角 50 度, 26.0 fps

# フライトモード

- ・航空機で飛んでいるイメージで3Dビュー内を移動 できます。バンクも表現しますが、フライトシミュ レータではないので、操作性や、運動性能などは航 空機とは全く別物です。重力や、空気抵抗なども計 算外です。
- ・左右転回、下降/上昇、速度調節ができます。
- ・地図領域上で、ポップアップメニューからスタート 位置と方向を設定できます。
- ・ツールメニューから直接呼び出したときは、前回の 位置からスタートします。プログラム起動後初めて ^{視点高度 1010 m,進行方向 312 度,速度 100 kph, 30.0 fps}



- の場合は、データ範囲の南辺中央で、高度は3000m、北向きに直進、水平飛行をします。速度は3000 kmh/mph/ノットです。
- ・選択した単位はプログラム終了後も維持されますが、初期速度は単位にかかわらず常に3000です。
- ・進行方向は変えずに、右前方、左前方、前方下を見ることができます。それぞれ進行方向に対し45度の 角度です。
- 霧・霞効果を設定できます。
- ・現在位置を地図上に表示します。また現在高度、進行方向、速度を情報表示欄に表示します。
- .毎秒の描画回数(フレーム/秒)を情報表示欄に表示します。

#### 船舶モード

フライトモードとの差異は次の通りです。

- ・高度は一定で変更できない。
- ・転回時もバンクは無い。
- .視線の高さを0度から20度の範囲で変更できる。初期値は4度。
- 前方下向き表示は無い。

船舶モードは平らな場所(海上または湖上)で起動してください。



# 設定ダイアログ

ツールメニューの「3Dビューを作成…」を選択すると下のダイアログを表示します。地図領域上でポッ プアップメニューから呼び出したときはフライトモード、あるいは船舶モードで表示しますが、回転モー ドも選択できます。

- 3Dムービーを作成するデータの範囲を選択します。地図領域のスケールに関係なく、元 作成範囲 になるDEMの密度でデータを作成します。
- データサイズ 選択したデータの範囲に対するデータサイズを表示します。GPUがサポートする最大バッ ファサイズに対する使用比率が大きいと文字に橙か赤い色をつけて表示します。大きすぎ る時は「実行」ボタンがオフになります。黒い場合でもGPUの性能によっては非常に遅

くなるか、正しく描画できないことがあります。その時はデータ量を少なくしてください。

- 初期画像サイズ 開始時のウインドウサイズを縦横のピク セル数で指定します。実行時に任意に変 更できます。最小は400x300で、最大は スクリーンサイズです。
- 陰影の強さ 陰影の強さを1から5の範囲で選択しま す。
- 光の方向 陰影処理の光の方向を8方向から選択します。強さとも動作中の変更はできません。
- 初期画角 ウインドウ横の画角を10度から120度の 範囲で設定します。動作中に変更できま す。
- 標高の単位 標高の表示単位をメートルかフィートを 選択します。ダイアログ内と、実行時の 表示単位を指定するものです。
- フレーム/秒 毎秒何回描画するかをメニューから選択 します。標準は30です。ここで指定する 値は実際には最大値となります。データ

3Dムービー
選択済み矩形領域         作成範囲       ウインドウ領域         全データ領域
横 縦 データサイズ 3,756 x 2,500 = 9.4 x 100万 データサイズは (横 x 縦) が40 x 100万以内。
初期画像サイズ   横 <mark>  400</mark> × 縦   300
陰影の強さ 3 文 光の方向 南西 文
初期画角 🛛 度 🦷 標高の単位 メートル 文
回転モード ◇ フレーム/秒
目標とする標高 3,542 m
中心表面の標高 3,542 m
視点の位置 (開始時は真南。)
中心からの距離 10,000 m
開始時の高度 6,000 m
キャンセル 実行

が少なければ60フレームを指定してよりスムーズな描画を楽しめますが、データが多くな ると間に合わなくなり、遅くなるとともに描画が乱れることがあります。非力なマックを 使う時は、フレーム数を少なくすれば処理できますが、動きがぎこちなくなります。実行 時、情報表示欄に実際のフレーム/秒が示されるので、遅くなっているようならデータ量 を少なくしてください。

モード選択 回転モード/フライトモード/船舶モードを選択します。地図領域でポップアップメニュー からこのダイアログを呼び出した時はフライトモードか船舶モードが選択されています。

以下回転モード。

- 目標とする標高 回転中心となる場所の標高を、中心点の地表の標高とは別の値を指定したい時設定しま す。富士山のように単独峰の時低い値を指定するとバランスがよくなります。0m未満は 指定できません。
- 中心からの距離 視点の位置を中心からの距離で指定します。最低1000m。実行時は固定です。
- 開始時の高度 視点の高さを指定します。実行時にキー操作で変更できます。最低は100mまたは100 フィートです。
- 以下フライトモード。
- 開始時の位置 開始時の位置を指定します。地図領域上 のポップアップメニューから呼び出した 時はその場所のアドレスが、ツールメ ニューから呼び出した時は前回と同じ開 始アドレスが表示されます。初めて起動 した時および下の初期値ボタンをクリッ クした時は、データ範囲の南辺中央にな ります。

アドレス無し標高データを利用している



時は、経緯度の代わりに次図のように表示します。単位は左 下基準のメートルです。 開始時の海面からの高さを指定します。初期値は3000mで

す。最低は100mまたは100フィートです。

開始時の位置 Y: 5,222,760 X: 1,390,260

地表標高 開始位置の地表の標高を示します。

進行方向 開始時の向きを北を0とした方位で指定します。ポップアップメニューから起動した時は その方向が、ツールメニューから起動した時は前回の値が残ります。初期値は0度。

初期速度 初期速度を設定します。単位を km/時、マイル/時、ノット(海里/時)から選択できま す。初期値は単位にかかわらず1000。

#### 霧・霞効果を入れる

飛行高度

霧・霞効果を入れたい時、1から100の間で指定します。効果を強くすると空の色も白く なります。

初期値ボタン 初期画角、開始時の位置、飛行高度、進行方向、初期速度、霧・霞効果を初期値に戻し ます。高さおよび速度の単位は変わりません。

#### 以下船舶モード。

- 開始時の位置 フライトモードと同じ。
- 視点高度開始時の海面からの高さを指定します。初期値は20m。
- 地表標高 開始位置の地表(海面/湖面)の標高を示 します。
- 進行方向 フライトモードと同じ。

初期速度 初期速度を設定します。単位を km/時、
 マイル/時、ノット(海里/時)から選択で
 きます。初期値は単位にかかわらず100。
 視線の高さ(仰角)を度単位で指定しま

開始時の位置	
N 34.49.21.200 E 138.44.10.659	<ul> <li>○ 視点高度 20 m</li> <li>地表標高 0 m</li> </ul>
進行方向 0 度 視線の高さ 4 度	初期速度 100 ノット ᅌ
✓ 霧・霞効果を入れ・	1弱 効果 強100 る。 10

霧・霞効果を入れる

フライトモードと同じ。

す。初期値は4度。

初期値ボタン 初期画角、開始時の位置、視点高度、進行方向、初期速度、視線の高さ、霧・霞効果を 初期値に戻します。高さおよび速度の単位は変わりません。

# 実行時操作

共通

- ・ウインドウサイズは任意に変更できます。設定されている画角を横幅に合わせて、画像を拡大縮小します。
- ズームボタンをクリックするとフルスクリーンモードに移行します。通常のウインドウに戻るにはEsc キーをクリックします。
- ・'[' キーで画角を大きく(広い範囲を描画)します。 ']' キーで画角を小さく(狭い範囲を大きく描画)し ます。1回押すごとに10%の変化です。最小は10度、最大は120度です。
- · 'a' キーで情報表示欄のオンオフを切り替えます。(OpenGLの場合は画像内に表示します)
- 、スペースキーの押し下げで動作を一時停止します。もう一回押すと再開します。

#### 回転モード

・左右矢印キーで回転速度、方向を調整できます。'/' キーで回転を止めます。

- ・上下矢印キーで視点の高さを上下します。押している間連続で変化します。(OpenGLの時は1回押すご とに5%の変化です) 最低は100m、最高は中心点からの距離の10倍です。
- ・'/' キーで回転を止めている時、横方向のスクロール操作により回転させられます。上下方向のスクロー ル操作で視点の高さを微調整できます。
- ・視点から中心点までの水平距離は動作中固定です。

#### フライトモード

- ・左右矢印キーで左旋回、右旋回します。押している間、旋回速度が変化します。(OpenGLの時は1回押 すごとに変化します。)
- ・上下矢印キーで上昇、下降します。
- ・','(コンマ)キーで減速、'.'(ピリオド)キーで増速します。押している間連続で変化します。(OpenGLの時 は1回押すごとに10%の変化です。)
- ・'/' キーで直進、水平飛行に戻ります。
- ・control+/ キーで上昇/下降角度はそのままで、直進にします。
- ·'c' キーで、進行方向を示す白い十字をオンオフできます。
- ・'s'キーで左前方を、'd'キーで右前方を、'x'キーで前方下を表示します。'e'キーで前方表示に戻ります。

## 船舶モード

- ・左右矢印キーで左旋回、右旋回します。押している間旋回速度が変化します。(OpenGLの時は1回押す ごとに変化します。)
- ・上下矢印キーを押している間、視線を連続的に上下します。0度から20度の範囲です。(OpenGLの時は 1回押すごとに1度ずつ上下します。)
- ・','(コンマ)キーで減速、'.'(ピリオド)キーで増速します。
- ・'/' キーで直進に戻ります。
- ·'c'キーで、進行方向を示す白い十字のオンオフを切替えられます。
- .'s'キーで左前方を、'd'キーで右前方を表示します。'e'キーで前方表示に戻ります。

# ムービーとして保存する

QuickTimePlayerの画面キャプチャー機能を利用して、ムービーファイルとして保存することができます。またシステムの画面収録機能が使えます。

- .3Dムービーを起動後録画開始位置を決めたらスペースバーを押して停止します。
- ・QuickTimePlayerの設定をしてキャプチャーを開始します。あるいはシステムの画面収録機能を設定し ます。
- ・ムービーウインドウをクリックしてからスペースバーを押して再開します。
- ・QuickTimePlayerで不要な部分をカットしてから保存します。システムのの画面収録機能を使用した場合は、収録後ビデオ編集ソフトで不要な部分をカットします。

#### 注意事項

- · 3Dムービーを表示している状態ではプログラムを終了できません。ムービーウインドウを先に閉じてください。
- ・展望図は円筒(または円錐)面に投影しますが、当ムービー機能では平面に投影するので、画角が広くなると違いが大きくなります。また180度に近づくと歪みが大きくなるので120度に制限しています。
- ・データ量が多いとそれだけ計算量も増え、発熱量も増えます。冷却ファンが強烈に回る時は中止するか、
   スペースバーを押して一時停止してください。一時停止中は再描画をしないので発熱が納まります。

# 30. 可視領域の描画

## 可視領域とは

ある地点(山頂など)を、あるいはある地点から見る ことのできる地域を言います。例えば富士山頂を基 準にしたとき、富士山頂を見ることができる地域、 あるいは富士山頂から見ることができる地域になり ます。通常この二つは同じと考えられますが、プロ グラムで計算するときは計算方式上差が出てしまい ます。SimpleDEMViewerでは、目標点を見ることが できる地域として計算します。このとき視点の位置と しては計算された地表の標高に1mの高さを加えてい ます。右図は富士山剣ヶ峰が見える地域を表示したも ので、下図ダイアログの設定内容によります。



## 操作

「ツール」メニューから「可視領域の描 画…」を実行するか、地図ウインドウ上 でポッ プアップメニューを出して「可視 領域の描画」を選択し、ダイアログを出 します。ポップアップメニューから起動 したときは、マウスの位置、あるいは文 字列上でクリックしたときは文字列の基 準点が目標点となります。 メインメ ニューから起動したときは、以前の基準

目標点 富士山「剣ヶ峯」	目標点を名前で(検索)
N 35.21.38.140 標高	3776 m
E 138.43.38.651	可視領域の色 不透明度 50 %
✓ 周囲 3000 m 以内の山体を無視する。	透明 10 50 100 不透明
描画 選択された矩形領域 範囲  ・ ウインドウに表示中の領域	気差を適用する (標準0.133) 0.133 (0 - 0.3)
品質 💽 高速 🗌 高精度	
🗌 海上にも描画する	初期値 キャンセル 描画

点が引き継が れますが、プログラムの起動後最初に実行したときはウインドウの中央を基準点とします。

視点の位置の視判定の目標点を経緯度で指定します。

標高 経緯度で示された目標点の標高を示します。海上ではOmです。任意の値をセットできま すが、入力した値は経緯度を変更するとリセットされ、標高データから計算された値が セットされます。

視点を名前で選択

ユーザデータの文字列検索をしてその文字列の持つ経緯度、標高を目標点に設定します。 周囲 nnn m 以内の山体を無視する

> 富士山の剣ヶ峰を目標点とすると、広い山頂により麓でも見えないと判定されてしまい ます。これを避けるために目標点の周囲の、ここで指定した距離以内の山体を透明なもの として処理します。この範囲内は計算対象外となり、計算時間も短くなります。

描画範囲 あらかじめ設定された矩形領域か、ウインドウ範囲を選択します。

品質「高速」または「高精度」から選択します。通常は「高速」で十分だと思いますが、10m 程度以下の精細な標高データを利用して詳細な確認したい場合などに「高精細」を選択し ます。

気差を適用する 空気の屈折率を指定します。0.0から0.3の範囲で指定できますが、通常は0.133としま す。

# その他

- ・地図領域の再描画やスクロールをしないで引き続き計算をさせると、重ね書きとなります。半透明の指定をした場合、以前の結果と重なった領域はより不透明となります。これを利用して二つの目標点を同時に見ることができる地域を求めることもできます。
- ・計算はある地点を基準にして、見えるか見えないかを判定しています。したがって山頂を基準にして計算 させた場合、その山の近くでは山は見えているのに山頂が見えないということがあります。特に富士山の ように山頂が平らで広い場合この傾向が顕著になります。目標点周囲の山体を無視する機能を使用してこの影響を無くすことができます。
- ・Retinaディスプレイを使用していて倍密度の描画を選択している場合、そうでない場合に比べて可視領域の描画は4倍の時間がかかります。
- ・描画結果を画像として保存したい場合は、保存時に「ウインドウ範囲の保存」を選択し、スケールは地 図領域と同じにします。倍密度描画の場合は72dpiでも144dpiでも保存できますが、そうでない場合は 72dpiの選択が必要です。
- .一時的な描画なので、地図領域をスクロールしたり再描画を指示するとクリアされます。

# 31. 断面図

ユーザ経路データに沿った断面図を作成します。作成後高さの強調や水準線、断面の色などを調整でき ます。経路データが中間の地点に名称を持っていれば、その地点の名称、標高、始点からの距離を表示し ます。地点距離の代わりに、一定間隔の距離目盛を描画することもできます。

#### 作成

ユーザ経路データを予め作成しておいてから「ツール」メニューの「断面図を作成」を実行します。経 路データの一覧表から目的のデータを選択して「作成」ボタンをクリックします。経路に沿った標高値を 拾って新規ウインドウに断面図を表示します。デフォルト設定で作成するので、その後次項のように見え 方を調整します。経路データの地点コメントは断面図にコメント文字列、距離、標高が表示されます。 作成する前には。該当する範囲の標高データは全て読込んでおく必要があります。

# 表示項目と設定

描画範囲	上限、下限を標高値で指定します。(上限ー下限)を基準に画像の高さが決まりま
標高の単位	メートルかフィートを選択します。設定パネル内および断面図内の高さの表記にかか
	わります。
水準線の間隔	10/20/50/100/200/500/1000/2000/5000m/自動から選択するか、任意の値を
	指定します。単位はメートルかフィートです。
高さの強調	水平方向に対し高さの強調を指定します。1/1.5/2/3/4/5/10/20倍から選択します。
断面の色	白(輪郭のみ)、灰色、段彩色から選択指定します。
	灰色の場合標高の高い方が暗く、低い方が明るくなります。
	段彩色の場合グラデーションも環境設定に従います。
断面線の太さ	断面の縁取線の太さをメニューから選択します。無しもあります。
断面線の色	色をカラーボックスで選択します。
表示	下の5項目の表示/非表示を設定します。
水準線	水準線とその標高値
地点名	経路データの持つ地点名をそのまま表示します。
地点標高	地点名を持つ地点の標高を表示します。
距離	地点名を持つ地点の始点からの距離を表示するか、一定間隔での距離目盛を描画する
	か選択します。距離の単位は環境設定に従いkmかmile、nm(海里)です。
経路データ	経路データの各ノードを結んだ線を描画します。色は経路データの設定によります
	が、実線、1ポイントの太さで描画します。
右側を基準に描画	経路データの始点を右端に置いて描画します。
表題	断面図の上辺中央に表示するタイトルを指定します。デフォルトでは経路名が設定さ
	れます。 [A]ボタンをクリックして任意のフォントを設定できます。
再描画	以上の設定で断面図を再描画します。
表示倍率メニュー	自動/200/100/50/20/10/5%から選択します。自動の場合ウインドウの横幅に合わ
	せて自動調整します。

設定パネル 設定パネルの表示/非表示を選択します。

水準線は、最高標高より上には2本だけ描画します。

地点名称が断面と重なる場合に上限を高く設定すると重ならないようにできます。

断面図が完成後、段彩色やグラデーションの設定、あるいは距離の単位を変更して断面図に反映したいと きは「再描画」ボタンをクリックします。

# 画像を保存

設定状態に合わせて画像を保存できます。ウインドウの大きさと無関係に画像全体を保存します。 画像形式はファイル保存ダイアログで選択します。

# その他

標高値の取得間隔は、標高データの1ドットの南北方向の大きさと同じです。10mメッシュのデータなら 10mで、3秒メッシュなら約93mとなります。ただし地図領域が拡大表示されているときはその拡大率に 合わせて取得間隔が短くなります。

各地点間は大円に沿った断面図を描きますが、地球の丸みを無視して描画しています。

経路データが標高値を持っていても使わず、その都度標高データから計算した値を使用します。ただし名前 付地点の標高は、経路データが持つ値です。





# 32. グレースケール画像

標高を白から黒までの(白と黒を含めて)256階調(または65536階調)の灰色(グレー)で表現した 画像で、3Dソフトに取り込んで、三次元の地形(図形)データとすることができます。低地を黒、高地 を白としたり、その逆もできます。

左図が低地が黒で高地が白、右図は その逆です。



## 作成

「ツール」メニューの「グレースケール画像を作成」を実行してダイアログをだします。必要な設定をし て「作成」ボタンをクリックすると、新しいウインドウに画像を表示します。

作成範囲 あらかじめ設定した矩形領域、ウインドウに表示している範囲、読み込んである標高デー タ全体、サイズ指定から選択します。

> サイズ指定の場合はウインドウ中央の地点を画像の中心として、指定した縦横の大きさで 作成します。

- 画像の大きさ 画像の大きさを元画像に対する%値で指定します。画像サイズが縦横それぞれ32767 ドットを超える指定はできません。
- 1画素あたりのビット数

8ビット(256階調)または16ビット(65536階調)を選択します。

グレースケールの範囲

0から最高階調までの範囲を割り当てる標高を設定します。

データの最高最低を利用

描画範囲の最低標高から最高標高の範囲を256または65536階調のグレースケールで表 現します。

データの最高と0mを利用

下限を0mとします。ただしデータの標高値に0m以下の値がある場合、実際の標高値が 下限に使用されます。

次の標高値を利用

下限、上限の標高値を指定します。複数のグレースケールマップを作る場合、それぞれの 階調を合わせたいときに使用します。通常は全体の最低標高および最高標高を指定しま す。データの標高値が指定した範囲を超える場合はデータの最低、最高標高値を使用しま す。

グレースケールの方向

高地を白、低地を黒にするか、その逆にするか選択します。

海以外の場所に x mを加える。

海と陸を明確に分けたい場合、陸地の部分に加える値を指定します。この操作をしない場合、3Dソフトで海岸線が不明瞭になることがあります。

海が単にOmとなっている標高データや、海の情報を持っていない標高データ(ETOPO2 等)の場合すべての場所に加算されるので指定する意味がありません。

陰影をつける 陰影付き画像としたい場合チェックします。

光の方向 陰影処理の光の方向を8方向から選択します。

強さ 陰影の強さを5段階でメニューから選択します。 四隅の経緯度を [コピー]

> ワールドファイルを作成する代わりに、四隅の経緯 度を文字列としてコピーします。ワールドファイル を理解できないアプリケーションで、位置を指定す るために利用できます。テキストエディタなどに ペーストしてから利用してください。四隅の経緯度 を北西、南西、北東、南東の順に4行で書き出しま す。DMSか度単位かの形式は環境設定に依存しま す。



# 文字列の追加・編集。

完成した画像上に任意の文字列を追加できます。追加したい場所でコンテクストメニューから文字列を 追加するダイアログを表示します。既存の文字列上でコンテクストメニューを出せば、変更ができます。 ドラッグして移動でき、ウインドウ外までドラッグすると削除できます。

# 画像を保存する

・作成した画像を保存できます。ウインドウの大きさと無関係に画像全体を保存します。

・16ビット画像の時はTIFFまたはPNGで、8ビットの時は任意の形式で保存できます。

・ワールドファイルを作成できます。またGeoTiffにもできます。

# 33. 図法指定による画像

# 図法画像

世界地図を表現するのにはいろいろな図法が考えられています。SimpleDEMViewerの地図領域の図法 は「正距円筒図法」ですが、いくつかの図法を指定して別ウインドウに画像を作成する機能をサポートし ています。サポートしている図法は正射図法、円錐図法、メルカトール図法、正距方位図法、正積方位図 法、ユニバーサル横メルカトール(UTM)図法、ランベルト正角円錐図法です。

それぞれの図法により、指定した経緯度を中心に、指定した大きさで別ウインドウに作画します。縮尺 は画像の中央が地図領域と同じになります。段彩色や陰影、経緯度線などは地図領域と同一となります。

メルカトール図法とUTM図法以外では画像中心とは別に投影中心を指定できます。この時等距離円の中 心も投影中心となります。また縮尺が地図画像と同じになるのも投影中心です。見たい範囲が投影中心か ら一方に偏っている場合に指定します。この章の最後にサンプル画像があります。

標高データが経緯度区切り、UTMまたはその他の平面座標系であることが必要です。天体データの場合はUTM図法での作画はできません。

# 図法画像を作成する

「ツール」メニューまたはポップアップメニューから 「図法画像を作成」を選択します。現れるダイアログで図 法の選択や画像の大きさの指定ができます。

#### 画像中央の経緯度

ツールメニューから呼び出したときは地 図領域中央の経緯度が、ポップアップメ ニューの時は呼び出したときのマウスポ イントの経緯度がセットされていますが 任意の経緯度を指定できます。

円錐図法、メルカトール図法、UTM図法 の場合は北緯80度から南緯80度の範囲 です。ランバート正角円錐図法では北緯 80度から20度、南緯20度から80度の範 囲です。投影中心を別に指定した場合は この制限はありません。

投影中心を画像の中央とは別にする 投影中心の経緯度

> 任意の経緯度を指定できますが、円錐図 法とランバート正角円錐図法では前項の 制限範囲内です。投影中心は画像内に 入っている必要があります。

> 等距離円の描画を指定した場合、その中 心となります。また縮尺がメインウイン ドウと一致するのもこの地点です。

0 正距方位図法 図法画像を作成 N 20.00.00.000 画像中央の経緯度 E 120.00.00.000 ✓ 投影中心を画像の中央とは別にする。 N 35.40.00.000 投影中心の経緯度 E 139.44.00.000 横幅 高さ × 650 画像サイズ 600 (1.5 MB) ウインドウサイズに合わせる 地球全体を表示するには 4320 ドット ✓ 経緯度線を描画する。 経緯度線に数値を表示する。 A 33" 30' 🗸 ユーザデータを描画する。 0 等高線を 描画しない。 ✓ 等距離円を描画する。 0 間隔 1.000 km 線の色 1.5 ポイント 線の太さ カラーテーブルを表示する。 右下 💲 キャンセル 作成

メルカトール図法およびUTM図法では指定できません。

画像サイズ ウインドウサイズをセットしてあり、縦横とも最大65500ドットまで指定できます。最小はそれぞれ100ドットです。画像の大きさの指定はスケールを変更するものではなく、 描画範囲を指定することになります。
ウインドウサイズに合わせる

画像サイズをメインウインドウの画像領域サイズにセットします。

### 経緯度線を描画する

経緯度線を描画するときチェックします。地図領域と同じ設定で描画します。

経緯度線に数値を表示する

経緯度線に経度または緯度の値を表示します。秒単位がゼロでない場合は表示しません。 ただし経緯度線間隔の指定が「1/2/3次メッシュ」の場合は常に表示します。

フォントを変更するには右側の「A」ボタンをクリックしてフォントパネルを表示しま す。文字の種類、大きさ、色を変更できます。

ユーザデータを描画する

ユーザデータがあるとき、描画するかどうかを指定します。どのデータを描画するかは地 図領域の設定と同じになります。

等高線を [描画しない/簡易モードで描画する/ベクターモードで描画する]

等高線の描画を指定します。地図領域に描画した設定と同じ設定で描画します。簡易モードは地図領域に描画する時と同じく、ドットイメージです。ベクターモードで描画する時は線の太さも指定できます。

Illustratorなどの後処理で等高線を線として処理したい時は、ベクターモードで描画しま す。簡易モードに比べると数十倍の時間がかかることもあります。

### 等距離円を描画する

中心から一定の距離ごとに円を描画するかどうかを指定します

正射図法、正距方位図法、正積方位図法の時指定できます。

標準では画像の中央が等距離円の中心になりますが、投影中心を別に指定した時は、そ こが等距離円の中心になります。

間隔 等距離円の間隔を指定します。単位はkm、マイル、海里から選択できます。

線の色 カラーボックスをクリックしてカラー選択ダイアログを出し、任意の色を指定します。

線の太さ 任意の値でポイント数を指定します。

カラーテ*ー*ブルを表示する。

カラーテーブルを画像内四隅のいずれかに 挿入します。スライダーで大きさを指定し ます。大サイズは縮小印刷するときなどに 使用します。

海の色は常に表示しますが、湖沼の色は環 境設定パネルで「湖沼を描画する」設定に している時だけ表示されます。 右図は北東隅に配置した例。



### SimpleDEMViewer

### 正射図法

指定した経緯度を中心にして、平行投影による画像を 作成します。右図はETOPO1を利用して最小サイズ (5%)で半球を作画したものです。

縮尺は作成画像の中央の縮尺が、地図領域の南北方向 の縮尺と一致します。経緯度線の間隔も地図領域と同じ です。ただし北緯80度より北、南緯80度より南の緯 線は描画しません。

常に北極が上になるように描画します。中心に北極を 指定したときは、中央の経緯度で指定した経度の経線が 下に来るように描画します。南極が中心のときは指定し た経度の経線が上に来るように描画します。

中心からの等距離円を描画できます。



### 円錐図法

北極または南極上空に頂点を持ち、指定した中央緯 線を接緯線とする円錐面に投影します。ただし、中央 の緯度が0度(赤道)の時は、円錐でなく赤道で地表 面に接する円筒に投影します。(心射円筒図法)

右図はGLOBEを利用してロンドンをを中心とした円 錐図法による画像です。10%で作成しています。

中央の緯度は北緯80度から南緯80度の範囲で指定で きます。



## メルカトール図法

指定した経緯度を中心にしてメル カトール図法による画像を作成しま す。右図はETOPO1を利用して最 小サイズ(5%)で作画したもので す。

縮尺は赤道上の縮尺が、地図領域 の縮尺と一致します。

中央の緯度は北緯80度から南緯 80度の範囲で指定できます。



### 正距方位図法

指定した経緯度を中心にして正距方位図法による 画像を作成します。中心点から各地点への距離が正 しくなる図法です。中心からの等距離円も描画でき ます。右図はETOPO2を最小サイズ(5%)でパリを 中心に作成した画像です。黄色の同心円はパリから 2000km毎になっています。

縮尺は作成画像の中央の縮尺が、地図領域の南北 方向の縮尺と一致します。



### 正積方位図法

指定した経緯度を中心にして正積方位図法に よる画像を作成します。各地域の面積が実際の 比率になる図法です。右図はETOPO1を最小サ イズ(5%)で経度0度、北緯40度を中心に作成 した画像です。

縮尺は作成画像の中央の縮尺が、地図領域の南北方向の縮尺と一致します。

中心からの等距離円も描画できます。



### UTM図法

指定した経緯度を中心にしてユニバーサル横メルカトール (UTM)図法による画像を作成します。中心位置が属するゾー ンで描画します。ゾーンの幅は中央経線から両側3度ですが、6 度離れた場所までそのままゾーンの延長として描画します。南北 はそれぞれ北極、南極まで描画します。ただし、中心の緯度は 北緯80度から南緯80度の間にあることが必要です。

右図はゾーン番号30で、中央経線は西経3度です。



## ランベルト正角円錐図法

指定した経緯度を中心にしてランベルト正 角円錐図法画像を作成します。中心緯度で接 する1標準緯線です。形が保たれますが、中央 緯度から南北に離れるにしたがって大きく描 画されます。縮尺は作成画像の中央の縮尺 が、地図領域の南北方向の縮尺と一致しま す。 中央緯度は北緯80度から20度、南緯20 度から80度の範囲で指定してください。

右図はETOPO1を使用し20%で北緯40 度、西経100度を中心に作成したものです。



### 文字列の追加・編集。

完成した画像上に任意の文字列を追加できます。追加したい場所でコンテクストメニューから文字列を 追加するダイアログを表示します。ユーザデータを含めて既存の文字列上でコンテクストメニューを出せ ば、変更ができます。ユーザデータの文字列も含めてドラッグして移動できます。ウインドウ外までドラッ グすると削除できます。メモのマークや、経路データは移動できません。

## 画像ファイルとして保存

任意の形式で画像ファイルとして保存できます。jpegおよびtiffのときは、中心位置をGPSの位置情報として書き込みます。

印刷目的で保存する時や、後処理で加工したい時はpdf形式での保存を推奨します。文字列や経緯度線、 等高線などがベクトルデータとして保存できます。

### 投影中心を別にした画像サンプル

東京中心の正射図法で西南方面を描画しまし た。単純に東京を中心にして描画した場合、大 きな画像を作成して、あとでトリムする必要が あります。

等距離円の距離表示文字は後からの追加で す。



## 34. 画像ウインドウの操作

ここでは各図法画像、鳥瞰図、ステレオ画像、グレースケールマップ、SRVC立体地図について説明します。地図ウインドウ、展望図、断面図についてはそれぞれの項目を参照してください。

### 縮小表示

大きな画像を作成した場合、全体像を確認するために縮小表示ができます。 100%、50%、33.3%、25%、20%、10%、5%、2%、1%を選択できますが、 画像の高さが600ドットを下回った場合、それ以上縮小できません。

· #+[で縮小、 #+]で拡大します。 #+0(ゼロ)で100%に戻ります。

 ・ 右図のようにウインドウ内左上隅にマウスカーソルをもっていくと、ボタンと スライダーを表示します。+(プラス)ボタンで拡大、-(マイナス)ボタンで縮小 します。スライダーでも上記の数値の範囲で選択できます。

・縮小表示中は各図法画像で文字列の追加修正や、移動はできません。

・1%から10%の時はユーザデータ、経緯度線、等距離円は描画しません。

### 情報表示

画像作成時の設定情報などを表示できます。画像ウインドウを選択した状態でファイルメニューから 「情報表示(X+I)」を実行します。

各種画像での例を示します。

ステレ	オ画像 (交差視)
画像の大きさ	2452W x 980H (9.2 MB)
中心の縮尺	1 / 131,000
西北隅の経緯度	N35.34.11.14 E138.24.36.70
東南隅の経緯度	N35.09.41.14 E139.02.10.55
上辺の方向	北
高さの強調	2
陰影の強さ	3
光の方向	北西 閉じる

ユニバー	サル横メルカトール(UTM)図法
画像の大きさ	1200W × 980H (4.5 MB)
中心の経緯度	N35.21.53 E138.43.18
縮尺	1 / 657,000
ゾーン番号	54
中央経度	141度
同心円の間隔	20 km 閉じる

	SRVC立体地図
画像の大きさ	919W x 700H (2.5 MB)
中央の縮尺	1 / 105,000
西北隅の経緯度 東南隅の経緯度	N35.28.38.1 E138.32.22.5 N35.14.38.1 E138.54.54.8
強調	3 閉じる

	鳥瞰図
画像の大きさ	1225W x 508H (2.4 MB)
中心の縮尺	1 / 131,000
西北隅の経緯度	N35.34.08.14 E138.24.31.07
東南隅の経緯度	N35.09.38.14 E139.02.04.91
視線の方向	0度
俯角	25 度
高さの強調	1
陰影の強さ	3
光の方向	北西 閉じる

グレー	-スケール <mark>画像 16 ビッ</mark> ト
画像の大きさ	1200W x 980H (2.2 MB)
中央の縮尺	南北方向 1 / 131,000 東西方向 1 / 134,000
中央の経緯度	N35.21.38.14 E138.43.38.65
描画範囲	3 – 3770 m
スケールの方向	高所が白
海以外に加えた	に高さ 0 m 閉じる



### 画像を保存

- ・保存したい画像のウインドウを選択した状態で、ファイルメニューから「画像の保存」を実行します。画 像全体が保存対象になります。縮小表示していても保存画像は常に100%です。
- ・ファイル保存ダイアログで、保存場所、ファイル名とともに、画像形式とその設定項目を指定できます。 ただし16ビットのグレースケール画像の場合はTIFFまたはPNGです。
- ・文字や線を含む画像を印刷目的で保存する時は pdf を選択してください。それ以外だと文字が鮮明になりません。また、pdfで保存すればAdobe Illustrator等で、編集することもできます。
- ・条件が合えば、GISソフトなどで使用するためにワールドファイルを添付したり、GeoTiffとして保存す ることもできます。次章「画像を保存する」を参照してください。

## 35. 画像を保存する

地図画像(地図領域)、または独立のウインドウに作成した画像をファイルとして保存できます。画像の形式はシステムがサポートする範囲およびPDFから選択できます。ただし16ビットのグレースケール画像の場合はTIFFまたはPNGとなります。経緯度線や文字列を含む画像を印刷目的で保存するときはPDFを 推奨します。

地図画像(地図領域)を保存するとき以外はすべて72dpiです。地図画像の保存では144dpiも選択できます。印刷目的などで精細さが必要な時は、大きな画像を作成して印刷するソフトで縮小することを推奨します。

### 地図画像の保存

地図ウインドウが前面にある状態(縮尺ウ インドウは除く)でファイルメニューから 「画像の保存」を実行すると、保存内容 を指定するダイアログが表示され、地図 画像の保存ができます。

保存範囲
 保存する画像を作成す
 る範囲を、選択済み矩
 形領域、ウインドウ範
 囲、全データ領域、画
 像サイズ指定から選択

します。

画像を保存
保存範囲 画像のスケール 100% ♀
<ul> <li>○ 選択済み矩形領域</li> <li>● ウインドウ領域</li> <li>■像の大きさ 横幅 高さ</li> <li>1000 x 750 28 MB</li> </ul>
<ul> <li>○ 全データ領域</li> <li>○ 画像サイズ指定</li> <li>画像の解像度</li> <li>○ 72 dpi</li> <li>○ 144 dpi</li> </ul>
□ ユーザデータを描画する。
等高線を ベクターモードで描画する。 ᅌ 33° 30' A
主曲線 計曲線 等深線 □ カラーテーブルを表示する。 線の太さ 0.6 0.75 0.6 pt.
<ul> <li>□ 傾斜による塗り分け描画をする。</li> <li>□ ワールドファイルを作成する</li> </ul>
画像の四隅の経緯度を コピー キャンセル 保存へ

画像サイズ指定の時は、画像の大きさを縦横のポイント数で指定します。中央はウインド ウの中央に一致します。

- 画像のスケール 標高データをそのまま表示する大きさが100%で、拡大縮小を指定します。ダイアログを 呼び出したときは、地図ウインドウと同じスケールが設定されています。
- 画像の大きさ 保存範囲を「画像サイズ指定」とした時、縦横サイズを指定します。そのほかの時は自動 です。次項で144dpiを指定した時は、実際の画像サイズはここで指定した値の2倍のピク セル数になります。最大サイズは縦横とも65500ドット以内で、144dpiの時はその半分 です。
- 画像の解像度 Retina画面の時、Retinaイメージのウインドウと同じ解像度にしたい時は144dpiを選択します。144dpiを選択した時は画像サイズは縦横共に2倍になります。文字サイズや線の 太さも2倍となり、地形との相対的な大きさがウインドウと同じになります
- ユーザデータを描画する

ウインドウに描画されている種類のユーザメモ/経路/領域データを描画します。

等高線を [描画しない/簡易モードで描画する/ベクターモードで描画する]

等高線の描画を指定します。地図領域に描画した設定と同じ設定で描画します。簡易モー ドは地図領域に描画する時と同じく、ドットイメージです。ベクターモードで描画する時 は線の太さも指定できます。

Illustratorなどの後処理で等高線を線として処理したい時は、ベクターモードで描画しま す。簡易モードに比べると数十倍も時間がかかることがあります。

### 傾斜による塗り分け描画をする

ウインドウに描画したのと同じ設定で描画します。地図ウインドウに傾斜による塗り分け が描画されており、ウインドウ範囲の保存で縮尺も地図ウインドウと同じ設定にしたと きは、当項目をチェックしなくてもそのまま保存されます。

ワールドファイルを作成する

後節参照。

経緯度線に数値を表示する

経線、緯線それぞれに経度または緯度を表示しま す。表示は上辺及び左辺のみです。右側の[A]ボタン をクリックしてフォントパネルを表示しフォント、 サイズ、文字色を変更できます。デフォルトは Times-New Roman Italic 11ポイント黒です。分未 満がある緯度、経度は表示しません。南緯や西経の マイナス符号も表示しません。



カラーテーブルを表示する

カラーテーブルを画像内四隅のいずれかに挿入します。スライダーで大きさを指定しま す。大サイズは縮小印刷するときなどに使用します。

海の色は常に表示しますが、湖沼の色は環境設定パネルで「湖沼を描画する」設定にして いる時だけ表示されます。

### 画像の四隅の経緯度を [コピー]

ワールドファイルを作成する代わりに、四隅の経緯度を文字列としてコピーします。ワー ルドファイルを理解できないアプリケーションで、位置を指定するために利用できます。 テキストエディタなどにペーストしてから利用してください。四隅の経緯度を北西、南 西、北東、南東の順に4行で書き出します。DMSか度単位かの形式は環境設定に依存し ます。

地図領域に描画済の可視マップを保存したいときは、「ウインドウ範囲」を選択し、縮尺も地図領域と 同じにし、72 dpi を選択する必要があります。ただしRetinaディスプレイを使用していて、倍密度描画を 指定している時は、144dpiを選択します。

### その他の画像ウインドウ

保存したい画像のウインドウを前面に出した状態で、ファイルメニューから「画像の保存」を実行しま す。画像全体が保存対象になります。ファイル保存ダイアログで、保存場所、ファイル名とともに、画像形 式とその設定項目を指定できます。ただし16ビットのグレースケール画像の場合はTIFFまたはPNGです。 前節も参照してください。

### ワールドファイルを作成する

ArcInfoなどのGISソフトと連携させるためにワールドファイルを作成することができます。また当プロ グラムでテクスチャーマップとするときに参照します。地図画像の保存の時は保存ダイアログで、それ以外 では環境設定パネルで作成するかどうかを設定します。

作成できるのは以下の3条件を満たしてている場合です。

*経緯度区切りまたはUTMおよびその他の平面座標系の標高データを使用している。

*地図画像またはグレースケール画像を保存する場合、あるいはステレオのアナグリフ画像で、北向き、一 方の画像を垂直視する設定にしてある場合。

*画像の形式が TIFF、JPEG、JPEG2000、PNG、BMPのいずれかである。

内容はBIL形式DEMに添付されるblwファイルと同様で、各行に1個の小数を以下の通り設定します。

第1行 東西方向のデータピッチを度単位、またはメートル単位で設定。

第2行 0.0

第3行 0.0

- 第4行 南北方向のデータピッチを度単位、またはメートル単位で設定。常にマイナス値。
- 第5行 データの左上隅ピクセル中央の経度を度単位、またはメートル単位の座標値で設定。西経 はマイナス。
- 第6行 データの左上隅ピクセル中央の緯度を度単位、またはメートル単位の座標値で設定。南緯 はマイナス。

ワールドファイルの拡張子は画像形式に対応して次のようになります。名称はは画像ファイルと同じで す

TIFF - tfw、JPEG - jgw、JPEG2000 - j2w、PNG - pgw、BMP - bpw

(注) GISソフトがどのワールドファイルをサポートしているかは個々に異なり、tfw 以外は一般的ではないようです。

### GeoTiffとして保存する

経緯度区切りまたはUTMおよびその他の平面座標系の標高データを使用している時、地図画像保存で保 存形式にTiffを指定すると、自動的に経緯度情報をファイル中に埋め込みます。ワールドファイルを認識で きないGISソフトなどで利用が簡単になります。

グレースケール画像、SRVC立体地図、あるいはステレオのアナグリフ画像で、北向き、一方の画像を正 射視する設定にしてある場合にも、Tiffを指定するとGeoTiffとして保存します。

常にWGS84として書き込むので、それ以外の標高データを利用している時は利用時に問題ないか注意してください。

### **GPS情報を書込む**

以下の画像をjpeg、tiffまたはpngで保存する場合、自動的に画像中心の経緯度をGPS情報として書込みます。

地図画像、鳥瞰図、ステレオ画像、グレースケールマップ、SRVC立体地図、正射図法、円錐図法、 メルカトール図法、正距方位図法、正積方位図法、UTM図法、ランベルト正角円錐図法

展望図をjpeg、tiffまたはpngで保存する場合次の情報を自動的に書込みます。 視点の緯度経度、海面からの高さ、視線の方向。

# 36. データを削除

読込み済みの各種データをメモリから削除します。ディ 〇〇〇 ● データを削除 スクに保存されているデータはそのままです。

「ファイル」メニューの「データを削除…」で右のダイ アログを表示します。

表示される項目は以下のものですが、ダイアログには実際に存在するデータだけがリストアップされます。

- .標高データ
- ・メモデータ
- . 経路データ
- . 領域データ
- ・ テクスチャーマップ

	「すべて選択
データの種類	選択
BIL(float) 0.4 sec	$\checkmark$
▶メモデータ	
▶経路データ	
テクスチャーマップ	
*=>+==	20184

標高データ:

標高データの種類ごとに選択し、削除できます。個別のファイルを選択することはできません。 データ間隔の狭い順に表示されます。

ユーザデータ:

メモ、経路、領域の順に表示されます。それぞれの全部あるいは分類毎に選択削除できます。 新規作成した、あるいは編集したデータがあり、未保存の時は警告メッセージが出ます。 個別のデータを選択して削除したいときはユーザデータの一覧編集ダイアログを使用します。

テクスチャーマップ:

読込まれている全てのテクスチャーマップを削除します。 個別のファイルを削除したい場合はテクスチャーマップダイアログを使用します。

「すべて選択」ボタンで全てを削除対象にします。X+Aを割り当ててあります。

# 37. メニュー構成

### メインメニュー

SimpleDEMViewer

- ・SimpleDEMViewerについて aboutダイアログを表示します。
- ・環境設定... 環境設定ダイアログを表示します。
- ファイル

・読込む...

- 標高データまたはユーザデータを読込みます。
- テクスチャーマップダイアログの表示中は、テクスチャーマップに使用す る画像ファイルを読み込みます。
- ・閉じる ウインドウを閉じます。
- ・データを削除... 標高データ、ユーザデータをメモリから削除します。
- ・画像を保存... 地図領域や画像ウインドウの内容をファイルに保存します。
- ・ユーザデータを保存... ユーザデータをファイルに保存します。
- ・作業状態を保存... ファイルの読み込み状態、地図の表示状態その他をいつでも再現できるように名前を付けて保存します。
- ・保存状態を読込む サブメニューに、保存されている名前がリストアップされるので、選択し て作業状態を復元します。
- ・標高データを書き出す... 指定範囲を新たな標高データファイルとして作成します。
  - 平面座標系を管理... 世界各地のローカルな平面座標系の設定と管理を実行します。
- ・カラーセットを管理... 名前を変更、メニューの順序を変更、削除、選択したカラーセットをファ イルに書出します。
  - 読込済みの標高データの情報、あるいは画像ウインドウの情報を表示しま す。

編集 テキスト編集関連以外では次のものがあります。

・取消す

・情報表示

- ・やりなおす
- ・カット

- ・ペースト 経緯度コントロールへ経緯度をペーストします。
- ・削除
- ・すべてを選択
- 表示

・再描画	地図領域を現在の設定で再描画します。
・拡大	地図のスケールを1段階大きくして再描画します。
・縮小	地図のスケールを1段階小さくして再描画します。

- スケール
  - ・2000%~5% 地図のスケールを変更して再描画します。
- ・ その他(nn%)... 地図のスケールを指定して再描画します。
- 基準緯度を現在の位置に設定

現在の地図領域中央の緯度を基準緯度として設定します。

- ・ウインドウサイズ... 地図領域の大きさをポイント数で指定します。
- サイドバーを表示する(隠す)

サイドバーを表示します。(あるいは隠します) ・縮尺を表示する(隠す) 縮尺パネルを表示します。(あるいは隠します) ・縮尺を縦(横)にする 縮尺の縦横を切替えます。 検索と移動 ・文字列検索... ユーザデータの文字列を検索して地図領域の中央になるように地図を再描 画します。 同じ条件で次の文字列を検索します。 ・次を検索 経緯度指定で地図の位置付け、再描画をします。 ・指定アドレスへ移動... ユーザデータ ・表示設定... ユーザデータの表示/非表示を分類/レイヤーごとに設定します。 ユーザデータを一覧表示し、複数のデータを一括変更、また個別の編集が ・一覧編集... できます。 テキスト形式のユーザデータを読み込む… テキスト形式のユーザメモ/経路/領域データを読み込みます。 メモ/経路/領域データの分類毎の属性の初期値を設定します。また分類の ・初期設定… 追加削除を実行できます。 ツール ・テクスチャーマップを設定... テクスチャーマップとして利用する画像を読込み、位置情報等を設定しま す。 ・矩形領域の設定/解除... 矩形領域を経緯度で設定します。あるいは設定を解除します。 ・最低/最高標高を探索... 指定した範囲の最高または最低標高の場所を探します。 ・等高線を描画... 地図領域上に等高線を描画します。 ・傾斜による描画... 地図領域上に傾斜度合による色分けで描画します。 ・可視領域を描画... 地図領域上に可視領域を描画します。 ・鳥瞰図を作成... 鳥瞰図を作成します。 ・展望図を作成... 展望図を作成します。 展望図の視点、目標点情報をクリアし、その他の情報を初期値に設定しま ・展望図情報をクリア す。 ・ステレオ画像を作成... ステレオ画像を作成します。 断面図を作成します。 ・断面図を作成... ・図法指定で画像を作成... 正射図法/円錐図法/ メルカトール図法/正距方位図法/正積方位図法による 画像を作成します。 ・グレースケール画像を作成... グレースケール画像を作成します。 SRVC立体地図を作成... SRVC立体地図を作成します。 ・3Dムービーを開始... 3Dムービーを開始します。 ・湖沼データを作成… 湖沼データを作成/更新します。

ヘルプ

・オンラインマニュアル	デフォルトのウエッブブラウザ(safariなど)で、品川地蔵のウエッブサイト
	にあるpdfマニュアルを表示します。インターネットに接続されていること
	が必要です。
SimpleDEMViewer ヘルプ	HelpViewerによりFAQその他を表示します。

### 地図領域のポップアップメニュー

・この場所を

(いずれもインターネットにアクセスできることが必要です)

SimpleDEMViewer

- ・・マップ.appで表示 Appleの「マップ」アプリケーションを呼出して場所を表示します。(OS X 10.9以降) ・・Googleマップで表示 safari等のブラウザを呼出して、Googleマップを表示します。 ・インスペクターを表示 標高データインスペクターを表示します。 ・矩形領域を選択 矩形領域を選択します。 ・経緯度をコピー クリックした地点の経緯度をクリップボードへコピーします。 ・移動 指定位置がウインドウの中央になるように再描画します。 ・スケール スケールを変更し、指定位置がウインドウの中央になるように再描画しま す。 · · 2000%~5% メニューから選択して縮尺を指定します。 ・・その他(nn%)... %数値で縮尺を指定します。また何分の1といった縮尺や、画面の1ピクセ ル(あるいはcm/inch)当たりの距離で指定できます。 縮尺を1段階大きくします。指定位置がウインドウの中央になります。 ・拡大 ・縮小 縮尺を1段階小さくします。 指定位置がウインドウの中央になります。 ・ユーザデータ ・・メモを作成… メモデータを作成します。 ・・経路を作成... 経路データの作成を開始します。 ・領域を作成… 領域データの作成を開始します。 ・展望図を作成... この地点を視点にして展望図作成動作を開始します。 ・展望図の目標に設定 この地点を展望図の目標点に設定します。 ステレオ画像を作成 この地点を中心にしてステレオ画像を作成するダイアログを表示します。 ・3Dムービーを開始... 3Dムービーを開始します。 ・可視領域を描画... この地点を可視領域の目標に設定して作成ダイアログを表示します。
- ・図法画像を作成...
- 正射図法/円錐図法/メルカトール図法/正距方位図法/正積方位図法による 画像を作成します。 ット
- ・矩形内の全セルに nnn をセット
  - 標高データインスペクタで、矩形領域内の全セルに同一の値をセットしま す。

### 展望図のポップアップメニュー

目標に設定する	この地点を展望図の目標点に設定します。
視点に設定する	この地点を展望図の視点に設定し、展墓図ダイアログを表示します。
視点に設定してこちらを見る	この地点を展望図の視点に設定し、現在の視点を目標点に設定して展墓図
	ダイアログを表示します。
地図を位置づける	この地点が地図領域で中央になるように地図を再描画します。
文字列を追加(編集)	任意の文字列を書込みます。あるいは既存の文字列を編集します。

# 38. ASバージョンの制限事項

Mac App Store にて公開する条件として、Sandbox化する必要がありますが、そのため特にファイル関係で制限がきつくなります。当プログラムでは下記に列記した内容がSimpleDEMViewerに対して、機能、操作上の制限事項となります。

- ・国土地理院の「数値地図5m/2mメッシュ(標高)」及び「数値地図10mメッシュ(火山標高)」はサポート対象外です。(ファイル拡張子が.lem のもの)
- · SDTS と JAXA ALOS 標高データはフォルダを指定して読む必要があります。
- ・GDEMバージョン3では、上位フォルダを指定して読み込んだ時のみ海のデータを処理できます。
- GeoTiff や netCDF および PDS DEM は、オープンパネルの時点では標高データかどうかを判断できないので、読み込んだ後判断します。またbil形式標高データも、ユーザが選択した後でないとhdrファイルがあるかどうかをチェックできません。
- フォルダ指定した時、中に含まれるエイリアスファイルは読み込むことができません。直接エイリアス
   ファイルを選択すれば読むことができます。
- ・テクスチャーマップとして国土地理院の地形図を読み込む場合、管理ファイルが正しい場所にあっても読むことができないので、一般の画像ファイルとして処理します。
- ユーザメモデータがポイントする画像ファイルが、メモデータライブラリ以外にある場合画像表示ができません。新規に作成した場合は、プログラムを終了するまでは表示可能です。
- . 地図ウインドウを閉じると終了動作をします。